

陸前高田市文化財報告第11集

# 中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅲ

1987年3月

陸前高田市教育委員会

# 中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅲ

## 発刊にあたり

国指定史跡中沢浜貝塚の範囲確認調査は、本年度で第3年次となりました。これまで貝塚の丘陵南北の両斜面に、縄文時代の前期中葉～晚期中葉頃の濃厚な貝層が保存状態も良く分布することなどが確認され、かなり以前から漁撈生活が盛んに営まれていたことが明らかにされております。

中沢浜貝塚には、まだまだ貝塚を営んだ人々の貴重な資料が豊富に砂中深く埋もれている可能性があり、それらは今後の調査・研究が進むにつれ、次々と解明されて新たな発見を私達に提供してくれることと思っております。

このように、貝塚は先人の築いた漁撈文化を知るうえで貴重な宝庫であり、これらを保存し後世に伝え、更に当市の教育文化の発展に活用されることが大いに期待されております。

本書は昭和61年度第3年次中沢浜貝塚調査の成果をとりまとめたものでありますが、より一層貝塚の内容等について、地域の方々のご協力、ご理解いただくことを願うとともに、研究者の方々にもご活用いただき、ひいては文化財保護思想の普及啓蒙にお役に立てれば幸いです。

この調査に際しましては、常にご指導、ご協力をいただいている県教育委員会文化課と土地所有者、耕作者の方々並びに作業に従事して下さった多くの方々、また学問的見地からご教示を賜りました関係者各位に対し、深く感謝申し上げます。

昭和62年3月31日

陸前高田市教育委員会

教育長 大澤 太郎

## 例 言

1. 本書は国庫及び県費補助を受け、岩手県陸前高田市広田町字中沢浜に所在する国指定史跡中沢浜貝塚の第3年次遺跡範囲確認調査の成果をまとめたものである。また、本書では出土資料に関する鑑定結果等を収録している。
2. 調査は初年度より陸前高田市教育委員会が主体となり、陸前高田市教育委員会社会教育課が担当している。なお、調査期間、調査体制は次のとおりである。

調査期間 昭和61年6月11日～10月1日

団 長 陸前高田市教育委員会教育長 大澤太郎

総 括 陸前高田市教育委員会社会教育課長 菅原昭雄

事 務 局 陸前高田市教育委員会社会教育課長補佐 佐々木徹朗

調 査 員 陸前高田市教育委員会社会教育課職員 佐藤正彦、蒲生琢磨

調査補助員 吉田テイ子、佐藤トモ子、吉田秋恵、藤井雪子、村上恵子、臼井勇一、  
久保和士（名古屋大学学生）、熊谷賢（東北学院大学学生）

整理補助員 金君子、畑山園枝、伊藤けい子、荻原幸子、戸羽香久子、伊藤祥子、小泉仁子

3. 調査及び整理に際しては、次の方々のご指導、ご助言を賜った。（順不同）

岩手県教育委員会文化課 相原康二氏 札幌医科大学助教授 百々幸雄氏

岩手県立広田水産高等学校教諭 遠藤勝博氏 名古屋大学助教授 渡辺誠氏

国立歴史民俗博物館助教授 西本豊弘氏 佐藤地質工学研究所 佐藤二郎氏

岩手県立博物館専門学芸員 小田野哲憲氏 熊谷常正氏

4. 石器等の石材鑑定は佐藤地質工学研究所佐藤二郎氏にお願いした。
5. 鉄製釣針のソフティクス写真及び実測図は名古屋大学助教授渡辺誠氏、同大学学生久保和士氏のご協力をいただいた。
6. 動物遺存体の種同定は国立歴史民俗博物館助教授西本豊弘氏、東京大学学生新美倫子氏のご指導を賜り、整理及び一覧表の作成等に際しては東北学院大学学生熊谷賢氏、東北大学学生高橋一成氏の両名に手伝っていただいた。
7. 土色は「新版標準土色帖」（小山・竹原・1973）に従っている。
8. 本文の出土資料、まとめ等を佐藤が、調査の成果等を蒲生が分担執筆し、佐藤が編集した。なお、弥生土器に関しては岩手県立博物館専門学芸員小田野哲憲氏にご教示をいただいた。
9. 鑑定結果等について収録したものは次のとおりである。  
百々幸雄・石田肇「中沢浜貝塚出土人骨」
10. 動物遺存体などの計測値表、遺物写真等は、紙面の都合上大部分割愛した。

目 次

序	ページ
例 言	
目 次	ページ
I はじめに	1
II 調査の成果	2
1、D20・30、E30地区	2
① Dh29・30	6
a、基本層序	6
b、出土遺物	7
◦土器・土製品	7
◦石器・石製品	10
◦骨角器	11
◦自然遺存体	12
ハンドオーガーによるボーリング調査 について	20
② Dj37・38、Eb37	24
a、基本層序	24
b、出土遺物	26
◦土器・土製品	26
◦石器・石製品	28
◦鉄製品・古銭	29
◦骨角器	30
◦自然遺存体	31
2、E40・F40地区	39
① Ea40・Ed40	39

挿 図

第1図 大設定図	3
第2図 グリッド設定図	4
第3図 Dh29・30区貝層・土層の拡がり及び セクション	6
第4図 Dh29・30出土土器	15
第5図 Dh29・30出土土器・土製品	16
第6図 Dh29・30出土石器	17
第7図 Dh29・30出土石器・石製品、骨角器	18
第8図 Dh29・30出土骨角器	19

a、基本層序	39
b、出土遺物	40
◦土器・土製品	40
◦石器・石製品	42
◦骨角器	42
◦自然遺存体	42
② Eh40・Fa41	46
a、基本層序	46
b、出土遺物	47
◦土器	47
◦土製品	50
◦石器・石製品	55
◦骨角器	56
◦自然遺存体	57
III まとめ	79
1、層の拡がり	79
2、出土遺物	79
(1)土器	79
(2)土製品	84
(3)石器・石製品	84
(4)鉄製品・古銭	84
(5)骨角器	84
(6)出土動物遺存体種名一覧表	84
(7)中沢浜貝塚出土人骨	89

目 次

第9図 各区の土層柱状図	21
第10図 Dj37区貝層検出状況及び断面柱状図	25
第11図 Dj37・38、Eb37出土土器	33
第12図 Dj37・38、Eb37出土土器・土製品	34
第13図 Dj37・38、Eb37出土石器	35
第14図 Dj37・38、Eb37出土石器・石製品	36
第15図 Dj37・38、Eb37出土鉄製品・骨角器	37
第16図 Dj37・38、Eb37出土骨角器	38

第17図	Ea40・Ed40出土土器・土製品	44	第28図	Eh40・Fa41出土土器	69
第18図	Ea40・Ed40出土土器・石製品等	45	第29図	Eh40・Fa41出土土器	70
第19図	Eh40・Fa41出土土器	60	第30図	Eh40・Fa41出土土器	71
第20図	Eh40・Fa41出土土器	61	第31図	Eh40・Fa41出土土器・土製品	72
第21図	Eh40・Fa41出土土器	62	第32図	Eh40・Fa41出土土器	73
第22図	Eh40・Fa41出土土器	63	第33図	Eh40・Fa41出土土器	74
第23図	Eh40・Fa41出土土器	64	第34図	Eh40・Fa41出土土器・石製品	75
第24図	Eh40・Fa41出土土器	65	第35図	Eh40・Fa41出土土器	76
第25図	Eh40・Fa41出土土器	66	第36図	Eh40・Fa41出土骨角器	77
第26図	Eh40・Fa41出土土器	67	第37図	Eh40・Fa41出土骨角器	78
第27図	Eh40・Fa41出土土器	68			

### 写真図版目次

写真1	Dh29・Dh30調査前の状況・同発掘作業風景	91	写真8	Ea40・Ed40調査状況	98
写真2	Dh29・Dh30貝層及び遺物検出状況、Dh29遺物出土状況	92	写真9	Eh40・Fa41調査前の状況	99
写真3	Dh30遺物出土状況	93	写真10	Eh40調査状況・Fa41発掘作業風景	100
写真4	Dj37・Dj38・Eb37調査前の状況、Dj37調査状況	94	写真11	Eh40発掘作業風景、遺物出土状況	101
写真5	Dj38・Eb37調査状況	95	写真12	Eh40ウシ上顎歯出土状況、同土器出土状況	102
写真6	Dj37ボーリング坑からの貝層検出状況・Dj37貝層及び遺物検出状況	96	写真13	Fa41遺物出土状況	103
写真7	Ea40・Ed40調査前の状況、埋戻し作業風景	97	写真14	Fa41土器出土状況	104
			写真15	Dh29出土人骨	105
			写真16	鉄製釣針・ウシ上顎歯	106

### 表

第1表	Dh29・30 5層 混貝サンプル節分析集計表	8	表		31
第2表	Dh29・30出土土器一覧表	8	第13表	Ea40・Ed40出土土器・土製品一覧表	41
第3表	Dh29・30出土土器一覧表	9	第14表	Ed40出土土器・石製品一覧表	41
第4表	Dh29・30出土骨角器一覧表	11	第15表	Ea40・Ed40出土骨角器一覧表	41
第5表	Dh29・30出土自然遺存体一覧表	12	第16表	Ea40・Ed40出土自然遺存体一覧表	42
第6表	発掘区別層対応表	20	第17表	Eh40・Fa41出土土器・土製品一覧表	51
第7表	発掘区別層位表	22	第18表	Eh40・Fa41出土土器・石製品一覧表	55
第8表	Dj37・38、Eb37出土土器一覧表	27	第19表	Eh40・Fa41出土骨角器一覧表	57
第9表	Dj37・38、Eb37出土土器一覧表	29	第20表	Eh40・Fa41出土自然遺存体一覧	58
第10表	Dj37・38、Eb37出土鉄製品・古銭	29			
第11表	Dj37・38、Eb37出土骨角器一覧表	30			
第12表	Dj37・38、Eb37出土自然遺存体一覧				

## I、はじめに

本調査は、国指定史跡中沢浜貝塚の保存管理計画策定を目的として行なわれている遺跡範囲確認調査である。昭和59年度調査を初年度とする5ヶ年計画の継続事業で、本年度は第3年次にあたる。調査費は、国庫及び県費補助を受け300万円である。

既に、2件の事前の緊急発掘調査を含めた第1年次、第2年次調査が終了し、調査の成果は、「中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅰ」（昭和59年度）、「同Ⅱ」（昭和60年度）として報告されている。

これらの調査では、主に中沢浜貝塚の北東側を中心とした丘陵部及び明治末期以降野中完一、小田島祿郎らの調査によって、人骨などの出土地点として知られる南側斜面部の最南端が対象に行なわれ、その結果、北東側では縄文前期中葉～中期末頃の、南端斜面においては晩期中葉頃の貝層の分布及び形成状態などが判明し、更に晩期中葉頃の貝層下からは、同時期の墓域を裏付ける埋葬甕棺2個体のほか、埋葬犬などが伴出することが知られた。

しかしながら、中沢浜貝塚の丘陵部緩斜面部の大半は宅地化が進み削平・盛土などが著しく、また厚い砂層が堆積するなどの現況にあり、貝層などの分布範囲・規模及び遺構などは、まだ明確には知られていない。

今回の調査では、これらの成果を踏まえ、晩期中葉頃の貝層などの分布が予想される南側斜面部の東側下位から上位にかけての未調査区を対象とし、貝殻などの遺物の散布状況などから宅地化の及んでいない畑地に残存範囲を想定し、発掘区を選定した。

グリッド設定及び調査の方法に関しては、第2年次調査に準じて行い、グリッド名は、この範囲確認調査の便宜上作成した大設定図に従い、南北方向はアルファベットで、東西方向はアラビア数字で表わした。また、調査方法は、グリッド発掘及び検土杖とハンドオーガーを併用したボーリング調査によった。

ボーリング調査の実施にあたっては、自然湧水などのため調査を中断した発掘区の下層の堆積状態等を把握するために行い、サンプリング土層として得られた観察結果は、各区の基本層序として模式的に柱状図に示した。

貝層などの分布が確認された発掘区においては、精査時点での最終的な拡がり状況などを図示し、貝層サンプリング及び伴出した人工遺物、自然遺物に関しては、調査の目的から出土状況などを記録したうえで抽出し、形成時期などの資料に供した。

遺物包含層中からの出土遺物に関しては、各区の包含層の拡がり、層の対応関係などを把握しながら、出土状況に応じて記録し取り上げた。

出土遺物、伴出遺物には、土器、土製品、石器、骨角牙製品、貝製品、鉄製品のほか、動物遺存体などがあり、これらの報告に際しては、各区の調査状況の中で記述している。また、外部に依頼した出土資料等の鑑定結果についても収録している。

この範囲確認調査は、昭和61年6月11日に始まり、昭和61年10月1日で終了している。この期間途中、7月2日から11月11日まで、上水道本管工事に伴う緊急発掘調査及び給水管工事に伴う立会い調査が行なわれているが、これらの調査報告に関しては、ここでは取り扱わず機会を改めて報告する予定である。

## II、調査の成果

中沢浜貝塚の今回の調査によって、主に貝層、遺物包含層の分布が明らかにされた。貝層から伴出した遺物には、縄文前期中葉、中期中葉～晩期中葉があり、包含層からは、前期前葉～晩期末、弥生時代の遺物が出土することが判明した。また、遺物の内容や数量も比較的豊富で、魚・獣・鳥骨類、骨角牙製品、石器などが多岐に亘って得られたほか、遺構は検出されていないが、中には人骨も含まれることが知られた。これらの貝層、遺物包含層以外にも、出土量は少ないが、縄文土器をはじめ土師器、須恵器などの平安時代のもの、各種石器、骨角牙製品、鉄製品など各時期に及ぶ遺物が得られた。ここでは、貝層の分布状況と伴出遺物、遺物包含層の堆積状況と出土遺物などを中心として述べる。またこれらの貝層、包含層には、南側斜面中位及び上位の貝層、斜面部東側下位の包含層があり、これらの分布位置から①D20・30、E30地区、②E40、F40地区に大別して各発掘区の調査状況と成果について述べる。

### 1. D20・30、E30地区

該区は、南側斜面部中位から上位にあたり、地形面の大部分は宅地化している。現存部分の畑地付近は、土器片、貝殻などの遺物の散布状況が著しく、斜面部上位の畑地南側では、宅地造成による開削面などの一部に、貝層の露出が見受けられた。このためこれらの畑地に貝層などの残存範囲を想定し、2×2mのグリッドを基本として表土の剥離を行った。

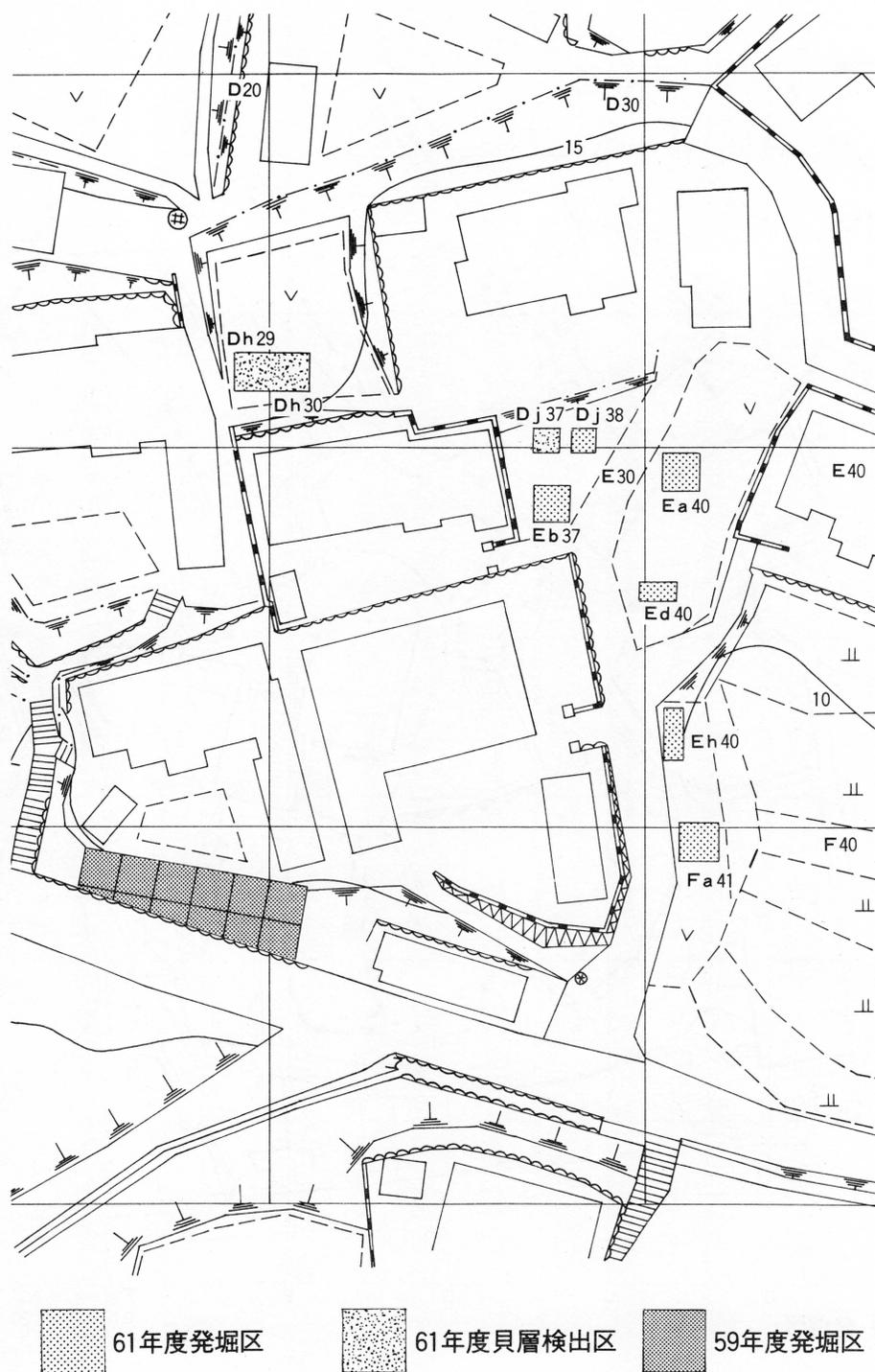
標高約15m～16m地点の斜面部上位の畑地では、表土剥離後、設定区の北西側浅部から混貝土層が検出されたため、更に東側に拡張し、最終的には3×3mの2つのグリッドDh29、30区を設定し、分布状況の確認を行った。

当初Dh29区で検出された混貝土層は、出土遺物も少なく、著しく耕作等の攪乱を受けている



第1図 大設定図

D20・D30・E30・E40・F40地区



第2図 グリッド設定図

と思われていたが、精査の結果、東側にゆるやかに傾斜するDh29～30区のはぼ東西4.4 m、南北2.1 mの範囲で分布が確認され、続いて北壁中央付近で一部検出した土層上に形成されていることなどが判明した。また、傾斜するにつれて混貝土層には、マガキ、クボガイなどの完存貝や、破片が含まれることや、灰・破砕貝などがブロック状に含まれる部分、魚獣骨類などが多く含まれる部分などの分層可能な各様の拡がりに伴っていることが明らかにされた。

これらの混貝土層などからは、縄文中期中葉～晩期中葉頃の、下層にあたる北壁付近の土層からは、中期中葉の遺物が出土し、特に魚獣骨類などの動物遺存体が含まれる部分からは各種石器、骨角牙製品なども伴出することが知られた。また、Dh29区の北西隅付近からは、人骨片も得られているが、遺構は検出されていない。

斜面部中位においては、当初Dj37、38区の2つのグリッドを設定した。標高約12～13m地点の畑地で、混貝土層などの分布が確認されたDh29、30区のはぼ東側にあたる。付近一帯は、貝殻などの遺物の散布がみられ、耕作による貝層の破壊が予想されたが、表土剥離時点では貝層の形成はみられず、この畑地部分の表採遺物などの拡がりには2次堆積によるものであることが判明した。またDj37、38区の表土下の堆積層は、砂層が厚く2 m以上に達し、下部にいくにしたがって、黒色味を帯び東南方向にゆるやかに傾斜することが判明した。貝層は、Dj37区のボーリング調査によって、表土から約3 m地点の砂層下に分布することが確認された。この貝層の分布は、北東側部分の0.5 m幅の狭小範囲で明らかにされただけにすぎないが、精査の結果、細分層可能なマグロなどの魚骨類を含む部分・混貝土層などを伴いながら、比較的ゆるやかに東南方向にかけて傾斜することが明らかにされた。そしてこの保存状態の良好な貝層からは、縄文前期中葉頃の遺物が伴出することが判明した。貝層上に積層する各砂層からは、出土量は少ないが縄文土器、土師器などの各時期の土器片が混在する形で出土したほか、各種石器、土錘、鉄製釣針などの遺物があり、人骨片も出土することなどが知られた。

続いて、Dj37区で分布が確認された貝層の拡がりを把握するため、南側に3×3 mのグリッドを設定し、Eb37区として表土の剥離を行った。剥離後、西側の表土下50～60cm地点から混貝土層が検出された。精査の結果、混貝土層は東西2.4 m、南北1.8 mの範囲に分布することが知られたが、層厚は1～3 cmでかなり薄く、耕作等による攪乱を受けており、また下層の堆積状況などから、後世の2次堆積層であることが判明した。この時点からは、主に東側部分を階段状に掘下げ、砂層下に予想される貝層などの検出に努めたが、Dj37、38区同様に砂層が厚く堆積しているため、貝層の分布の確認まで至っていない。ボーリング調査では時期は不明であるが、表土下3.4～3.5 m地点から、魚骨類などの遺物を比較的多く含む土層が検出されるなどの包含状況が知られた。遺物は、貝殻などの散布する表土及び表土下の混貝土層などの2次堆積層からの出土量が多く、人骨片も含まれているほかは、砂層からの出土量は少

なくDj37、38区とほぼ同様の出土状況が知られた。

① Dh29・30

a、基本層序（第3図・第1表）

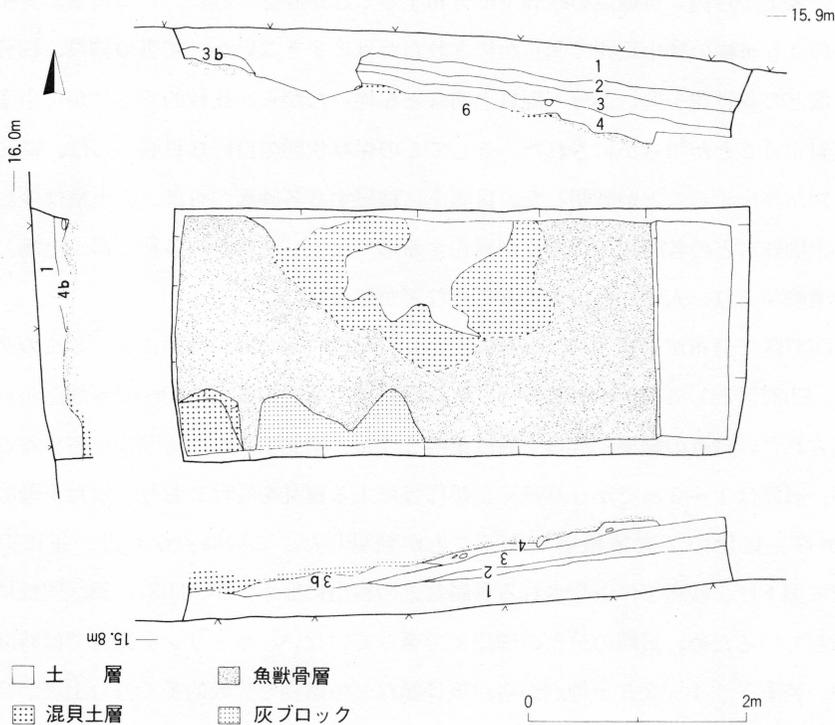
Dh29・30区の東西4.4m、南北2.1mの範囲で、東側にゆるやかに傾斜する混貝土層と混貝土層下の土層との分布が判明している。混貝土層には、灰、破碎貝などのブロック状部分が包含されるほか、多くの遺物が伴っている。特にDh30区においては、魚獣骨類などの動物遺存体を多く包含しており、分層可能である。第3図に混貝土層などの分布平面及び断面を図示し、北壁の層の堆積状態などを中心に述べる。

第1層—表土の耕作土である。

第2層—黒褐色砂層10YR $\frac{3}{2}$ 。Dh29区の西側では耕作によって消滅する。

第3層—黒褐色砂層10YR $\frac{3}{4}$ 。チヂミボラ・エゾキンチャクガイなどの完存貝などが含まれる。Dh29区の西側では消滅する。

第3b層—黒色砂質シルト層10YR $\frac{3}{4}$ 。4層の土色よりも幾分濃い。層厚約10cmで、Dh29区の西側隅部分に堆積する混貝土層直上の層である。アサリ、マガキなどの破碎貝、完存貝を含



第3図 Dh29・30区 貝層・土層の拡がり及びセクション

み、固くしまっている。下層の混貝土層から人骨片が伴出している。

第4層—黒色砂質シルト層10YR $\frac{2}{1}$ 。層厚10～22cmの混貝土層上の層で、マガキなどの完存貝を含む。Dh29区の西側は攪乱を受け消滅する。混貝土層及び混貝土層下の土層を直接覆うが、Dh30区の混貝土層直上には、動物遺存体及び骨角器、各種石器などの遺物が比較的多く含まれる。

第5層—黒色砂質シルト層10YR $\frac{2}{1}$ 。Dh29、30区に分布する混貝土層である。Dh29区の南側部分では、灰、破砕貝ブロックが包含されるほか、マガキ・チヂミボラ・クボガイなどの完存貝などが含まれている。伴出した遺物には、縄文中期中葉～晩期中葉頃の土器がある。北壁中央部分ではこの層の分布はみられない。

第6層—黒褐色シルト層10YR $\frac{3}{1}$ 、第5層混貝土層下の土層である。北壁中央部分に分布する遺物包含層で、縄文中期中葉頃の土器が出土している。

なお、Dh29、30区のグリット内の第5層混貝土層からサンプルを採集し、自然遺物などの含まれる割合について、第1表に一覧表を付している。10,000 cc、12,000 gのサンプルには土器片、礫、チップ、各種の骨と貝類などが含まれている。骨類については、種、部位の同定を行っているが、貝類については殻頂部の割合が少なく（貝重量に占める殻口・殻頂部を有する貝の割合は7%である。）、大部分は焼けた破砕貝で完存貝も含まれていないため、貝層を構成する主体貝種は不明である。

## b、出土遺物

※土器・土製品（第4図・第5図・第2表）

少量の土器片と土製円盤2点が出土した。時期的には、縄文時代中期・後期・晩期、平安時代の遺物が出土している。第4図1～7は中期資料である。出土層位は、混貝土層下の土層（6層）よりの出土である。1・2・6・7は体部資料である。渦巻文を主モチーフとしているが、沈線によるもの（1・2）と、隆沈線によるもの（6・7）がある。1・2は、三条の沈線を展開させ渦巻文を施文し、6・7では、数条の隆沈線を連結させ、連結部に渦巻文を意匠している。3～5は口縁部資料である。口縁は内反し、口唇部に口縁と平行する一条の沈線・隆沈線を巡らし、口縁部文様帯と区画している。口縁部文様帯には隆沈線により渦巻文が意匠され、4では口唇部より隆沈線が垂下し、渦巻文と連結している。

第4図8～16・第5図32は後期資料である。8は頸部から体部にかけての資料である。頸部には、数条の沈線が巡り、沈線間には地文が施文されている。体部には、沈線・磨消縄文手法により文様が意匠される。12～16・第5図32は、口縁部文様帯に、口縁に平行する数条の沈線と入組文によって施文する土器群である。

第1表-1 Dh29・30 5層 混貝サンプル 篩分析集計表

総体積 10,000 cc 総重量 12,000 g (C)

	土器片	チップ	石	骨	魚鱗	ウニ (棘のみ)	ニ 目(殻頭 部あり)	破砕貝	炭化物	砂土	1mmメッシュ 通過(砂土)
1cm5mmメッシュ(A) g	80.9	1.4	85.5	132.1	0.5	0.6	34.6	186.5	2.05	—	—
1mmメッシュ(B) g	4.8	2.8	511.66	162.79	1.2	8.1	1.3	334.0	3.4	407.36	10,038.44
小計(A+B) g	85.7	4.2	597.16	294.89	1.7	8.7	35.9	520.5	5.45	407.36	10,038.44
重量比((A+B)/C) %	0.71	0.04	4.98	2.46	0.01	0.07	0.30	4.34	0.05	3.39	83.65

第1表-2 Dh29・30 5層 混貝サンプル 動物遺存体集計表

区・層	種・部位	魚 類																カサゴ科の																
		サメ目		マグロ類		ブリ	スズキ	スズキ科の一種				マダイ						タイ類																
		椎骨	椎骨	歯骨	方骨	方骨	椎骨	上顎骨	前上顎骨	方骨	舌顎骨	前鰓蓋骨	後側頭骨	椎骨	前上顎骨	歯骨	舌顎骨	前鰓蓋骨																
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R											
Dh29・30	5	2	7			1		1	1	1	1	2	1	1		1	1	1		2	1		1	7			1		1		1	1		

第2表 Dh29・30 出土土器一覧表

図版	グリッド・層位	器形	文様の特徴	他	内面調整他
第4図 1	Dh29 1層・4層	深鉢	胴：縦位縄文(RL)→多条沈線渦巻文+縦位波状文		ミガキ
2	Dh29 6層	深鉢	胴：縦位縄文(RL)→多条沈線渦巻文		ミガキ
3	Dh29 5層	深鉢	口端：横位隆沈線、口頸：横位縄文(RL)→隆沈線		ミガキ
4	Dh29 3b層	深鉢	口端：沈線、口頸：縦位縄文(RL)→渦巻状貼布文		ミガキ
5	Dh29 6層	深鉢	口端：横位隆沈線、口頸：横位縄文(RL)→隆沈線・渦巻文、胴上：横位縄文(LR)		ミガキ・ナデ
6	Dh29 5層	深鉢	胴：縦位縄文(RL)→縦位多条沈線+多条沈線渦巻文		ミガキ・ナデ
7	Dh30 6層	深鉢	胴：縦位縄文(RL)→隆沈線		ナデ
8	Dh29 1層	壺	胴上：横位・縦位縄文(LR)→横位平行沈線+区画沈線文→磨消縄文		ミガキ・ナデ
9	Dh30 3層	深鉢	口頸：横位平行沈線→刻目		ミガキ
10	Dh30 3層	深鉢	口端：刻目、口頸：平行沈線+入組文?→刻目		難なミガキ・ナデ
11	Dh29 1層	深鉢	頸：横位平行沈線→刻目		ミガキ
12	Dh30 5層	壺?	胴：横位縄文(LR)→区画沈線文+平行沈線?→刻目+瘤状小突起→磨消縄文		ナデ
13	Dh29 1層	深鉢	口頸：横位縄文(LR)→入組文		難なミガキ
14	Dh29 6層	深鉢	頸：縦位縄文(RL)→入組文→磨消縄文+瘤状小突起		難なミガキ
15	Dh30 4層	深鉢	頸：横位平行沈線+入組文→瘤状小突起、内面：スス付着		ミガキ
16	Dh30 4層	深鉢	口唇：刻目+小突起(+刻目)、口頸：横位縄文(RL)→横位平行沈線+入組文→磨消縄文+刻目		ミガキ
第5図 17	Dh29 1層	鉢	口頸：横位・斜め縄文(LR)→三叉文+磨消縄文		ミガキ
18	Dh29 1層	鉢	口唇：小突起+刻目、口頸：三叉文+横位平行沈線、胴：横位縄文(LR)		ミガキ
19	Dh29 3b層	壺	口頸：無文、胴上：横位沈線+羊歯状文、胴：横位縄文(RL)		ミガキ・ナデ
20	Dh29 3b層	壺	口端：横位縄文(RL)、口頸：無文、胴上：横位沈線+羊歯状文		ミガキ・ナデ
21	Dh30 3層	鉢	口唇：小突起、口頸：横位平行沈線+梯子状文、胴：縦位縄文(LR)、内面：沈線、補修孔あり		ミガキ
22	Dh29 4b層	鉢	口唇：小突起、口頸：横位平行沈線+羊歯状文、胴：横位縄文(LR)		ミガキ
23	Dh30 3層	注 口	口頸：横位沈線+区画沈線文		ミガキ
24	Dh29 3b層	注 口	口唇：小突起、口頸：横位沈線+区画沈線文		ミガキ
25	Dh30 3層	鉢	口唇：小突起、口頸：横位縄文(LR)→横位沈線+区画沈線文		ミガキ
26	Dh29 1層	鉢	胴：横位・斜め縄文(LR)→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
27	Dh29 1層	鉢	口頸：横位縄文(LR)→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文		ミガキ・ナデ
28	Dh29 5層	皿	内面：隆帯→充填縄文(LR)、外面：多条沈線+隆帯→充填縄文(LR)		ミガキ
29	Dh29 5層	鉢	口唇：小波状、口端：横位弧状沈線、口頸：横位沈線、胴部：斜め縄文(RL)		ミガキ・ナデ
30	Dh29 1層	土製円盤			
31	Dh29 6層	土製円盤			
32	Dh30 4層	深鉢	口唇：横位沈線+小突起、口頸：横位縄文(RL)→横位平行沈線+入組文→磨消縄文+瘤状小突起		ミガキ・ナデ
33	Dh29 3b層	鉢	胴上：横位縄文(LR)→横位沈線+区画沈線文+菱形文→磨消縄文、胴：横位縄文(LR)、胴下：磨消縄文		ミガキ

第1表-3 Dh29・30 5層 混貝サンプル 出土貝集計表

種名	腹足綱							掘足綱		二枚貝綱						合計		
	レイシガイ	タマキヒガイ	チヂミボラ	パツラマイマイ	オカチヨウジガイ	不明陸産巻貝	ヤカドツノガイ	イガイ		オオノガイ		アサリ		インムラサキ			不明(殻頂部)二枚貝	
								L	R	L	R	L	R	L	R		L	R
個数	1	1	4	129	1	24	1	4	3	2	1	3	1	1	3	2	181	
重量	3.9	0.9	1.6		0.7		0.6	1.8	3.6	13.6	0.1	0.1					26.9	

一種															哺乳類		爬虫類											
主鰓蓋骨			後側頭骨		椎骨		カワハギ科の一種		ア イ ナ メ						アメイ科の種		マダラ		カ科の一種		ヒラメ		シカ		海獣類		ウミガメ科	
L	R	L	R	骨	骨	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	骨	骨	L	R	骨	骨	片	L	R	骨	骨	A	B
3				1	7	2	1			1	1	2		11		1	1	1	1	4	1	3	1		2	20		

爬虫類 カメ A (小) B (大)

第3表 Dh29・30 出土石器一覧表

図版	地区・層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	備考	登録番号
第6図34	Dh29・30 4層	石 鎌	玉髄	14.5	24	5	1.6	身 部 欠 損	挟り有り	1690
35	Dh29 2層	石 鎌	粘板岩ホルンフェルス	18	15	4.5	0.8	"	挟り有り	1704
36	Dh30 4層	石 鎌	粘板岩質チャート	26.5	16.5	7	2.3		有茎	1550
37	Dh30 3層	石 鎌	粘板岩	28.5	14.5	6.5	1.9		有茎	1511
38	Dh30 4層	石 鎌	粘板岩	26.4	15	5.6	2.1		有茎	1499
39	Dh30 3層	尖頭器	チャート質粘板岩	22	16.5	7.2	2.1			1710
40	Dh30 5層	尖頭器	粘板岩	28.5	18	7.0	3.5			1715
41	Dh30 5層	石 錐	チャート	25.6	3.8	2.8	0.2		身 部 頭 部 区 別 な し	1676
42	Dh29 4層	石 錐	チャート質粘板岩	17.5	9.2	6	1.4		身 部 頭 部 区 別 な し	1500
43	Dh30 4層	石 錐	極細粒凝灰岩	34	8.2	6	1.5		身 部 頭 部 区 別 な し	1675
44	Dh29 3b層	石 錐	粘板岩	41.6	14.2	7	2.5	身 部 先 端 欠 損	頭部有り	1501
45	Dh30 4層	石 錐	チャート質凝灰岩	28	19	8.4	3.55	"	頭部有り	1551
46	Dh30 3層	石 錐	チャート	34	30	10.4	8.5	"	頭部有り	1712
47	Dh30 3層	石 匙	チャート質粘板岩	62	32.5	8	12.8		縦長	1549
48	Dh30 4層	不定形石器		27.5	23	12	6.5		一 辺 に 刃 部 有 り	1700
49	Dh29 3層	不定形石器	チャート質粘板岩	36.8	27	11	8.15		二 辺 に 刃 部 有 り	1714
第7図50	Dh30 3層	不定形石器	チャート質凝灰岩	33.6	20.2	9	4.7		一 辺 に 刃 部 有 り	1711
51	Dh30 4層	不定形石器		27.5	18.5	9.5	3.7		一 辺 に 刃 部 有 り	1691
52	Dh30 3層	不定形石器	チャート質粘板岩	23.1	19.5	3.4	1.5		一 辺 に 刃 部 有 り	1709
53	Dh29 3b層	不定形石器	チャート	37	23	8	4.5	一 部 欠 損	一 辺 に 刃 部 有 り	1591
54	Dh29 1層	石製円盤	粘板岩	32.5	32.5	6	5.8			1718

平行沈線は文様帯の上位に施文され、最下部の平行沈線に入組文が連結している。平行沈線間の施文は、刻目帯・無文帯がくり返されるもの（9～11）、刻目帯・地文帯のもの（16）、貼瘤による点列と地文帯のくり返しによるもの（第5図32）とがあり、9では二枚貝を使用して刻目を施文している。入組文は、磨消縄文手法により施文されるもの（14・第5図32）、区画内に貼瘤による点列を有するもの（15）、刻目を有するもの（16）とがある。後期の遺物は、縄文時代晩期に形成された混貝土層及び上位の土層中より出土しており、Dh29・30においては、後期主体の遺物包含層は検出されていない。

第5図17～29・33は晩期資料である。17・18は三叉文を施文する資料である。口縁は内反し、口唇部に突起を有し、18では突起に刻目を有している。18は、器形は浅鉢で、口縁部文様帯と体部地文部を三条の沈線で区画しており、口縁部文様帯には入念な磨きがかかっている。19～22・24は羊歯状文を主体とする資料である。19・20は同一個体である。器形は壺で、頸部で一度締め、口縁は「く」の字状に外反している。口縁に平行して地文帯を設け、頸部は無文で、肩部から体部上半にかけて羊歯状文が施文されている。23は、注口土器の口縁部資料である。入念に磨かれた曲線文が施文されている。25～27・33は、雲形文・K字文等が施文される資料である。33は鉢で、体部下半から底部にかけて残存する。沈線により、文様部・地文部・無文部が区画される。無文部は入念に磨かれている。28は、皿の底部資料である。両面に帯状に地文が充填されている。29は、半精製土器である。口縁は外反し、小波状を呈する。口唇部直下に連続した弧状の沈線が巡る。口縁部と体部は二本の沈線によって区画されている。

30・31は円盤状の土製品で、土器片の再利用である。

平安時代の遺物は、須恵器の坏の口縁部資料が1点出土しているが、小破片のため図示していない。出土層位は3層である。

さて、Dh29・30において縄文時代晩期中葉頃と思われる混貝土層を検出したことは既に述べたとおりであるが、貝層の伴出遺物として28・29の遺物があげられる。しかしながら、範囲確認調査の性格上、貝層を掘り下げたわけではなく、時期決定については尚検討の余地がある。

#### ※石器・石製品（第6図・第7図50～54・第3表）

石鏃5点・尖頭器2点・石錐6点・石匙1点・不定形石器6点・石製円盤1点が出土した。34～38は石鏃である。無茎石鏃2点（34・35）・有茎石鏃3点（36～38）が出土している。無茎石鏃は、基部に抉りを有する。側縁形状は、34では身部と基部の境に抉りを有し、35では外側に弧を描いている。有茎石鏃は、身部と茎部の境を入念に形作るもの（36・37）と、不明瞭なもの（38）とがある。側縁形状は、いずれも外側に弧を描いている。39・40は尖頭器と思われる資料である。39は三角形を呈し、基部は平基をなす。40は木葉状を呈し、基部は円基を

なしている。41~46は石錐である。頭部と身部の区別がないもの(41~43)、頭部を有するもの(44~46)がある。41~43は縦長に形作られ、剥離調整は丁寧である。44・46は若干の剥離で頭部と身部を区画し、45では頭部全体に剥離調整が施こされ、頭頂部は丸味を帯びる。47は縦長の石匙である。刃は両面に、局部的に形作られている。剥離調整は粗く、仕上げは雑である。若干の剥離でつまみを形作っている。48~53は不定形石器である。剥片の一辺に刃部を作り出しているもの(48・50~53)と、二辺に刃部を有するもの(49)がある。52では刃部が半月形を呈する。50では刃部以外のところに使用痕が認められる。54は石製円盤である。偏平な粘板岩を円形に形作っている。

※骨角器(第7図55~65、第8図66~75・第4表)

釣針・釣針未製品・銚頭・根ばさみ・骨篋・刺突具が出土している。55~59は釣針である。完形品は出土していない。55・59は軸部資料である。鹿角製で、自然面・海綿質面を残す。断面形は楕円形を呈し、彎曲部が幅広く形作られ、59では穿孔を有する。56はチモト~軸部にかけての資料である。面取りは入念に施こされ、チモトに一条のスリットを有する。時期が判明しており、大木8b式の遺物と伴出した。57・58は彎曲部の資料で、彎曲部は「U」字状を呈する。57は、面取りが入念に施こされている。58は自然面を残す。60・61は釣針未製品である。60は大型の釣針未製品で、軸部~彎曲部にかけて残存する。62~64は銚頭である。所謂燕形銚頭に

第4表 Dh29・30 出土骨角器一覧表

図版	地区・層位	器種	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	
第7図55	Dh30	4層	釣針	鹿角	41.0	9.0	6.0	1.3	軸部のみ残。自然面を残す。	408
56	Dh30	6層	釣針	鹿角	43	4.0	3.5	0.6	チモト部~軸部残。	496
57	Dh29	3b層	釣針	鹿角	25.0	14.0	6.0	1.1	チモト部、針先部欠。	423
58	Dh30	4層	釣針	鹿角	17.0	25.0	8.0	1.9	彎曲部のみ残。自然面を残す。	540
59	Dh30	6層	釣針	鹿角	49.5	12.5	8.0	3.2	軸部のみ残。穿孔あり。自然面を残す。	500
60	Dh30	1層	釣針未製品	鹿角	55.0	21.0	13.5	7.6	自然面を残す。	465
61	Dh30	4層	釣針未製品	鹿角	25.0	9.5	3.5	0.5		461
62	Dh30	4層	銚頭	鹿角	48.5	8.5	7.5	2.6	完形	445
63	Dh29・30	1層	銚頭	鹿角	65	9.5	9.0	2.5	先端部・尾部一部欠損。	476
64	Dh29	3b層	銚頭	鹿角	24.0	12.5	11.0	1.6	頭部・尾部欠損。胴部にアスファルト付着。	418
65	Dh29	1層	根ばさみ	鹿角	44.5	6.5	7.5	1.6	二又部から縦割れ。	511
第8図66	Dh30	5層	骨篋	鹿右中足骨	119.0	20.0	13.0	16.3	後面利用	523
67	Dh30	5層	骨篋	鹿左中足骨	146.5	27.5	16.0	24.8	前面利用	509
68	Dh30	5層	骨篋	鹿左中足骨	103.0	25.0	15.5	13.8	前面利用	563
69	Dh30	4層	骨篋	鹿左中足骨	77.5	24	12.5	10.2	後面利用	566
70	Dh30	6層	骨篋	中手中足骨?	35.5	14.0	4.5	1.6		501
71	Dh30	4層	刺突具	鹿角	70.0	6.0	6.0	2.9	完形	498
72	Dh30	5層	刺突具	骨?	63.0	6.0	5.5	2.3		497
73	Dh30	1層	刺突具	中手中足骨?	49.0	10.5	7.5	2.7		464
74	Dh29	1層	刺突具	中手中足骨?	64.0	10.0	7.0	3.1		512
75	Dh30	4層	刺突具	骨?	19.0	3.5	3.0	0.2	先端部のみ残。	503
76	Dh30	4層	刺突具	骨?	31.0	4.5	3.5	0.5	先端部のみ残。	462
77	Dh30	4層	装身具	イノシシ犬歯	64.0	8.0	6.0	3.9	下顎犬歯左側。エナメル質のみを残す。	395
78	Dh29	3b層	不明	鹿角	65	15	7.0	7.5	自然面を残す。	562





第5表-5 出土シカ骨

種・部位 区・層	シカ															
	鹿角片	下顎骨		中手骨		尺骨		距骨		寛骨		中足骨		脛骨		
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	
Dh 29 ・ 30	1	5														
	3	11	1											1		
	4	19	1							1	1					
	5	6	1	1	1	1					2	2				
	6	7														
	層不明	3					1									
	合計	51	1	3	1	1	1				1	3	2	1		

第5表-6 出土シカ上顎骨

種・部位 区・層	歯式	L				R					
		M <sup>3</sup> M <sup>2</sup> M <sup>1</sup>	P <sup>4</sup> P <sup>3</sup> P <sup>2</sup>	C	切歯骨	切歯骨	C	P <sup>2</sup> P <sup>3</sup> P <sup>4</sup>	M <sup>1</sup> M <sup>2</sup> M <sup>3</sup>		
Dh 29 ・ 30	6									(P <sup>3</sup> )	(M <sup>2</sup> )
	層不明										(P <sup>2</sup> )

第5表-7 出土シカ下顎骨

種・部位 区・層	歯式	L				R					
		M <sub>3</sub> M <sub>2</sub> M <sub>1</sub>	P <sub>4</sub> P <sub>3</sub> P <sub>2</sub>	C	切歯部	切歯部	I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> I <sub>3</sub>	P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> P <sub>4</sub>	M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> M <sub>3</sub>		
Dh 29 ・ 30	3	(M <sub>1</sub> )								(P <sub>3</sub> )	
	5	(M <sub>3</sub> )(M <sub>1</sub> m <sub>1</sub> m <sub>3</sub> m <sub>2</sub> )								(P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> P <sub>4</sub> M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> M <sub>3</sub> )	(M <sub>3</sub> )
	層不明	(M <sub>3</sub> )									

( ) は相当する部分の顎骨があることを示す。  
( ) は脱落した歯のみ出土していることを示す。

第5表-11 出土哺乳類骨

種・部位 区・層	イルカ科種 頭骨	オットセイ			不明海獣骨			クジラ類		オカミ			
		下顎骨		尺骨	椎骨	指骨	胸骨	骨片	骨片	上顎犬歯			
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R		
Dh 29 ・ 30	1	3											
	3	1								2	1		
	3・4												
	4	1	4	1	2			1	1	2	1	1	
	4・5	1	1										
	5					1		2	3	1			
	層不明	3											
合計	5	9	1	2	1		3	4	1	4	2	1	

第5表-8 出土イノシシ骨

種・部位 区・層	1	イノシシ										
		下顎骨		寛骨		踵骨		距骨				
		L	R	L	R	L	R	L	R			
Dh 29 ・ 30	3											
	3・4											
	4					1	1					
	4・5					1						
	5			1								1
	合計			1		2	1					1

第5表-9 出土イノシシ上顎骨

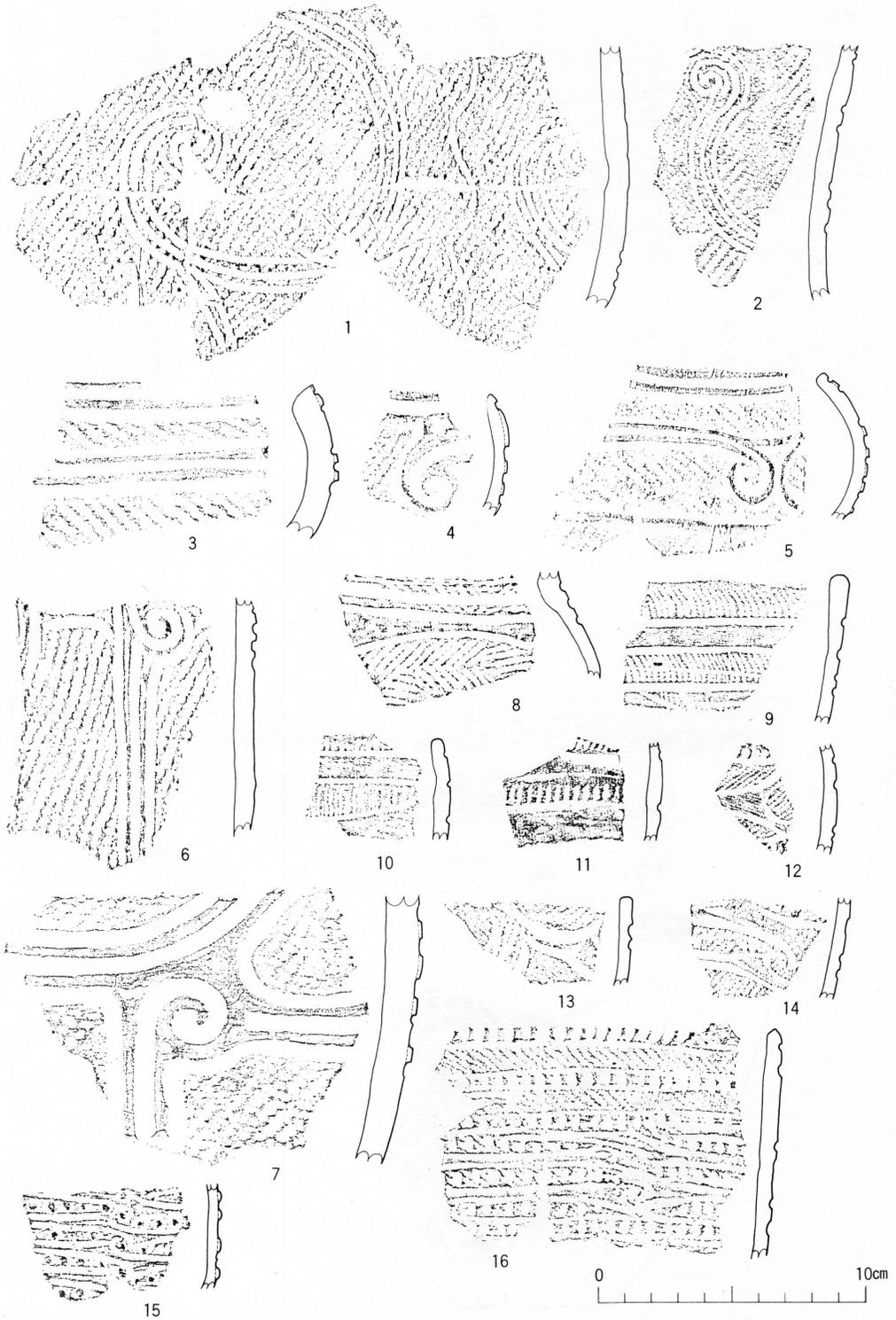
種・部位 区・層	歯式	L				R					
		M <sup>3</sup> M <sup>2</sup> M <sup>1</sup>	P <sup>4</sup> P <sup>3</sup> P <sup>2</sup>	C	切歯骨	切歯骨	C	P <sup>2</sup> P <sup>3</sup> P <sup>4</sup>	M <sup>1</sup> M <sup>2</sup> M <sup>3</sup>		
Dh 29 ・ 30	4									(i <sup>1</sup> )	

第5表-10 出土イノシシ下顎骨

種・部位 区・層	歯式	L				R					
		M <sub>3</sub> M <sub>2</sub> M <sub>1</sub>	P <sub>4</sub> P <sub>3</sub> P <sub>2</sub>	C	切歯部	切歯部	I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> I <sub>3</sub>	P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> P <sub>4</sub>	M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> M <sub>3</sub>		
Dh 29 ・ 30	4									(C)	
	5										(M <sub>2</sub> M <sub>3</sub> )

第5表-12 出土鳥骨

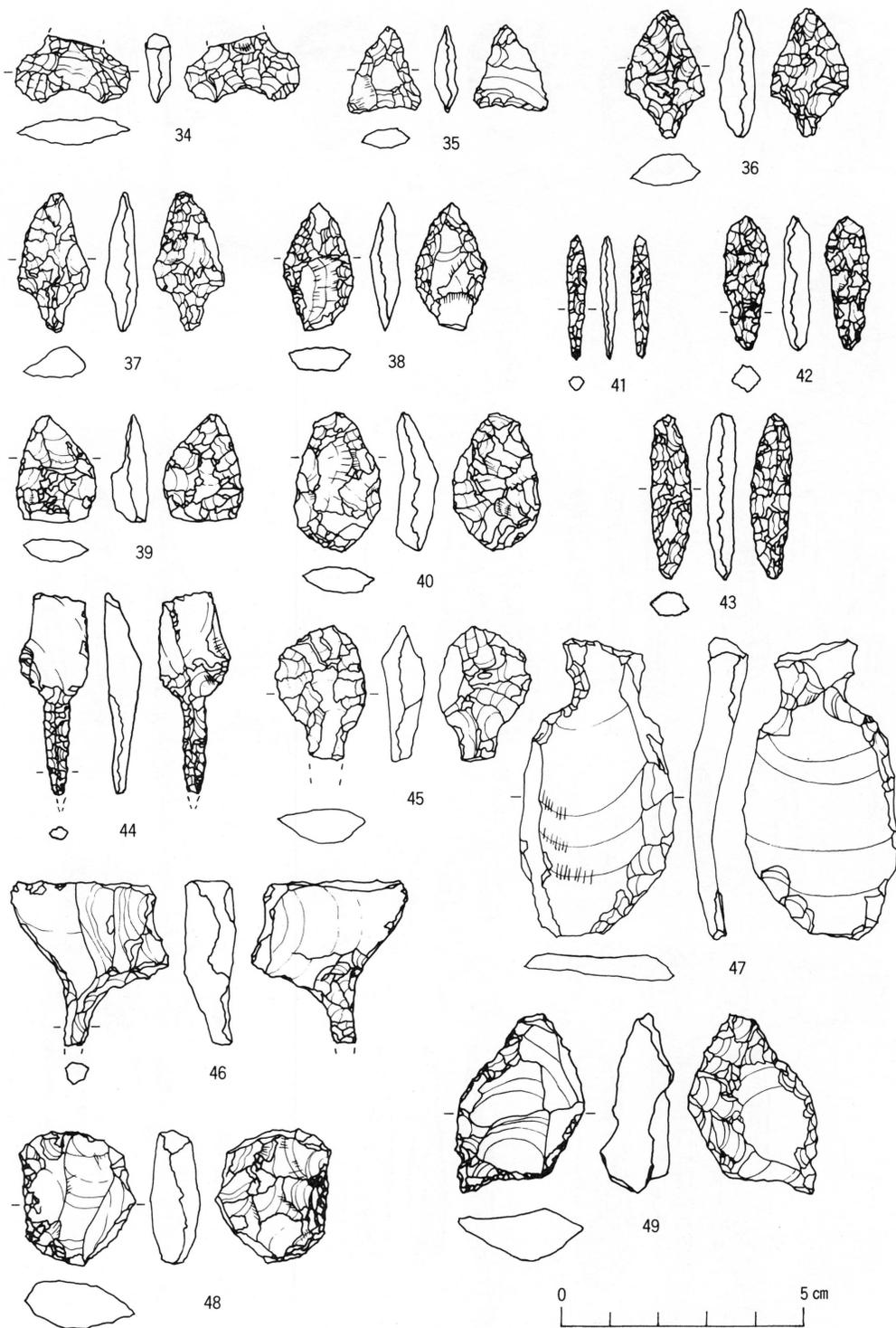
種・部位 区・層	ウミネコ	ミドリナ科		アホウドリ		科の一種			
		上腕骨		尺骨		中手骨			
		L	R	L	R	L	R		
Dh 29 ・ 30	4			1					
	4・5			1	1	1		1	
	6					1			
	層不明	1							
	合計	1		2	1	1	1		1



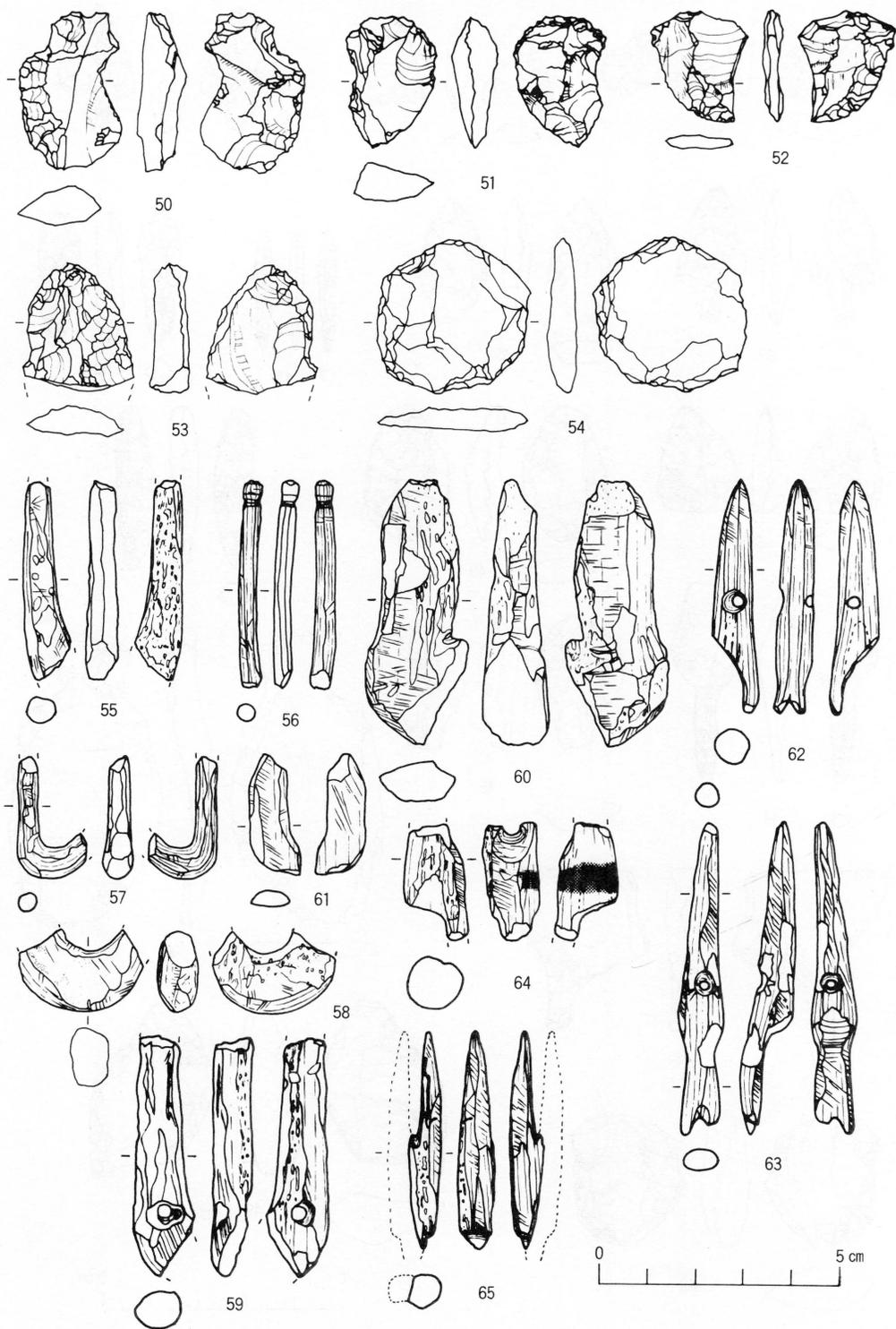
第4图 Eh40·Fa41 出土土器



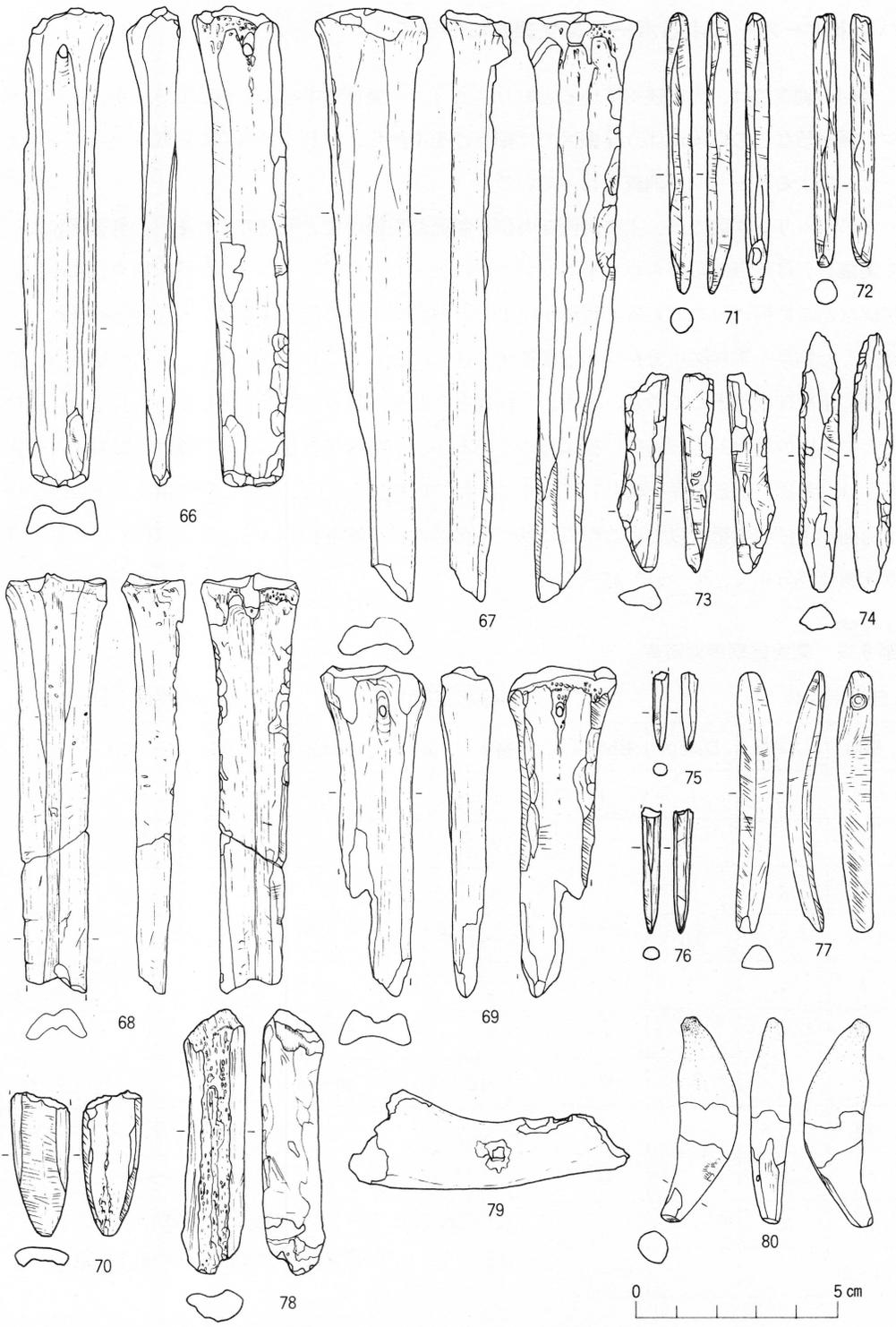
第5図 Dh29・30 出土土器・土製品



第6图 Dh29·Dh30 出土石器



第7图 Dh29·30 出土石器·骨角器



第8図 Dh29・30 出土骨角器・加撃痕を有する骨

## ハンドオーガーによるボーリング調査について

今回の調査では、先に述べているとおり、グリッド発掘を中心に実施しているが、自然湧水や土層崩壊などの危険が伴う発掘区では掘下げを中断し、グリッド内の発掘底面からハンドオーガーによるボーリング調査を行っている。

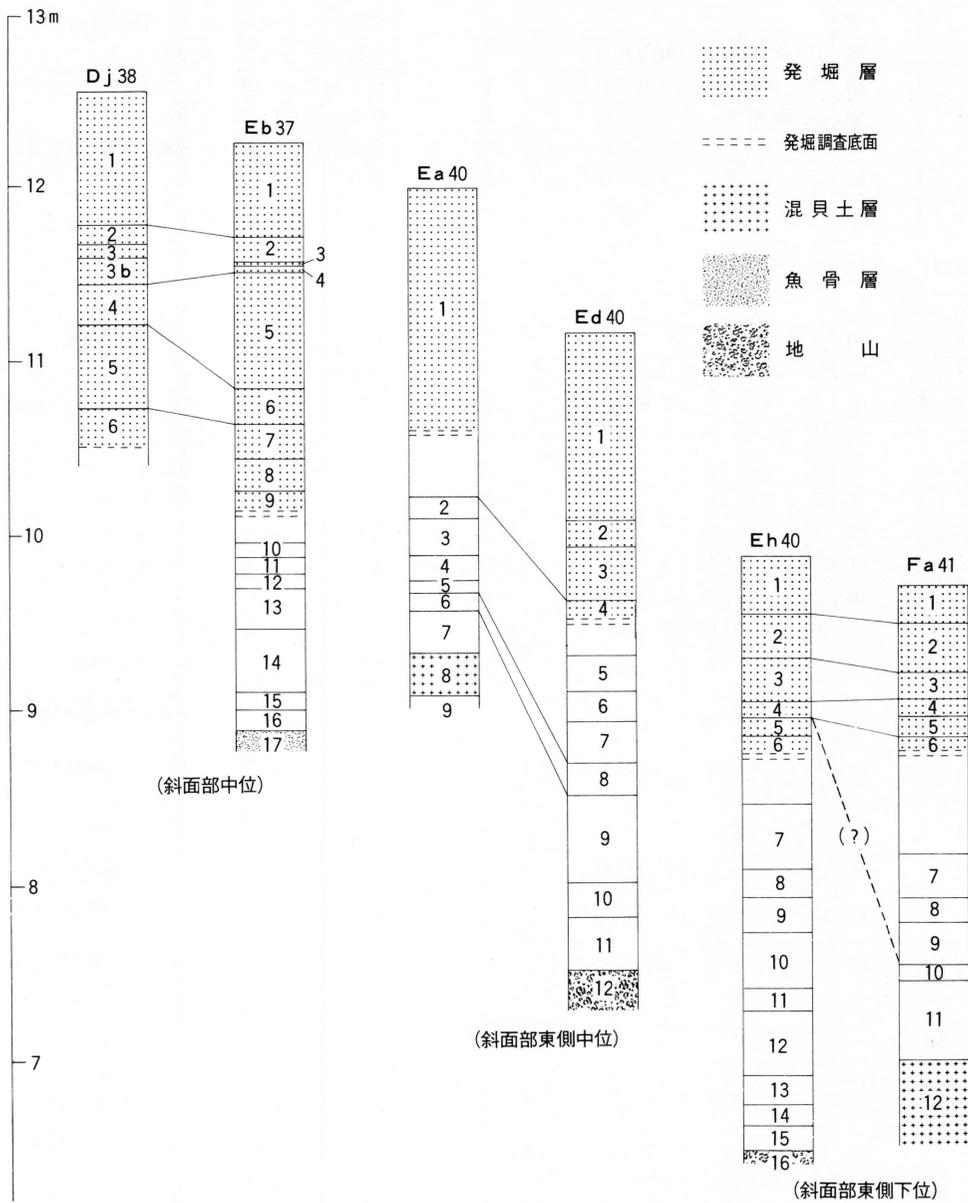
このボーリング調査は、主に斜面部中位、斜面部東側中位と下位のそれぞれの発掘区において実施し、各地点から得られた土層サンプルによって、発掘層下の土層堆積状態や貝層の包含状況などの把握に努めている。貝層を検出した斜面部中位のDj37区では、一部掘下げを行い、確認した結果を第10図に分布平面と堆積層の柱状図として示しているほか、各区の結果は、第9図に土層柱状図として示し、土色、土性などの観察項目の一覧表を付している。また、部位ごとに各区の層の対応関係の把握に努めているが、不明確な層もある。下表は、おおよその大別された各層の対応関係を表わしており、本稿で取り扱った人工遺物、自然遺物などの出土層は斜面部上位の発掘区以外はこの表に基づいた層番号を使用している。以下部位ごとに層の堆積状態及び分布などについて述べる。

第6表 発掘区別層対応表

斜面部中位				斜面部東側中位			斜面部東側下位		
層No.	Dj37区	Dj38区	Eb37区	層No.	Ea40区	Ed40区	層No.	Eh40区	Fa41区
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2		2		2		2	2	2	2
3	2	3		3		3	3	3	3
4～6	3	3b	2・3 ・4	4～11	②・③ ・④・⑤	④・⑤ ・⑥・⑦	4・5	4	4・5
7	4	4	5	12	⑥	⑧	6～9		⑥・⑦ ・⑧・⑨
8	5・5b	5	6	13	⑦	⑨	10	5	⑩?
9	6	6	7	14～18	⑧・⑨	⑩～⑫	11	⑥	⑪?
10	7・8		⑧・⑨ ・⑩				12～21	⑦～⑬	⑫?
11	9		⑪						
12	10								
13～18			⑫～⑬						

註1 ○数字は、ボーリング調査による大別された層序

註2 グリッド内の数字は、発掘時点の遺物取上げ層



第9図 各区の土層柱状図

第7表 発掘区別層位表

Dj38

・ボーリング調査による大別層

層No.	層名	土色	土性	その他
1	土層			耕作土、2次堆積による貝層含む
2	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	砂	破砕貝等を含む、攪乱層
3	土層	黒褐色 (7.5 YR 5/2)	砂	径2~3cmの礫含む、攪乱層
3b	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	砂	破砕貝等を含む、攪乱層
4	土層	黒褐色 (7.5 YR 5/2)	砂	炭化物微量、径1cmの礫、骨片等を含む
5	土層	黒褐色 (7.5 YR 5/2)	砂質シルト	骨片等を含む
6	土層	黒色 (7.5 YR 1/1)	砂質シルト	径20~30cmの礫含む

Eb37

層No.	層名	土色	土性	その他
1	土層			耕作土、2次堆積による貝層含む
2	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	砂	攪乱層
3	混貝土層	褐灰色 (7.5 YR 4/1)	砂質シルト	エゾアワビ、グボガイ等を含む、2次堆積層
4	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	砂	破砕貝微量含む、攪乱層
5	土層	黒褐色 (7.5 YR 5/2)	砂	径2~3cmの礫、人骨片等を含む
6	土層	黒褐色 (7.5 YR 5/2)	砂質シルト	径20~40cmの礫、人骨片等を含む
7	土層	黒色 (7.5 YR 1/1)	砂質シルト	径6~17cmの礫、人骨片等を含む
8	土層	黒色 (7.5 YR 1/1)	砂質シルト	径2~3cmの礫、人骨片等を含む
・9	土層	黒色 (7.5 YR 1/1)	砂質シルト	サルス (マサ) 含む
・10	土層	褐灰色 (7.5 YR 4/1)	砂質シルト	タイ類等の魚骨を含む
・11	土層	黒褐色 (7.5 YR 5/2)	シルト	粘性弱、サルス、径1~2cmの礫、破砕貝微量含む
・12	土層	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	シルト	グライ化している。サルス、魚骨を含む、粘性弱
・13	土層	暗オリーブ褐色+浅黄色 (2.5 Y 7/3 + 5/3)	シルト	グライ化している。サルス、破砕骨等を含む、粘性弱
・14	土層	暗灰黄色 (2.5 Y 5/2)	シルト	グライ化している。粘性弱、径3~4cmの礫、破砕骨等を含む
・15	土層	黒褐色 (2.5 Y 5/2)	シルト	グライ化している。径1~2cmの礫含、粘性弱
・16	土層	暗灰黄色 (2.5 Y 5/2)	シルト	グライ化している。サルス、破砕骨等を含む、粘性弱
・17	魚骨層	黒褐色 (2.5 Y 5/2)	シルト	マグロ、イルカ、マダイ、カツオ等の魚骨を含む、グライ化している。大木4式の土器片含む

Ea40

層No.	層名	土色	土性	その他
1	土層			盛土による耕作土及び旧表土
・2	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性弱、人骨片、破砕貝微量、サルス等を含む
・3	土層	黒色 (10YR 1/1)	シルト	粘性弱、径1cmの礫、サルスを含む
・4	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性弱、径1cmの礫含む
・5	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性弱
・6	土層	暗灰黄色 (2.5 Y 5/2)	シルト	グライ化している。風化礫含む
・7	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性弱、破砕骨等僅少含む
・8	混貝土層	褐色 (10YR 5/3)	シルト	粘性弱、破砕貝、マグロ、エイ等の魚骨、径3cmの礫、風化礫含む、大木4式土器片含む
・9?	土層	黒褐色 (7.5 YR 5/2)	シルト	

## Ed40

層No.	層名	土色	土性	その他
1				盛土による耕作土及び旧表土
2	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	砂	炭化物微量、破砕骨等を含む
3	土層	黒色 (10YR 3/1)	砂質シルト	ややしまっている。炭化物微量、破砕片、径2~10cmの礫含む
・4	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性弱、サルス、径1cmの礫含む
・5	土層	黒褐色 + 暗褐色 (10YR 5/2 + 3/2)	シルト	粘性弱、サルス含む
・6	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性弱、炭化物僅少、破砕骨等を含む、大木7b式土器片含
・7	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性強、破砕骨含む、大木7a式土器片含
・8	土層	黒褐色 (10Y 3/1)	シルト	グライ化している。サルス、径1~2cmの礫、破砕骨等を含む
・9	土層	灰黄褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性弱、サルス、風化礫、破砕貝等を含む、大木7a式土器片含
・10	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	シルト	粘性強、破砕骨を含む
・11	土層	黒色 (10YR 3/1)	シルト	粘性強、サルス、破砕貝、骨僅少含む
・12	土層	暗灰黄色 (2.5 Y 5/2)	シルト	サルス含む、地山漸移層?

## Eh40

層No.	層名	土色	土性	その他
1	土層			耕作土2次堆積による貝層含
2	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	砂	旧表土?
3	土層	黒色 (10YR 3/1)	砂質シルト	粘性弱、包含層
4	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	砂質シルト	径30~40cmの風化礫、炭化物を含む、包含層
5	土層	明赤褐色 (5 YR 5/6)	砂質シルト	酸化している。包含層?
6	土層	褐灰色 (10YR 3/1)	砂質シルト	粘性弱、径20cm前後の風化礫、破砕貝微量等含む
・7	土層	黒色 (7.5 YR 3/1)	シルト	粘性弱、破砕貝、骨、炭化物等微量、サルス含む
・8	土層	黒褐色 (7.5 YR 3/1)	シルト	径1cmの礫、破砕貝、骨、炭化物等微量含む
・9	土層	黒色 (7.5 YR 3/1)	シルト	粘性弱、炭化物僅少、破砕貝、骨等微量サルス含む
・10	土層	暗灰黄色 (2.5 Y 5/2)	シルト	グライ化している。粘性弱、炭化物、破砕骨僅少含む
・11	土層	黒褐色 (2.5 Y 3/1)	シルト	グライ化している。マグロなどの魚骨を含む(魚骨層?)
・12	土層	黒褐色 (2.5 Y 3/1 + 3/2)	シルト	グライ化している。径1~2cmの礫、破砕骨等を含む
・13	土層	黒褐色 (2.5 Y 5/2)	シルト	グライ化している。破砕貝、骨等微量含む
・14	土層	オリーブ褐 (2.5 Y 5/2)	シルト	グライ化している、径1cmの礫、破砕貝、骨等の微量含む
・15	土層	黒褐色 + にぶい黄色 (2.5 Y 5/2 + 6/4)	シルト	地山に近い土層が混在する。サルス含む
・16	土層	黒褐色 + にぶい黄色 (2.5 Y 3/1 + 6/4)	シルト	地山に近い土層が混在する。サルス含む

## Fa41

層No.	層名	土色	土性	その他
1	土層			耕作土、2次堆積による貝層含
2	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	砂	旧表土?
3	土層	黒色 (10YR 4/1)	砂質シルト	ややしまっている。炭化物、径10cm前後の礫含む、包含層
4	土層	黒褐色 (10YR 5/2)	砂質シルト	ややしまっている。炭化物、径10cm前後の礫含む、包含層
5	土層	黒褐色 + 褐色 (10YR 5/3 + 5/4)	砂	やわらかい、炭化物を含む、包含層
6	土層	暗褐色 (10YR 4/3)	砂	径2~3cmの礫含む、破碎骨等を含む
・7	土層	黒褐色 (10YR 4/1)	砂質シルト	破碎貝、骨等微量含む、径2~3cmの礫含む
・8	土層	暗褐色 (10YR 4/3)	砂	
・9	土層	黒褐色 (10YR 4/1)	砂質シルト	径4~5cmの礫、破碎貝、骨等微量含む
・10	土層	明赤褐色 (5 YR 5/6)	砂質シルト	酸化している。径6~7cmの礫、フレーク片等を含む
・11	土層	黒褐色 (10YR 4/1)	砂質シルト	風化礫、破碎貝、貝等微量含む
・12	混貝土層	黒色 (7.5 YR 4/1)	シルト	粘性弱、炭化物多量、イガイ等の破碎貝、魚獣骨等含む

## ② Dj37・38, Eb37

## a、基本層序

斜面部中位に分布する包含層には、貝層と魚骨層などがある。貝層は、Dj37区のボーリング調査によって表土下約2.7m地点から確認され、精査の結果、第10図に示すように東南方向にゆるやかに傾斜しながら、混貝土層、魚骨層を伴って分布することが明らかにされている。またDj37区の南側Eb37区でも、ボーリング調査によって表土下約3.4m地点から魚骨片、炭化物を多量に含む土層サンプルが得られたが、ここではDj37区の包含層の分布状況を中心に、各層の堆積状態や対応関係などについて記述する。

第1層 表土の耕作土である。2次堆積による貝層を含む。

第2層 黒褐色砂層10YR 5/2。鉄製品・鉄さいを含む。攪乱。

第3層 灰黄褐色砂層10YR 5/2。鉄製品・鉄さいを含む。攪乱。

第4層 黒褐色砂層7.5 YR 5/2。鉄製品、須恵器細片などの遺物が出土する。径5~8cmの礫を含む。南側のEb37区にかけて層厚を増す。

第5層 黒褐色~灰黄褐色砂質シルト層7.5 YR 5/2~5/4。遺物の出土量は少ないが、鉄製釣針1点が出土するほか、この層と対応するDj38区5層、上層にあたるEb37区5層からも出土しており特筆される。

第5b層 黒褐色砂質シルト7.5 YR 5/2。細かい破碎骨を含む層で、発掘時点では分層された層である。Eb37区の6層下部では、径20~40cmの礫が含まれる。

第6層 黒色砂質シルト層7.5 YR 4/1。東南方向に層厚を増す層であるが、Dj38区の対応す

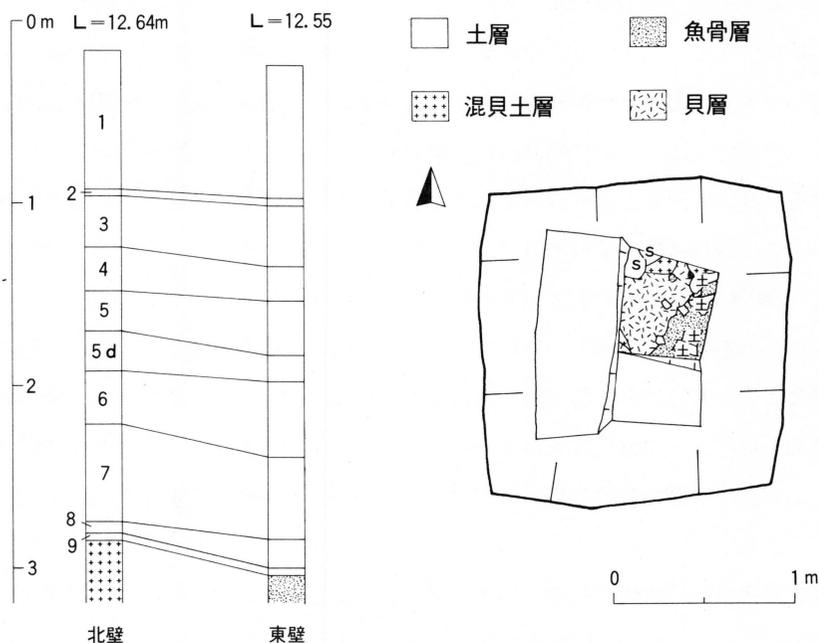
る層の下部は、未調査のため把握されていない。Eb37区の対応する7層からは、鉄製品1点が得られている。

第7層 黒色砂質シルト層7.5YR 3/1。粘性は弱く、炭化物、径1～2cmの礫を含む。石器、須恵器などが出土するが、量的には少ない。この層中からのボーリング調査によって第10層の包含層を検出している。東側の北壁で約50cmの層厚を測る。Eb37区との層の対応は明確ではない。

第8層 黒色砂質シルト層7.5 YR 3/1。粘性は弱い。グリッド内東南側にゆるやかに傾斜しながら層厚を増し、約7～16cmを測る。径10～20cmの礫を含む。遺物の出土量は少ない。Eb37区の10層?に対応する。

第9層 黒色砂質シルト層7.5YR 3/1。貝層直上の層である。層厚約4cmで薄く、粘性は弱い。グリッド内東側では、この層下に魚骨層が分布する。

第10層 黒褐色シルト層7.5 YR 3/1 + 2.5 Y 3/1。貝層を包含する層である。大部分は破砕貝でアサリなどが含まれるが、主体となる貝種は取り上げ資料からは把握されていない。グリッド内北東隅0.5mの範囲で分布が確認されているが、更に広がる可能性がある。また貝層には、混貝土層、魚骨層が伴っており、東南方向にゆるやかに傾斜する。魚骨層は貝層の東側部分に



第10図 Dj37区 貝層検出状況及び断面柱状図

分布し、マグロの椎骨などの資料が得られているほか、縄文時代前期中葉頃の土器片が伴出する。Eb37区では、貝層は検出されていないが、表土下約3.4 mのボーリング地点で大別された層の17層からは、マグロ、イルカ、マダイなどの部位骨、破片を含む魚骨層が検出され、貝層と同時期の土器片が含まれていることが知られた。

## b、出土遺物

※土器・土製品（第11図・第12図・第8表）

縄文時代前期・中期・後期・晩期，弥生時代，平安時代の遺物が出土している。第11図81～85は、縄文時代前期の資料である。81は口縁部資料である。口縁に沿って二条の沈線が巡り、沈線間及び体部にS字状連鎖沈文が施文される。胎土に少量の植物性繊維が混入する。82～84は小波状の貼付文を、85は梯子状の貼付文を有する資料である。83は円筒形の深鉢である。口縁は直立ぎみに立ちあがり、口縁に沿って小波状文と、小波状文に連結する横位の弧状文の貼付がみられる。口唇部にはボタン状の貼付文を有する。体部は無文である。

86～96は縄文時代中期の資料である。86は帯状の貼付文を有する資料で、貼付文には刻目を有している。87は横位の二条の隆線により文様を意匠している。88～90・92は渦巻文を有する資料である。渦巻文の意匠は、沈線によるもの（90・92），隆線によるもの（89），隆沈線によるもの（88）がある。91は一条の隆線により口縁部と体部を区画し、体部に平行隆線による曲線文を意匠する資料である。93～95は、口縁部は無文で、頸部から体部にかけて磨消縄文手法による楕円文が垂下する。96は、沈線によって曲線文を意匠し、磨消縄文手法を用いている。

第11図97～102・第12図103～112は縄文時代後期の資料である。97・100～108は、刺突・刻目・平行沈線を文様構成要素とする資料である。各文様構成要素は、単独で用いるものと並用するものがあり、刻目文列を単独で用いる資料（104・107・108），単独の平行沈線（100・101），沈線・平行沈線＋刺突文列・刻目文列（97・99・103・105・106），平行沈線＋刺突（102）がある。97は厚手の資料で、沈線上に大きな刺突を施しており、他の資料とは様相を異にする。99は体部に羽状縄文を施文している。98は体部資料である。磨消縄文手法により曲線文を意匠し、曲線文の末端には小円刻文を有する。109～112は所謂貼瘤土器の破片である。貼瘤上に刻目を有するもの（112），二個一対の貼瘤を有するもの（111）などがある。

113～132は縄文時代晩期の資料である。113は三叉文を施文する資料である。口唇部に刻目を有する。114・115は羊歯状文を施文する資料である。114では口唇部に二個の突起を有している。116・117・120～126は雲形文・K字文を施文する資料である。磨消縄文が多用される。124・126は口縁が内反し、口唇部に数条の沈線が巡り、124では口唇部に刻目を有

する。116・117・120・121は口縁が外傾する資料である。120・121は口唇部に小突起を有する。119は皿の底部資料である。表裏に一条の隆帯を有している。127～132は変形工字文を主モチーフとする資料である。変形工字文は、浮文によるもの（127・131・132）と沈線によるもの（128～130）がある。129・131は二個一対の小突起を有する。口縁形状は、128～130が内反しており、131・132は外傾する。131では口唇部に小突起を有している。

133は弥生時代の遺物と思われる資料である。口縁は内反し、口唇部に二条・口縁部内側に一条の沈線が巡る。口縁部には変形工字文が施文されている。

134～136は土製品である。133は土器片を再利用した資料である。土器片を円型に打ち欠き、両側縁に切り込みを入れている。切り込みには、糸による擦れた痕が認められる。土錘と思われる。135は器種不明の土製品である。沈線・刺突により加飾を行なっている。136は土偶の足と思われる資料である。

平安時代の遺物は、4層～7層中より出土している。いずれも小破片のため図示していない。

第8表 Dj37・38, Eb37 出土土器一覧表

図版	グリッド・層位	器形	文様の特徴	他	内面調整	
第11図	81	Dj 38	3層	深鉢	口頸：S字状連鎖沈文→横位平行沈線、胎土：植物性繊維を含む	ナデ
	82	Dj 37	11層	深鉢	胴：横位縄文（RL）→波状貼付文+弧状貼付文	ナデ
	83	Dj 37	11層	深鉢	口唇：ボタン状貼付文、口頸：波状貼付文+弧状貼付文	ミガキ
	84	Eb37	19層	深鉢	胴：横位縄文（RL）→波状貼付文	ナデ
	85	Dj 38	8・9層	深鉢	頸：縄文（？）→梯子状貼付文	摩滅
	86	Eb37	1層	深鉢	口頸：波状貼付文→刻目、胴：縦位縄文（RL）→貼付文	ミガキ
	87	Dj 37	不明	深鉢	口頸：横位縄文（LR）→横位多条隆線	ミガキ
	88	Eb37	1層	深鉢	胴：渦巻文	ミガキ
	89	Dj 37・38	表採	深鉢	口頸：隆沈線（渦巻文）	ミガキ、ナデ
	90	Eb37	1層	深鉢	胴：横位縄文（RL）→多条沈線渦巻文	ミガキ
	91	Dj 37	1層	深鉢	口頸：隆沈線、胴：斜め縄文（RL）→隆沈線	ミガキ
	92	Eb37	6層	深鉢	胴：区画沈線文→充填縄文（RL）	ミガキ
	93	Eb37	1層	深鉢	胴：横位縄文（LR）→区画沈線文→磨消縄文	ミガキ
	94	Eb37	1層	深鉢	胴：縦位縄文（LRL）→区画沈線文→磨消縄文	ミガキ
	95	Dj 37	4層	深鉢	胴：横位縄文（RL）→区画沈線文→磨消縄文	ミガキ
	96	Eb37	6層	深鉢	胴：斜め縄文（LR）→区画沈線文→磨消縄文	ミガキ
	97	Dj 38	3層	深鉢	口頸：横位平行沈線→刺突	ミガキ
	98	Dj 38	1層	深鉢	胴：横位縄文（LR）→区画沈線文+円刻文→磨消縄文	ミガキ
	99	Dj 38	1層	深鉢	口端：沈線→刻目、口頸：横位沈線+磨消縄文、胴：横位縄文（羽状縄文LR、RL）	ミガキ
100	Eb37	1層	深鉢	口頸：横位縄文（LR）→横位平行沈線→磨消縄文	ミガキ	
101	Dj 37	4層	深鉢	頸：横位縄文（LR）→横位平行沈線	ミガキ	
102	Eb37	6層	深鉢	口頸：横位縄文（LR）→横位平行沈線+刺突	ミガキ	
第12図	103	Eb37	1層	深鉢	口端：瘤状小突起、口頸：横位縄文（LR）→横位平行沈線→磨消縄文+刺突	ミガキ
	104	Eb37	1層	深鉢	口唇：刻目、頸：横位縄文（RL）+横位刺突列	ミガキ
	105	Eb37	1層	深鉢	口頸：横位平行沈線→刺突列	ナデ
	106	Eb37	6層	深鉢	胴：横位縄文（LR）→横位平行沈線→磨消縄文+刺突	ナデ
	107	Eb37	1層	深鉢	胴：横位縄文（RL）+横位刺突列、胎土：金雲母多し	ミガキ
	108	Eb37	6層	深鉢	胴：横位縄文（LR）+横位刺突列、胎土：金雲母多し	ミガキ
	109	Eb37	6層	深鉢	口頸：横位縄文（LR）→横位平行沈線→刻目+瘤状突起	ミガキ
	110	Eb37	1層	深鉢	胴：横位縄文（LR）→区画沈線→磨消縄文→ボタン状貼付	ミガキ
	111	Eb37	1層	深鉢	胴：縄文（燃糸）→区画沈線→磨消縄文→瘤状小突起	ナデ
	112	Eb37	1層	深鉢	口端：突起→刻目、胴：横位平行沈線→突起	ミガキ
	113	Dj 38	1層	鉢	口頸：三叉文+横位沈線	ミガキ
	114	Eb37	1層	鉢	口唇：小突起、口頸：縄文（？）→区画沈線→磨消縄文	ミガキ

115	Eb37	6層	注口?	口頸:羊歯状文	ミガキ
116	Dj 37	1層	注口?	口端:三叉文、頸:渦巻状沈線、内面:沈線	ミガキ
117	Eb37	1層	皿	口唇:沈線、口端:横位沈線、胴:縄文(?)→区画沈線→磨消縄文	ミガキ
118	Dj 37	9層	深鉢	口端:刻目、口頸:横位平行沈線→刻目、胴部:横位縄文(RL)、内面:沈線	ミガキ
119	Dj 38	1層	皿	内面:隆帯、外面:平行沈線+隆帯	ミガキ
120	Eb37	1層	皿	口唇:小突起、口端:横位平行沈線、胴:縄文(?)→区画沈線→磨消縄文	ミガキ
121	Eb37	1層	皿	口唇:小突起、口端:横位平行沈線、胴:横位縄文(LR)→区画沈線→磨消縄文	ミガキ
122	Eb37	6層	鉢	胴:横位縄文(LR)→区画沈線→磨消縄文	ナデ
123	Eb37	1層	注口?	胴:縄文(?)→区画沈線→磨消縄文	ミガキ
124	Eb37	6層	鉢	口唇:刻目、口頸:横位平行沈線→刻目、胴:横位縄文(LR)→区画沈線→磨消縄文	ミガキ
125	Dj 37	不明	鉢	胴:横位縄文(LR)→区画沈線→磨消縄文	ミガキ
126	Eb37	6層	鉢	口端:横位平行沈線、胴:横位・斜め縄文(LR)→区画沈線→磨消縄文	ミガキ
127	Eb37	8層	鉢?	胴:浮文	ミガキ
128	Dj 37	8層	鉢	口頸:平行沈線+工字文	ミガキ
129	Eb37	1層	鉢	胴:沈線+二個-対瘤状小突起	ミガキ
130	Dj 37	10層	鉢	頸:横位沈線→瘤状小突起、内面:沈線	ミガキ
131	Eb37	1層	鉢	口唇:沈線+突起、口端:突起、頸:浮文、内面:沈線	ミガキ
132	Eb37	1層	鉢	口唇:沈線+突起、口頸:浮文、内面:沈線	ミガキ
133	Eb37	7層	鉢	口端:横位平行沈線、胴:区画沈線、内面:沈線	ミガキ
134	Dj 37	8層	土錘		
135	Dj 37	10層	土製品	沈線+刺突	
136	Dj 38	1層	土製品		

※石器・石製品（第13図・第14図・第9表）

石鏃9点、尖頭器5点、石錐6点、石匙1点、ピエス・エスキュー3点、不定形石器9点、石製円盤6点、石棒2点、磨製石斧1点、装身具1点が出土した。137～145は石鏃である。無茎石鏃2点（137・138）・有茎石鏃7点（139～145）が出土している。無茎石鏃は正三角形に近い形を呈し、側縁形状は直線的である。基部に抉りをもたず円基をなすもの（137）と、抉りを有するもの（138）がある。有茎石鏃は、縦長に形作られるものが多くみられる。側縁形状は直線的なものが多いが、141では外側に弧を描いている。身部と茎部の境が明瞭なもの（139・141）と不明瞭なもの（140・142～145）がある。146～150は尖頭器と思われる資料である。基部はいずれも尖基をなしている。側縁形状は、外側に弧を描くもの（146～148・150）と、内側に弧を描くもの（149）がある。151～156は石錐である。頭部と身部の区別がなく縦長に形作られるもの（151～155）・頭部を有するもの（156）がある。156は若干の剥離で頭部を作り出している。157は石匙である。刃は両面加工で、二辺に認められる。158・159・161はピエス・エスキューと思われる資料である。加撃痕を有する。160・162～169は不定形石器である。剥片の二辺に刃部を作り出すもの（162・163・165）、二辺のもの（160・164・166・168・169）、三辺のもの（167）がある。170～174は石製円盤である。扁平な粘板岩を円形に形作る。小型のものと大型のものがある。175・176は石棒である。いずれも欠損しており、175では胴部が、176では頭部が残存する。177は磨製石斧である。若干の刃こぼれを有するが、ほぼ完形である。背面に三個の凹みを有する。178は装身具と思われる資料である。欠損しているため、器形は不明であるが、穿孔を有し、一条の線文が穿孔に連結している。垂飾品であろうか。

第9表 Dj37・38, Eb37 出土石器一覧表

図版	地区・層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	備考	登録番号
第13図 137	Eb37 6層	石 鎌	チャート質粘板岩	18.7	15.4	4	0.9		基部凹基	1483
138	Eb37 10層	石 鎌	粘板岩	17	16.8	3.8	0.85	基部先端欠損	抉り有り	1414
139	Dj 38 8層	石 鎌	極細粒凝灰岩	21.5	11	3.5	0.4		有欠	1468
140	Eb37 1層	石 鎌	粘板岩	21.5	11	3.5	0.7		有欠	1415
141	Dj 38 1層	石 鎌	チャート質粘板岩	26	12	4.8	1.3	基部先端欠損	有欠	1409
142	Dj 38 3層	石 鎌	流紋岩質極細粒凝灰岩	27	10.5	4.5	1.2	基部先端欠損	有欠	1408
143	Eb37 6層	石 鎌	凝灰岩質チャート	29	13	6.8	0.9	基部欠損	有欠	1426
144	Eb37 1層	石 鎌	粘板岩	32	12.2	6.5	1.8		有欠	1451
145	Dj 38 9層	石 鎌	粘板岩質チャート	2.25	6.4	3.8	0.5		有欠	1419
146	Eb37 8層	尖頭器	粘板岩	18	8.8	3.2	0.5		尖基	1446
147	Eb37 6層	尖頭器	粘板岩	24	12	6	1.8		尖基	1442
148	Eb37 9層	尖頭器	粘板岩	32.7	15.8	9.5	3.7	基部一部欠損	尖基	1449
149	Eb37 1層	尖頭器		33	16.8	5.6	2.6		尖基	1729
150	Dj 37 10層	尖頭器	粘板岩	41	19.5	9.3	5.35		尖基	1444
151	Dj 37 10層	石 錐	粘板岩ホルンフェルス	37	10	5.8	2.3		基部頭部区別なし	1443
152	Eb37 6層	石 錐	チャート	26.7	6.8	4.8	2		基部頭部区別なし	1425
153	Dj 38 9層	石 錐	チャート	26	7	6.8	1.2		基部頭部区別なし	1418
154	Dj 38 8層	石 錐	粘板岩	2.25	8	7.5	1.4	頭部欠損	基部頭部区別なし	1469
155	Eb37 10層	石 錐	チャート質粘板岩	39.5	11	7.4	3.8		基部頭部区別なし	1420
156	Dj 37 10層	石 錐	チャート	35.5	25.8	10.6	4.65		頭部有り	1427
157	Eb37 1層	石 匙	チャート質粘板岩	37.5	27.5	9	6.65			1448
158	Eb37 10層	ピエス・エスキーユ	チャート	15	13.2	7	1.45			1431
159	Dj 37 8層	ピエス・エスキーユ	粘板岩	28	20.5	8	5.2			1474
160	Eb37 6層	不定形石器	粘板岩	23.7	18	7.8	2.5		二辺に刃部有り	1707
第14図 161	Dj 37 8層	ピエス・エスキーユ	粘板岩	32	36	10.6	10.2			1473
162	Eb37 6層	不定形石器	粘板岩	27.8	10.8	7.7	2.3		一辺に刃部有り	1668
163	Dj 37 8層	不定形石器	凝灰質粘板岩	25	25	9	6.6		一辺に刃部有り	1476
164	Eb37 1層	不定形石器	細粒凝灰岩	28.6	23	7	4.4		二辺に刃部有り	1482
165	Dj 37 層不明	不定形石器	粘板岩	39.2	29	9.4	10.6		一辺に刃部有り	1730
166	Dj 38 9層	不定形石器	チャート質粘板岩	22	15.5	4	1.3		二辺に刃部有り	1417
167	Dj 37 8層	不定形石器	粘板岩	44.4	29.4	14	15.7		三辺に刃部有り	1475
168	Eb37 1層	不定形石器	粘板岩	35	26.8	14	9.3		二辺に刃部有り	1477
169	Eb37 1層	不定形石器	粘板岩	62	35	18.5	35.7		二辺に刃部有り	1429
170	Eb37 1層	石製円盤	粘板岩	19	17.4	4.8	2.1			1416
171	Eb37 1層	石製円盤	粘板岩	19.5	19.5	4.4	2.1			1462
172	Dj 38 1層	石製円盤	粘板岩	20.6	21.2	4	2.15			1412
173	Eb37 1層	石製円盤	粘板岩	37	34.4	7	12.2			1465
174	Eb37 1層	石製円盤	粘板岩	27.4	28.8	7	6			1464
175	Dj 38 8層	石 棒	粘板岩ホルンフェルス	48.5	17.8	10	13.2	胴部残		1472
176	Dj 38 8層	石 棒	粘板岩	51.8	24	20	37.1	頭部残		1471
177	Dj 37 8層	磨製石斧	硬砂岩質	64	35.5	12	41.6		三個の凹み有り	1441
178	Lj 37 1層	装身具	凝灰岩質チャート	18	21	5.8	2.2		穿孔+線文	1430

※鉄製品・古銭（第15図 179～185）

鉄製釣針3点（179～181）・器種不明の鉄製品2点（182・183）・古銭2点（184・185）が出土した。いずれの資料も、腐蝕が著しい。出土層位は、184・185は攪乱層、179・180・183が7層、182が9層、181が8層である。攪乱層を除き、各層から平安時代の遺物が伴

第10表 Dj37・38, Eb37 出土鉄製品・古銭一覧表

図版	地区・層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
第15図 179	Eb37 7層	鉄製釣針	15.5	14.5	3.0	0.5	腐蝕著しい。チモト部欠損。
180	Eb37 7層	鉄製釣針	20.0	2.0	3.0	0.4	腐蝕著しい。針先端欠損。
181	Dj 37 8層	鉄製釣針	34.5	20.5	4.0	2.8	腐蝕著しい。
182	Eb37 9層	不明	53.0	11.0	5.0	6.3	腐蝕著しい。
183	Dj 37 7層	不明	45.0	7.0	4.5	2.5	腐蝕著しい。
184	Eb37 1層	古銭	26.0	24.0	3.5	3.0	腐蝕著しい。文字読めず。
185	Eb37 1層	古銭	23.0	23.5	2.0	2.8	腐蝕著しい。文字読めず。

出している。181はソフテックスによる写真撮影を行なった資料である。(写真図版16)チモト部は明瞭に形作られ、内鎌を有する。尚、ソフテックスの写真撮影に際しては、名古屋大学文学部の渡辺誠先生並びに、久保和士氏のご協力を得た。記して感謝する次第である。

※骨角器(第15図186～198, 第16図)

釣針・鎌・挟み込み式ヤスの鎌先・骨篋・刺突具・ヘラ状の骨器・装身具等が出土している。186・187は釣針である。186は軸部から彎曲部にかけての資料である。彎曲部はU字形を呈し外鎌を有する。187はチモト部の資料で突起を一個有する。188～191は鹿角製の鎌の基部と思われる資料である。破損のため全体の形状は不明である。188・190・191ではアスファルトが付着している。192は挟み込み式ヤスの鎌先と思われる資料である。頭部が欠損し、胴部から尾部にかけて残存する。「ノ」の字形に反っている。断面形は円形を呈する。胴部に若干ではあるがアスファルトが付着している。193～198は骨篋である。すべて破損品である。198は鹿の右側中手骨近位端後面を利用している。199・200は刺突具である。199は、鹿角を棒状に加工している。201はヘラ状の骨器である。イノシシの右肩甲骨の前縁から棘下窩にかけて残存する。棘下窩に刃部を作り出し、刃部には若干の刃こぼれを有する。陵には擦痕を有している。202～204は装身具と思われる資料である。202は骨片に穿孔を有する資料である。貫通しておらず未製品と思われる。材質は、人骨の大腿骨片である可能性がある。203・204は鹿角を板状に加工したものである。203は破損しているため全体の形状は不明であるが、線文を有している。204は三角形形状を呈し、側縁は擦ってある。自然面・海綿質面を残す。腰飾りの未製品であろうか。

第11表 Dj37・38, Eb37 出土骨角器一覧表

図版	地区・層位	器種	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号
第15図186	Eb37 1層	釣針	鹿角	2.2	1.4	3	3	チモト部先端・鎌先端一部欠損。	387
187	Dj38 1層	釣針	鹿角	2.0	4	4	5	チモト部～軸部残。突起を有する。	397
188	Eb37 6層	鎌	鹿角	2.3	6	5	5	基部のみ残。アスファルト付着。	534
189	Eb37 1層	鎌	鹿角	2.3	7	5	5	基部のみ残。	448
190	Eb37 6層	鎌	鹿角	3.1	8	6	1.1	基部のみ残。アスファルト付着。	504
191	Eb37 6層	鎌	鹿角	3.2	8	6	1.1	基部のみ残。アスファルト付着。	505
192	Eb37 6層	挟み込み式ヤス鎌先	鹿角	5.6	1.5	9	3.0	頭部欠損。基部にアスファルト若干付着。	388
193	Eb37 1層	骨篋	中手中足骨	4.4	1.0	7	2.3		577
194	Eb37 1層	骨篋	中手中足骨	3.3	1.6	8	2.2	基部のみ残。	567
195	Eb37 1層	骨篋	中手中足骨	4.2	1.1	5	1.2	ヘラ先部のみ残。	391
196	Eb37 1層	骨篋	中手中足骨	4.3	1.0	4	1.9		458
197	Eb37 6層	骨篋	鹿中手骨	2.6	1.5	6	2.3	前面利用	451
198	Eb37 1層	骨篋	鹿右中手骨	11.6	1.9	1.3	11.5	後面利用	446
第16図199	Eb37 1層	刺突具	鹿角	3.9	8	7	2.4		447
200	Eb37 1層	刺突具	中手中足骨	5.4	9	7	2.1		579
201	Eb37 1層	ヘラ状骨器	イノシシ右肩甲骨	11.6	3.6	1.7	13.3		568
202	Dj38 1層	装身具?	人?大腿骨	3.4	2.5	1.0	3.2	穿孔あり。	398
203	Dj37 8層	装身具	鹿角	1.8	1.3	0.4	0.6	穿孔+線文。	449
204	Eb37 1層	装身具	鹿角	8.2	6.8	1.6	26.0		559

※自然遺存体

第12表は、斜面部中位の各発掘区から得られた動物遺存体の出土数の一覧表である。第6表の層の対応関係を示した層番号に従って、種及び部位別に選別、分類しているが、ボーリング調査から得られている資料は含まれていない。またこの表の第12層の遺存体は、Dj37区の貝層に伴う魚骨層から、得られた資料である。この調査では包含層の発掘は行なわれていないため、他の遺存体は明らかにされていない。

第12表 Dj37・38, Eb37 出土自然遺存体

第12表-1 出土魚骨

種・部位・層	子自の種		カツオ				マグロ類			ブリ			スズキ			マダイ														
	サメ目	アオサメ	主鰓蓋骨	椎	尾部棒状骨	下尾軸骨	歯骨		方骨	椎	前上顎骨		歯骨	椎	前上顎骨		歯骨	主鰓蓋骨	椎	前頭頂骨	前上顎骨	上顎骨		歯骨	関節骨		方骨		舌顎骨	前鰓蓋骨
	尾棘	椎					歯	骨			L	R			L	R						L	R		L	R	L	R		
Dj37	1	2	1	1	3	1	1	1	2	1	2	4	1	1	1	3	5	2	4	2	7	1	3	2	2	1	1	2		
	3				8				2													1						1		
	4~6	3			18				3		1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	2	1						
	7					1			4							1	1													
	8	1	1		4				2								1													
	9								3																					
	10				2				5													1	1							
合計	15	1	1	63	1	1	1	46	1	1	2	5	1	1	1	2	4	7	3	6	2	9	2	2	6	2	3	1	1	3

第12表-2 出土シカ骨

種・部位・層	マダイ		タイ類		フグ目		カサゴ科の一種			ヒラメ		マダラ		アイナメ	
	後側頭骨	椎	上顎歯	下顎歯	歯骨	前鰓蓋骨	椎	歯骨	椎	舌顎骨	椎	歯骨	椎	舌顎骨	
															L
Dj37	1		10	1					1		1			1	
	3														
	4~6	1	2		1		1		2		1				
	7														
	8		1												
	9														
	10		2												
合計	1	15	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1		

種・部位・層	シカ													
	鹿角片	下顎骨		上腕骨		尺骨		踵骨		距骨		脛骨		
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	
Dj37	1	4	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	
	4~6	16											1	
	7	6												
	8	1												
	9	1												
	合計	65	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	

第12表-3 出土シカ上顎骨

種・部位・層	L				R				
	M <sup>3</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	P <sup>4</sup> P <sup>3</sup> P <sup>2</sup> C	切歯骨	切歯骨	C	P <sup>2</sup> P <sup>3</sup> P <sup>4</sup>	M <sup>1</sup> M <sup>2</sup> M <sup>3</sup>
Dj37-38 Eb37	1			(m <sup>3</sup> )					(M <sup>2</sup> )(M <sup>3</sup> )

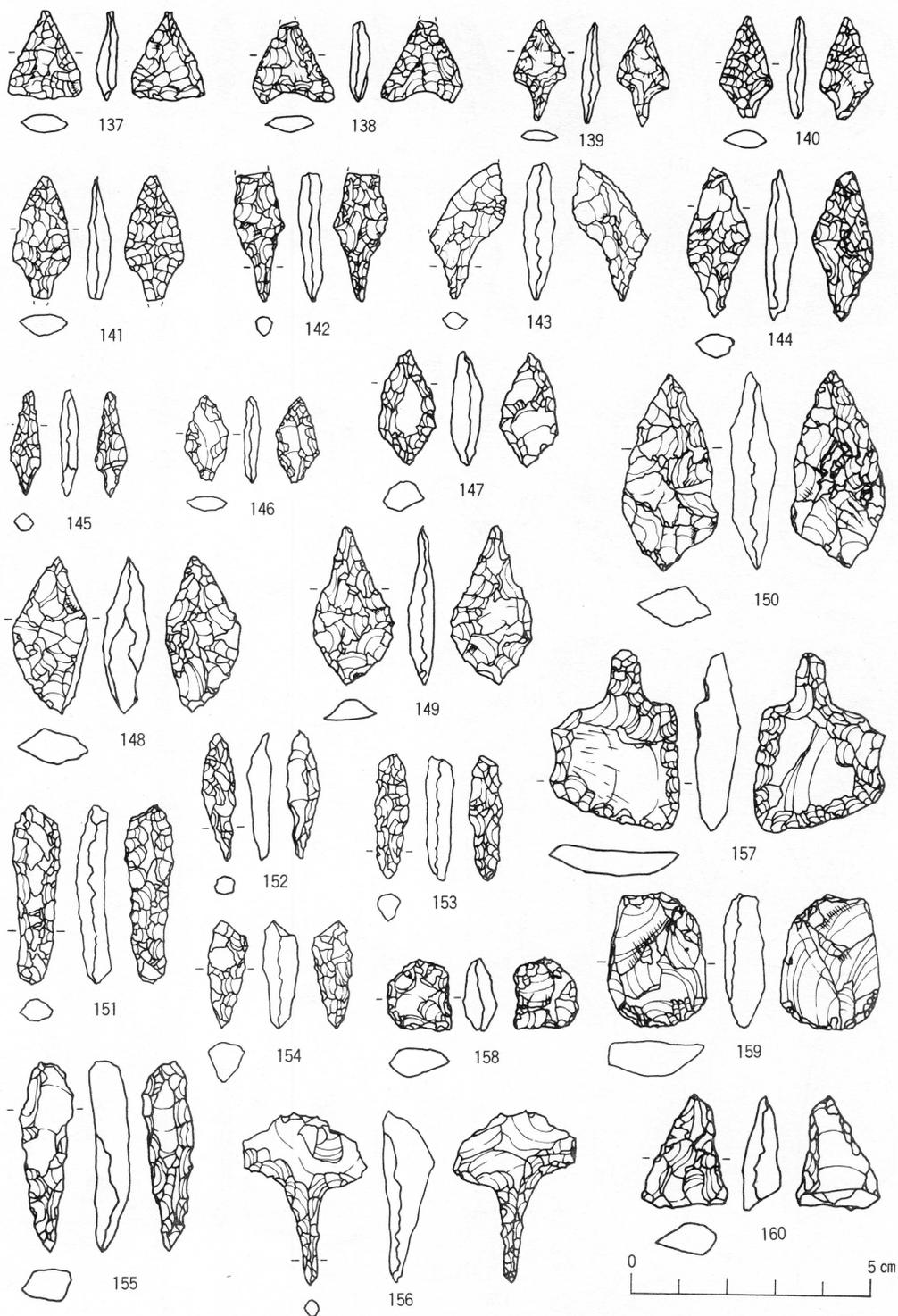




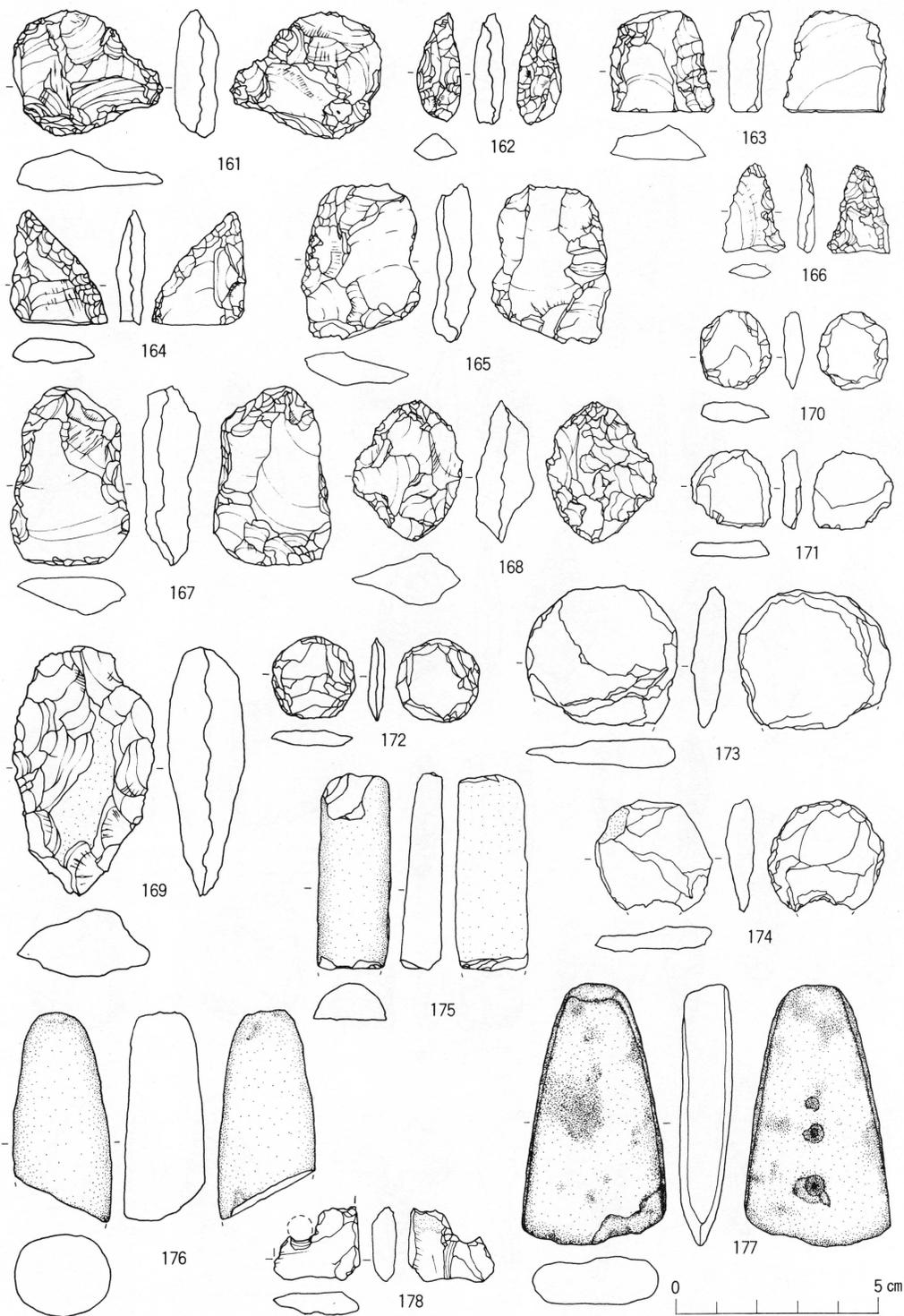
第11图 Dj37·38, Eb37 出土土器



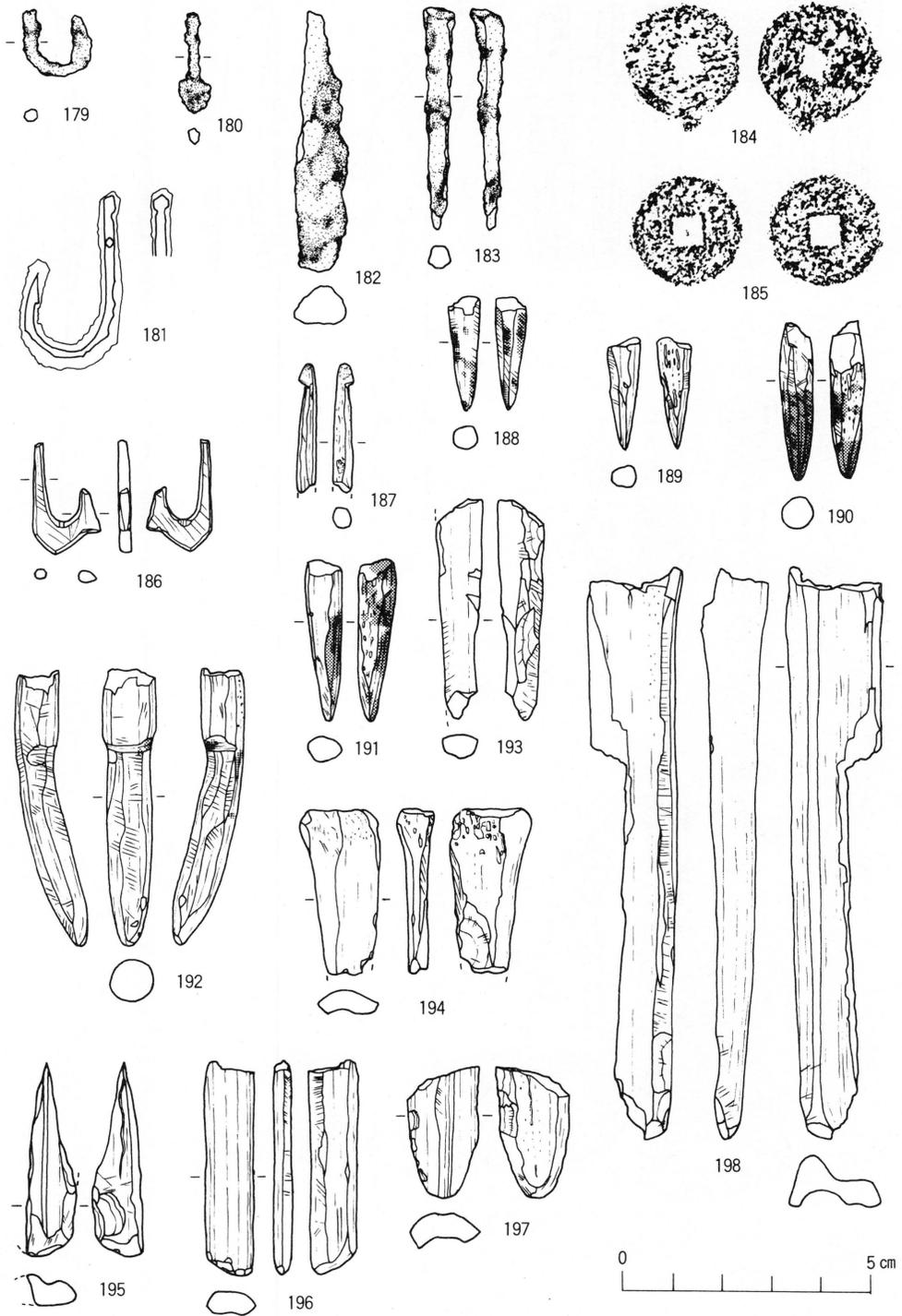
第12図 Dj37・38, Eb37 出土土器・土製品



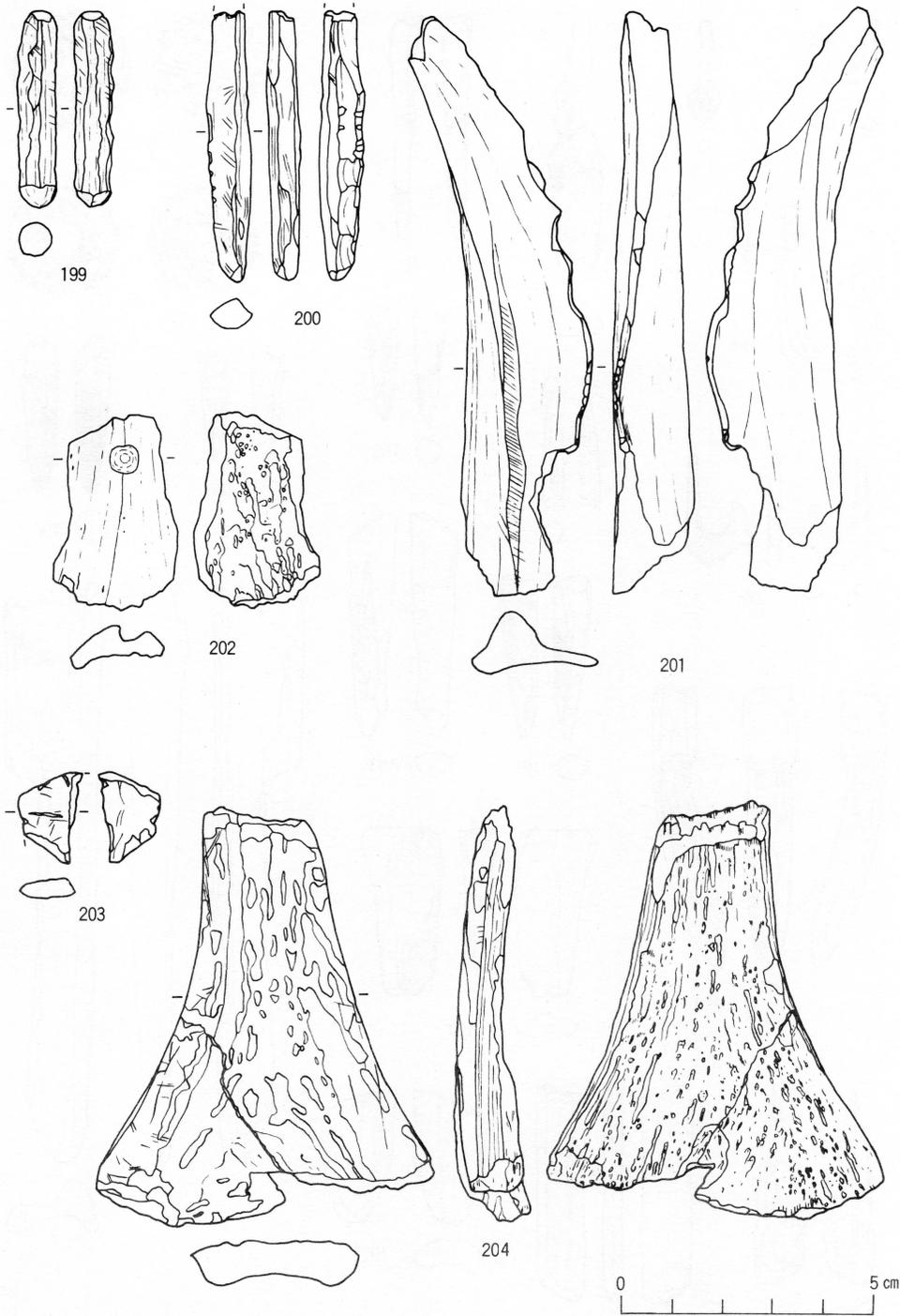
第13图 Dj37·38, Eb37 出土石器



第14図 Dj37・38, Eb37 出土石器・石製品



第15図 鉄製品・古銭・骨角器



第16图 骨角器

## 2. E40・F40地区

該区の斜面部東側の大部分は、現在水田として利用されている。この水田に隣接する西側部分は、中沢浜貝塚の指定範囲の東側境にあり、僅かに畑地として取り残されている。この斜面部下位にあたる畑地では、骨角牙製品、石器、土器片などの遺物が採集され、貝殻などの散布が見受けられるが、斜面部中位においては、殆どが盛土が施された畑地で、遺物は得られていない。

これらの畑地部分の調査にあたっては、1.5×3 mグリッドを基本として、斜面部中位の標高約11～12 m地点にEa40、Ed40区の、下位では標高約9～10 m地点にEh40、Fa41区のグリッドを設定し、遺物包含層などの検出状況に応じて拡張した。

その結果、Ea40、Ed40区の盛土下は、砂層が厚く堆積しており、しかも砂層上部の大部分は耕作等の攪乱を受け出土遺物も少なく、主にEd40区の砂層下部から縄文土器、須恵器などの破片、石器などが得られることが知られた。また、各区とも約1.5 m掘下げ地点から自然湧水のためボーリング調査が行なわれ、Ea40区の表土下2.9 m地点からは混貝土層が検出されることが判明したほか、Ed40区では、約2.3～2.6 m地点から縄文前期末葉頃の遺物を伴う土層が検出され、更に最下部の3.9 m地点で、ほぼ地山に達した。

Eh40、Fa41区では、弥生時代頃の遺物包含層の分布などが確認された。この包含層は、Eh40の南西側隅部分からFa41区の西側、東西0.7 m、南北2.6 mの範囲にかけては急に落ち込み消滅しているが、層厚約30 cmで南側にゆるやかに傾斜しながら東側に広がるように分布し、精査の結果幾層かに細分層されることが判明した。そして分層された各層からは、縄文前期前葉～晩期末葉頃の土器とともに、弥生時代に属する復元可能な土器が出土した。発掘時点では遺物の出土状況などから遺構の可能性もあり、層の落ち込み状態などを確認しながら掘下げを行なっているが、同区からは検証されていない。また、この包含層下には、出土量は少ないが、縄文土器をはじめ、獣骨類、人骨片などの遺物を伴う砂層が堆積することが判明しており、つづくボーリング調査の結果からは、Eh40区では表土下約3.5 m地点で地山に達すること、Fa40区では約3 m地点から混貝土層が検出されることなどが知られた。そのほか、各区の表土中には、貝層ブロックなどが含まれ、骨角牙製品などの各種の遺物が得られたが、ここでも2次堆積によるものであることが判明している。

### ① Ea40・Ed40

#### a、基本層序

斜面部東側中位の層序は、第9図に示し、第7表には、各層の土色や土性などについての一

覧表を付しているが大部分、ボーリング調査による土層サンプルの観察結果に基づいている。そのため各層の対応は明確ではないが、第6表に従って層の堆積状態などについて記述する。

第1層は、表土の耕作土及び攪乱層である。上部は地山色の盛土が堆積し、下部は砂層及び砂質シルト層である。Ea40区では、特に攪乱が著しく表土下約1.4 m地点から自然湧水する。Ed40区では、鉄さいなどが得られているが、そのほかの出土遺物は少ない。第2層・第3層は、主にEd40区に堆積する砂層、砂質シルト層で、いずれも緩やかに南及び東方向に傾斜する。縄文土器、須恵器など各時期の遺物がある。出土量は少ない。第4層～第11層は、シルト層であるが、Ea40区とEd40区との層の対応は不明確である。Ed40区の大別される4層～7層には、ホ乳類などの骨片が含まれるほか、6層からは大木7b、7層からは大木7a式などの縄文中期前葉頃の土器片が得られる。第12層は、グライ化した層である。Ea40、Ed40区に堆積し、同一層の可能性はある。第13層～第18層の対応は判然としない。Ea40区の大別される層の8層は混貝土層で、縄文前期中葉頃に相当する大木4式の土器片が伴出している。またこの層中に認められる貝は、破碎貝が多く含まれるが、種などを知る資料は得られず不明である。そのほかの遺物としては、マグロなどの魚骨や破碎骨などが含まれている。Ed40区では、この層は検出されていない。9層は混貝土層下の層である。Ed40区の11層との対応は明確ではないが、この11層中から得られた土器底部、体部、口縁部破片などの資料には、繊維の混入する土器片などが含まれており、前期初頭頃の包含層としての可能性が考えられる。更にこの層下では、サルスを多く含む地山に近い土層を検出している。

## b、出土遺物

### ※土器・土製品（第17図・第13表）

縄文時代中期・後期・晩期，平安時代の遺物が出土している。205～214は縄文時代中期の資料である。205は深鉢である。胴部が膨らみ、頸部で締まり、口縁は外傾する。口唇部には貼付文を有する。頸部から胴部にかけて、縦位の弧状沈線，斜め・横位の沈線によって文様が意匠されている。206・207は同タイプの資料で、横位の沈線+斜め・弧状の沈線により文様を意匠する。208・209は体部資料である。横位の沈線・波状沈線が施文される。210は刺突文列を有する資料である。口縁は波状を呈し、若干であるが内反する。211～213は帯状の貼付文を有する資料である。貼付文上に、211では縄による刻目が、212では縄文の充填がみられる。214は渦巻文を有する資料である。

215～218は縄文時代後期の資料である。215～217は横位の沈線を施文する資料で、沈線間に刻目を施すもの（215・217）と、縄文を施文するもの（216）とがある。215は口唇

部に山形の突起を有し、突起には刻目を有する。218はボタン状の貼付文を有する資料である。口唇部に刻目を有し、頸部には磨消縄文が施こされる。

219～224は縄文時代晩期の資料である。219は口縁部資料である。口縁は内反し、口唇部に小突起を有する。口頸部には横位の沈線が施文され、沈線間には刻目を有する。220～222は雲形文・K字文を意匠する資料で、221・222では磨消縄文を用いている。220は、口唇部が大きく内側に突出し、突起・刺突文列を有する。223・224は、沈線+二個一対の貼瘤を有している。

225は平安時代の遺物である。須恵器の甕の体部資料である。

226～228は土製品である。226・227は土製円盤である。土器片の再利用であるが、227は厚手である。228は器種不明の土製品である。穿孔を有する。表面には貼付文を有し、貼付文上には刺突が施こされている。

第13表 Ea40・Ed40 出土土器・土製品

図版	グリッド・層位	器形	文様の特徴他	内面調整他
第17図 205	Ed 40 13層	深鉢	口唇：突起+刻目、口頸：横位沈線+斜め沈線(末端渦巻文)+縦位弧状沈線	ミガキ
206	Ed 40 9層	深鉢	口頸：横位平行沈線+斜め沈線	ミガキ
207	Ed 40 11層	深鉢	胴：横位平行沈線+縦位弧状沈線	ミガキ
208	Ed 40 9層	深鉢	胴：縦位縄文(LR)+縦位綾絡→横位沈線+横位波状沈線	ミガキ
209	Ea 40 1層	深鉢	胴：横位縄文(LR)→横位沈線+横位波状沈線	ミガキ
210	Ed 40 10層	深鉢	口頸：刺突文列	ミガキ
211	Ed 40 8層	深鉢	胴：横位縄文(LR)→带状貼付文→刻目	ミガキ
212	Ed 40 8層	深鉢	胴：横位縄文(LR)→带状貼付文→充填縄文(RL)、胎土：金雲母多し	ミガキ
213	Ed 40 2層	深鉢	口端：沈線、口頸：横位縄文(LR)→带状貼付文	ミガキ
214	Ed 40 8層	深鉢	口頸：貼付文+渦巻文、胎土：金雲母多し	ミガキ
215	Ea 40 1層	深鉢	口唇：突起→刻目、口頸：横位平行沈線→刻目	ミガキ
216	Ed 40 2層	深鉢	胴：横位縄文(LR)→横位平行沈線	ナデ
217	Ed 40 2層	深鉢	胴：横位平行沈線→刻目	ナデ
218	Ed 40 2層	鉢	口端：刻目、口頸：縄文(?)→横位平行沈線→磨消縄文+ボタン状貼付文	ナデ
219	Ea 40 1層	鉢	口唇：小波状突起、口頸：横位平行沈線→刻目、胴：横位縄文(LR)	ミガキ
220	Ea 40 1層	鉢	口唇：突起→刻目+横位沈線+刻目、口頸：横位縄文(LR)→区画沈線→磨消縄文	ナデ
221	Ed 40 3層	鉢	胴：横位縄文(LR)→区画沈線→磨消縄文	ナデ
222	Ea 40 1層	鉢	胴：横位縄文(LR・RL)→区画沈線→磨消縄文	ミガキ
223	Ed 40 8層	鉢	口唇：突起、口頸：横位平行沈線→二個一対瘤状貼付文、内面：沈線	ナデ
224	Ed 40 2層	鉢	口唇：刻目、胴：横位沈線→二個一対瘤状貼付文、内面：沈線、胎土：金雲母多し	ミガキ
225	Ed 40 8層	甕	須恵器	
226	Ed 40 3層	土製円盤		
227	Ed 40 3層	土製円盤		
228	Ea 40 表採	土製品	表：隆線→刺突	

第14表 Ed40 出土石器・石製品一覧表

図版	地区・層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	備考	登録番号
第18図 229	Ed40 1層	石鏃	粘板岩ホルンフェルス	23.0	13.0	3.5	0.85		無珪石鏃	1406
230	Ed40 1層	石鏃	極細粒凝灰岩	34.5	23.5	7.5	4.7		無珪石鏃	1405
231	Ed40 1層	石鏃	チャート	27.5	10.0	9.0	1.4			1407
232	Ed40 3層	不定形石器	輝緑凝灰岩	36.5	18.5	7.0	1.4			1410
233	Ed40 8層	不定形石器	チャート	28.0	14.0	10.0	3.3			1411
234	Ed40 1層	石製円盤	粘板岩	31.5	32.0	6.0	5.5			1689

第15表 Ea40・Ed40 出土骨角器

図版	地区・層位	器種	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号
第18図 235	Ea40 1層	鋸頭	鹿角	27.0	10.0	11.5	1.7	頭部・尾部欠損	507
236	Ea40 1層	骨篋	鹿右中手骨	104.5	27.0	16.5	14.8	前面利用	522
237	Ed40 1層	装身具?	鹿角(?)	73.0	11.0	6.5	4.5		384

※石器・石製品（第18図 229～234・第14表）

石鏃2点・石錐1点・不定形石器2点・石製円盤1点が出土している。229・230は無茎石鏃で基部に袢りを有する。側縁形状は、229が外側に弧を描き、230では袢りを有する。231は石錐である。頭部と身部の境が不明瞭である。232・233は不定形石器である。刃部は両側縁に形作られ、外側に弧を描いている。234は石製円盤である。扁平な粘版岩を円形に打ち欠いたものである。

※骨角器（第18図 235～237・第15表）

銚頭1点・骨篋1点・装身具？1点が出土している。235は銚頭である。燕形の銚頭で、頭部・尾部が欠損する。背面から腹面にかけて索孔を有する。236は骨篋である。鹿の右側中手骨の近位端前面を利用している。237は装身具と思われる資料である。鹿角？を丁寧に加工し板状にしたものである。垂飾品の未製品であろうか。

※自然遺存体（第16表）

斜面部東側中位の各発掘区から得られた動物遺存体の大部分は、第16表に示しているように、第1層の耕作などによる攪乱層から出土した資料である。現代のものも伴出しており、後世に混入した可能性がある。出土した貝類では、完存貝が比較的多く得られている。

第16表 Ea40・Ed40 出土自然遺存体

○Ea40

第16表-1 出土貝

種・名 区・層	腹足綱							二枚貝綱										
	エゾアワビ	クボガイ	ヒレガニ	レイシガイ	チヂミボラ	ヒメエゾボラ	ミガキボラ	マシシガイ科の一種	イガキ	ハマグリ	ウチラサキガイ	コタマガイ	タマキガイ					
Ea40	1	14	2	1	1	7	1	1	1	5	1	5	1	1	5	4	1	1

第16表-2 出土節足動物

種名 区・層	フジツボ科の一種	
Ea40	1	2

第16表-3 出土棘皮動物

種・部位 区・層	ムキサニ	口器
Ea40	1	1

第16表-4 出土魚骨

種・部位 区・層	アイナメ				サカゴ科				タイル類				マダイ				マグロ類				カツオ																			
	前鰓蓋骨		舌顎骨		椎骨		頭頂骨		椎骨		椎骨		椎骨		椎骨		椎骨		椎骨		椎骨																			
Ea40	1				1				1				1				3				3				1				1				1				1			

第16表-5 出土鳥骨

種・部位 区・層	キジ科		鳥口骨	
	L	R	L	R
Ea40	1			1

第16表-6 出土海獣骨

種・部位 区・層	オットイ		下顎骨	
	L	R	L	R
Ea40	1			1

第16表-7 出土シカ骨

種・部位 区・層	鹿角片		中手骨	
	L	R	L	R
Ea40	1	3		1

○ Ed40

第16表-8 出土貝

種名 区・層	綱		足		腹	
	エゾバイ科の一種	チヂミボラ	レイシガイ	エゾタマガイ	クロタマキビガイ	エゾタマガイ
Ed40	1	3	1	1	1	1

第16表-9 出土魚骨

種・部位 区・層	カサゴ科		マダイ		マグロ類		カツオ		フグ目				カワハキ種	
	前鰓蓋骨	関節骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	上顎歯	下顎歯	背鰭	棘	上顎歯	下顎歯
Ed40	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	20	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第16表-10 出土哺乳類

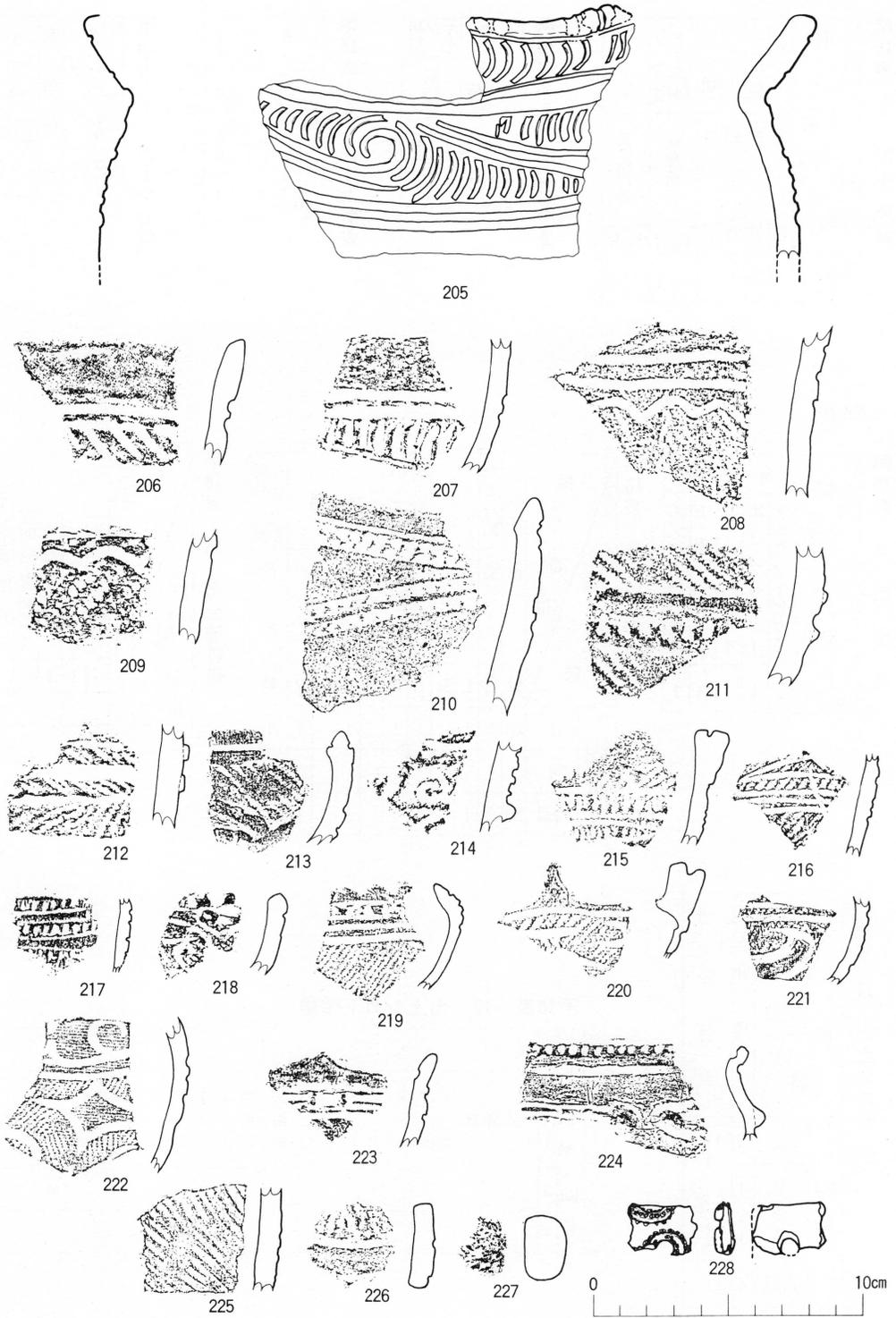
種・部位 区・層	イヌ		イノチ科		不明海獣骨	
	上顎犬歯(C)	上顎臼歯(4 <sup>P</sup> )	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨
Ed40	1	1	3	1	1	1

第16表-11 出土シカ骨

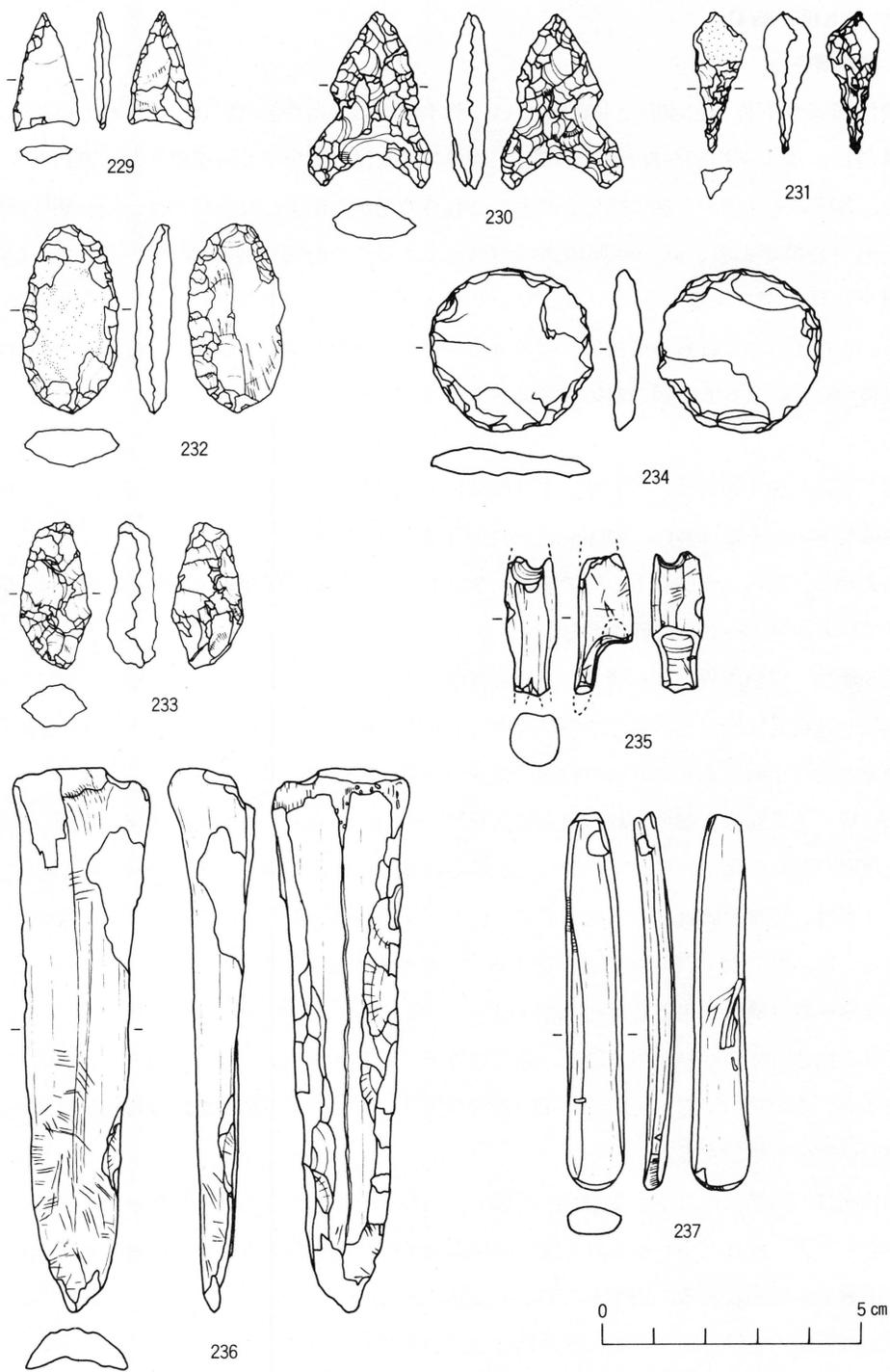
種・部位 区・層	シカ		鹿	
	距骨	角片	L	R
Ed40	1	2	1	1
合計	4	1		

第16表-12 出土シカ下顎歯

歯式 区・層	L				R			
	P <sub>4</sub> P <sub>3</sub> P <sub>2</sub>	C	I <sub>3</sub> I <sub>2</sub> I <sub>1</sub>	切歯部	切歯部	I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> I <sub>3</sub>	C	P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> P <sub>4</sub>
Ed40	M <sub>4</sub> M <sub>3</sub> M <sub>2</sub>	m <sub>4</sub> m <sub>3</sub> m <sub>2</sub>	c	i <sub>3</sub> i <sub>2</sub> i <sub>1</sub>				
合計								(M <sub>2</sub> )



第17图 Ea40·Ed40 出土土器·土製品



第18图 Ea40·Ed40 出土石器·石製品，骨角器

## ② Eh40、Fa41

### a、基本層序

斜面部東側下位のEh40区、Fa41区では、弥生時代頃の遺物包含層が検出されている。この包含層は、表土下約50～60cmに分布し、層厚は最も厚い部分で45cmを測るが、遺物取り上げ層は、各区とも3層～5層に細分される。これらの層から出土した資料には、同一個体の組合せをもつ資料があり、同一時期の遺物包含層であることが明らかにされている。またこの包含層下には、混貝土層などが分布していることが、ボーリング調査によって明らかとなっている。ここでは、これらの遺物包含層の分布状態やボーリング調査結果を中心に層の堆積状態などについて、第6表の層の対応表に従って述べる。土色や土性については、第7表に示している。

第1層は、表土の耕作土である。2次堆積による貝層ブロックを含む。貝層部分からの動物遺存体などの出土量が多い。Eh40区、Fa41区に見受けられる。

第2層は、遺物包含層直上の層で旧表土？である。南方向に緩やかに傾斜し、著しく攪乱をうけている。径30～40cmの礫を含む。

第3層は、黒色砂質シルト層で、遺物包含層である。この層下部からは、縄文・弥生時代頃に相当する復元可能な土器破片や各種遺物などが出土する。Eh40区の南西側隅部分とFa41区西側の東西約0.7 m、南北2.6 mの範囲は消滅し、第2層が厚く覆っている。

第4層・第5層は、細分された遺物包含層で、Eh40区の4層、Fa41区の4層、5層の遺物取り上げ層があり、弥生時代の土器片などが得られ、中には同一個体の組合せをもつ資料が含まれる。4層は、黒褐色砂質シルト層であるが、5層は黒褐色の細砂が混在するにぶい黄褐色砂層である。Eh40区では判然とせず、下部からは自然湧水する。

第6層～第9層は、主としてFa41区のボーリング調査によって大別された層であるが、Eh40区では検出されていない。第6層は、包含層直下の層で、遺物包含層の消滅する西側部分にも堆積する。この層中からも土器片などの遺物が得られているが、形成時期は判然としていない。また西側部分は傾斜する。

第10層は、Eh40区に分布する遺物包含層で、かなり固くしまった酸化した砂層である。この層からも、第4層などから得られる同一器種の弥生時代の資料が出土する。層厚約10cmで、南方向に緩やかに傾斜する。Fa41区では、第9層下に検出されており、同一層の可能性があるとすれば南方向にかけてかなり急に落ち込むことが予想される。

第11層は、黒褐色砂質シルト層で、Eh40区の6層、Fa41区の11層から検出される。

第12層～第21層は、シルト層である。Eh40区の10層下はグライ化した土層が検出される。表

土下約3.3～3.6 m地点にあたる最下部の15層、16層からは、地山色の土層が検出される。またFa41区の大別される12層の、表土下約2.6 m地点からは混貝土層が検出されているが、層中に含まれる主体となる貝種は、破砕貝のため把握されていない。

## b、出土遺物

※土器（第19図～第31図 423～428・第17表）

縄文時代前期・中期・後期・晩期、弥生時代の遺物が出土している。238～242は縄文時代前期の資料である。238・239は、胎土に植物性繊維を含み、不整綾絡文が横位に施文されている。240～242は波状の文様を有する資料で、240・241は貼付文により、242では沈線によって波状文が意匠されている。

243～269は縄文時代中期の資料である。243は縦位の鋸歯状貼付文を有し、貼付文上にはR Lの単節斜縄文が施文される。244～247は沈線による波状文を有し、247では波状口縁をなす。248・249は、口頸部に、口縁に平行する数条の沈線を展開し、沈線間に斜めの弧状沈線（248）・刻目（249）を施文する資料である。249では沈線上に縄文原体の側面圧痕文を有する。251・252は縄文原体の側面圧痕文を有する資料で、252では側面圧痕文により渦巻文や区画文を意匠している。253～255は細い粘土紐の貼付により、曲線・鉤状の文様を意匠している。256・258～261・263～265は渦巻文を有する資料である。渦巻文は、主に隆沈線によって意匠されているが、256では口縁の折り返しと、幅広い粘土紐の貼付により渦巻文が意匠されている。265では口唇部に渦巻文を有する。266～269は、隆線・沈線・磨消縄文の並用により区画文を意匠する資料である。

第20図 270～274は縄文時代後期中葉と思われる資料である。270は、底部付近の資料で、横位の平行沈線の間、斜めの沈線を施文している。271は壺の口縁部資料である。口縁部に鱗状の突起を有し、突起には刻目が施される。刻目は突起より口縁部下半に横位に展開し、口縁部と体部を区画する。272・273は横位の多条平行沈線を施文し、沈線間には縄文が施文される。274は、沈線・磨消縄文により区画文を意匠する。全体的に入念な磨きかけられている。

275～302は、縄文時代後期後葉～晩期前葉にかけての資料である。275～278は、横位平行沈線+刻目により文様を意匠する資料である。276は口縁部資料で、刻目の施された山形の突起を口唇部に有している。279～285は、沈線・磨消縄文により区画文を意匠する。口縁形状は、小波状口縁（279・283）のもの・口唇部に突起を有するもの（281・282・285）がある。294・295は、入組文を有する資料で、入組区画内には刺突が施される。入組文の交点には半裁竹管による交互刺突がなされ、294では波状を呈している。286～290・292・297～299・302は、三叉文・玉抱き三叉文を有する資料である。290・292は、三叉文が接続し、

交点に刺突が施してある。289は、口縁部の突起資料である。中央部に穿孔を有し、その回りに三条の三叉文が施文されている。表裏とも入念に磨かれている。302は深鉢の口縁～体部上半にかけての資料である。口縁は若干であるが内反し、口唇部に突起を有する。文様は頸部に施文され、口縁部と体部には縄文が施文される。文様部と地文部は沈線によって区画される。頸部文様帯には、三叉文・玉抱き三叉文・入組文が施文され、入組文は一条の沈線によって分断されている。円文の中央部には径3mm程の穿孔を有する。

303～310は縄文時代晩期中葉の資料である。磨消縄文が多用され、沈線+磨消縄文により、雲形文等が意匠されるが、全体的に小破片のためモチーフは不明である。310は壺の体部～底部にかけての資料である。体部上半には磨消縄文によって工字文を意匠する。体部下半には縄文が施文され、文様部と地文部は二条の沈線によって区画されている。

第22図311～319・第23図～30図・第31図423～428は弥生式土器と思われる資料である。高坏・鉢・壺・甕・蓋が出土している。出土点数も多く、以下器種ごとに説明を行なう。尚、口縁部資料で、高坏・鉢のどちらの器種に属するか不明のものは、一括して説明してある。

#### A 高坏（第22図311～319・第23図320～336・第24図・第25図351～353）

311・315・316・347・349は二個一対の瘤を有する資料である。311は、頸部がくびれて口縁部が外反し、波状口縁をなす。波状部に刻目を有する。口唇に一条、内面に波状沈線・横位沈線の二条の沈線が施文され、波状沈線は波状部の刻目に連結する。342・343は二個一対の瘤をもたず変形工字文を有する資料である。口縁は波状を呈し、342では波状部に刻目を有している。口縁形状は、342では外傾ぎみに立ちあがり、343では頸部がくびれて口縁部が外反している。変形工字文は体部上半に施文され、体部下半にはLRの単節斜縄文が横位に施文され、343では脚部にも縄文が施文されている。312・313・344は、三条の横位平行沈線を一単位として文様を意匠する資料である。口縁は平縁をなし、若干ではあるが313では外反・344では内反する。文様は体部上半の上段と下段に一単位ずつ施文され、体部下半には縄文が施文されている。344では口縁部にも横位の沈線が一条巡る。328・350は脚部資料であるが、三条の横位平行沈線を一単位として施文している。319～327・348は三条の横位平行沈線と、1～4条の弧状・波状の沈線によって文様を意匠している。329～336・345・346は磨消縄文手法を用いている資料である。355・346は平縁をなし、口縁部は外傾する。口頸部に三条の横位平行沈線を巡らし、体部文様部と区画する。体部文様部には磨消縄文による三角形状文等の区画文が意匠される。体部下半は無文で、沈線によって文様部と区画されている。

#### B 鉢（337・338・354～356）

337・354～356は、二個一対の瘤を有する。口縁は354では波状、337・355・356では

平縁をなす。口縁形状は、337は内反、356は外傾、354・355は、頸部で直立ぎみに立ちあがっている。354～356は体部上半に変形工字文が施文され、体部下半は、縄文が施文されるもの（354・355）と無文のもの（356）とがある。337は、体部は無文で、口頸部に四条の横位平行沈線を有している。338は、二個一對の瘤をもたず、変形工字文を施文する資料である。口縁は波状を呈し、口縁部は内反している。頸部には二条の沈線を巡らし体部と区画する。体部には施文の雑な変形工字文が意匠され、さらに一条の沈線が巡り、下半の無文部とを区画している。

C 高坏・鉢破片資料（第23図339～341、第26図・第27図・第28図395～405）

高坏・鉢の破片で、底部の形状の不明なものについては一括して説明を行なう。第23図339～341・第26図357～365は二個一對の瘤を有する資料である。339は頸部がくびれ口縁部は外反している。変形工字文内に刻目を有する。340・341・357・358は、口縁は平縁をなし、頸部がくびれ、340では外反、341・357・358は内反している。357では体部上半に変形工字文を意匠し、一条の横位沈線を巡らし、体部下半の地文部と区画している。359～364は、二個一對の瘤を有し、波状口縁をなす資料である。頸部がくびれ、口縁部は外反する。波状部に360・362～364では刻目を有し、361では凹みを有する。359では、波状部の口唇部のみに横位の短い沈線が三条施文されている。

366は浮文を有する資料である。三条の浮文が一単位となり文様を意匠する。高坏・鉢の破片として取り扱ったが、蓋の可能性を有する。

367～390は、二個一對の瘤がなく、変形工字文を意匠する資料である。367～377は口縁が波状を呈する。頸部がくびれ口縁部が外反するもの（367～371）、口縁部が外傾するもの（372～375）、口縁部が外反するもの（376・377）がある。波状部は刻目を有するもの（369・371）と、凹みを有するもの（368・374～376）がある。378～391は口縁が平縁をなす。頸部で「く」の字状に折れ曲り内傾するもの（378・379）、頸部がくびれ外反するもの（380）、口縁部が外傾するもの（381～391）がある。各資料は、内面に口縁に沿うように一条の沈線を有している。

394～402は磨消縄文手法を用いている資料である。394は、口縁は波状を呈し、波状部に凹みを有する。体部は外傾ぎみに立ちあがり、頸部で若干内反している。頸部には三条の沈線が巡り体部文様部と区画する。体部文様部には、沈線+磨消縄文により変形工字文が意匠される。395～401は平縁をなす資料である。体部から口縁部にかけて外傾する資料が多くみられるが、401では頸部で一度締め、口縁が外傾している。頸部に横位の沈線を施文し体部文様部と区画している。402は体部資料であるが、文様部と無文部とを区画する横位の沈線内にも磨消縄文がみられる。

403～405は、横位平行沈線と地文のみによって加飾を行う資料である。三条の平行沈線が一単位となっている。403・404は口縁が波状口縁をなし、波状部には凹みを有する。404では波状部に連結する弧線が施文されている。平行沈線は体部上半に施文され、体部下半には縄文が施文されている。口縁形状は、403が外傾・404が外反する。405は、口縁が平縁をなし、口縁部は外傾する。平行沈線は頸部に施文され、体部には縄文が施文されている。

#### D 小型鉢（第28図406・407）

406は、瘤を有する資料である。体部上半で最大幅を測り、頸部で一度締め、口縁部は直立ぎみに立ち上がる。口縁は平縁をなす。施文は、頸部に四条の横位平行沈線を巡らし体部には縄文を施文している。407は磨消縄文手法を用いる資料である。体部が膨らみ、頸部が締め、口縁部は外傾し、「く」の字状に折れ曲っている。

#### E 壺（第28図408～410・第29図・第30図418）

408・409・416は口縁部資料である。口縁が平縁をなすもの（408・409）と、波状口縁をなすもの（416）とがある。口端部に二条の沈線（408・409）と、隆帯（416）を施している。408・416では二個一対の瘤を有する。411～414は肩部資料である。沈線+刺突文列（411）、磨消縄文（412～414）によって施文されるものがある。410は体部下半の資料である。多重の変形工字文が施文される。417・418は体部中央部で最大幅を測る壺である。頸部で締め、口縁部は417では外反している。頸部に横位の沈線を巡らし、口縁部無文帯と体部地文部を区画する。体部にはLRの単節斜縄文を斜めに施文している。415は無文の壺である。口縁部が狭く、晩期の資料の可能性がある。

#### F 甕（第30図419～422）

419は体部上半で最大幅を測る。頸部は締め、口縁は外傾する。頸部に横位の沈線を一条巡らし、体部地文部と区画する。420～422は変形工字文を有する資料である。421・422は二個一対の瘤を有している。口縁形状は420・421が内反している。421では平縁をなす。

#### G 蓋（第31図423～428）

423～428は蓋と思われる資料である。横位・斜めの単節縄文を施文するもの（423～426）と、無文でナデの痕を残すもの（427・428）がある。

#### ※土製品（第31図429～439・第17表）

429～436は土製円盤である。土器片を円形・楕円形に加工したものである。436では穿孔を有している。437・438は土製耳飾りである。沈線によって文様を意匠しているが破片のためモチーフは不明である。429は土偶の肩部資料である。沈線・刻目・貼瘤によって文様を意匠する。

第17表 Eh40・Fa41 出土土器・土製品一覧表

図版	グリッド・層位	器形	文様の特徴	他	内面調整他
第19図 238	Fa41	4層 深鉢	口頸：横位縄文（不整縦絡）		ミガキ
239	Eh40	3層 深鉢	胴：横位縄文（不整縦絡）		ナデ
240	Eh40	2層 深鉢	頸：波状貼付文		ミガキ
241	Fa41	4層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→波状貼付文		ミガキ
242	Fa41	2層 深鉢	口端：横位貼付文→刺突，頸：縄文（燃糸）→沈線		ミガキ
243	Fa41・Eh40	表採 深鉢	口頸：縦位鋸齒状貼付文→横位縄文（RL）		ミガキ
244	Fa41	3層 深鉢	頸：横位鋸齒状沈線		ミガキ
245	Fa41	3層 深鉢	頸：縄文（燃糸？）→横位鋸齒状沈線		ミガキ
246	Fa41	3層 深鉢	胴：横位縄文（LR）→横位波状沈線		ミガキ
247	Fa41	3層 深鉢	口端：沈線，口頸：刺突+横位鋸齒状沈線+横位沈線，内面：折り返し		ミガキ
248	Fa41	4層 深鉢	口頸：横位沈線+縦位弧状沈線+刺突		ミガキ
249	Fa41	3層 深鉢	口端：縄文原体押圧+沈線，胴：横位縄文（RL）		ミガキ
250	Fa41	1層 深鉢	口頸：横位縄文（RL）→横位沈線		ミガキ
251	Eh40	3層 深鉢	口頸：縦位縄文（RL）→押圧縄文		ミガキ
252	Fa41	3層 深鉢	口唇：押圧縄文+渦巻状貼付文，口頸：縦位縄文（RL）→押圧縄文		ミガキ
253	Fa41	3層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→貼付文，胎土：金雲母多し		ミガキ
254	Fa41	3層 鉢	口頸：横位縄文（RL）→貼付文，胎土：金雲母多し		ミガキ
255	Fa41	2・3層 深鉢	胴：貼付文		ミガキ
256	Eh40+Fa41	表採 深鉢	口端：折り返し+貼付文，胴：横位縄文（RL）		ミガキ
257	Fa41	2層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）+沈線+貼付文		ミガキ・ナデ
258	Fa41	2層 深鉢	胴：横位縄文（RL）→隆沈線（渦巻文）		ミガキ
259	Eh40	4層 深鉢	口頸：隆沈線（渦巻文）		ミガキ
第20図 260	Fa41	3層 深鉢	口頸：隆沈線（渦巻文）		ミガキ
261	Fa41	3層 深鉢	胴：横位縄文（RL）→隆沈線		ミガキ
262	Fa41	3層 深鉢	頸：斜め縄文（RL）→沈線+貼付文		ナデ
263	Eh40	3層 深鉢	胴：横位縄文（RL）→沈線+貼付文		ミガキ
264	Fa41	3層 深鉢	胴：隆沈線（渦巻文）		ミガキ
265	Fa41	3層 深鉢	口唇：隆沈線（渦巻文），口頸：横位縄文（RL）→沈線→磨消縄文		ミガキ
266	Fa41	3層 深鉢	口頸：横位沈線+区画沈線		ミガキ
267	Fa41	4層 深鉢	胴：斜め縄文（RL）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
268	Fa41	2層 深鉢	口頸：横位縄文（RL）→隆沈線→磨消縄文		ミガキ
269	Eh40	3層 深鉢	胴：横位縄文（RL）→沈線→磨消縄文，胎土：金雲母多し		ミガキ
270	Eh40	3層 深鉢	胴下部：横位縄文（LR）→沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
271	Eh40	11層 壺	口頸：齧状突起→沈線+刻目		ミガキ
272	Fa41	3層 深鉢	胴：斜め縄文（LR）→横位平行沈線+縦位沈線		ミガキ
273	Fa41	5層 深鉢	胴：横位縄文（LR）→横位平行沈線		ミガキ
274	Eh40	1層 壺？	胴：横位縄文（LR）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
275	Eh40	1層 深鉢	胴：刻目→横位沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
276	Eh40+Fa41	表採 深鉢	口唇：突起→刻目，口頸：刻目→横位沈線		ミガキ
277	Eh40+Fa41	表採 深鉢	胴：刻目→横位沈線		ミガキ
278	Eh40	4層 深鉢	胴：刻目→斜め沈線+横位沈線		ミガキ
279	Fa41	4層 深鉢	口頸：区画沈線文→充填縄文（横位RL），胎土：金雲母多し		ミガキ・ナデ
280	Fa41	3層 深鉢	胴：横位縄文（LR）→区画沈線文，胎土：金雲母多し		ミガキ・ナデ
281	Fa41	4層 深鉢	口唇：縄文（RL）→沈線→磨消縄文		ミガキ
282	Fa41	5層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→横位沈線→磨消縄文		ミガキ
283	Fa41	4層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→横位沈線→磨消縄文，胎土：金雲母多し		ミガキ
284	Fa41	3・4層 鉢？	口頸：横位縄文（LR）→横位沈線+区画沈線文		ミガキ
第21図 285	Eh40+Fa41	表採 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
286	Fa41	5層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→区画沈線文，胎土：金雲母多し		ミガキ
287	Fa41	2層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
288	Fa41	4層 深鉢	口頸：縄文（LR）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
289	Fa41	5層 深鉢	突起：縄文（RL）→区画沈線文→磨消縄文		
290	Fa41	2・3層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→横位沈線+三叉文→磨消縄文+刺突		ミガキ
291	Fa41	5層 深鉢	胴：横位縄文（LR）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
292	Fa41	2層 深鉢	口頸：横位縄文（LR）→横位沈線+三叉文→磨消縄文+刺突，胎土：金雲母多し		ミガキ
293	Fa41	1層 深鉢	口頸：横位刺突文列		ミガキ
294	Eh40	4層 深鉢	胴：入組文→半裁竹管刺突+刺突文列		ミガキ
295	Fa41	4層 深鉢	胴：入組文→半裁竹管刺突+刻目		ミガキ

図版	グリッド・層位	器形	文様の特徴	他	内面調整
296	Eh40	1層 深鉢	口頸：横位平行沈線→刺突文列，胎土：金雲母多し		ミガキ
297	Fa41	3層 鉢	口頸：三叉文+横位沈線，胴：横位縄文（L R）		ミガキ
298	Fa41	3層 注口土器	口頸：三叉文+横位沈線		ミガキ
299	Fa41	2層 鉢	口頸：横位縄文（L R）→三叉文+横位沈線→磨消縄文		ミガキ
300	Fa41	3層 注口土器	胴：区画沈線文		ナデ
301	Fa41	3層 鉢	口唇：突起，口頸：羊歯状文，胴：横位縄文（L R）		ミガキ
302	Fa41	4層 深鉢	口唇：突起，口頸：横位縄文（L R）→三叉文+玉抱き三叉文（穿孔有り）→磨消縄文，胴：横位縄文（L R）		ミガキ
303	Eh40	3層 鉢	口唇：沈線+刻目，口頸：横位沈線→刻目，胴：横位縄文（L R）		ミガキ
304	Fa41	1層 鉢	口唇：突起+沈線，口頸：横位縄文（L R）→区画沈線+横位沈線→磨消縄文		ミガキ
305	Fa41	5層 壺	口唇：刻目，口頸：横位縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
第22図 306	Fa41	1層 鉢	胴：横位縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文+刻目		ナデ
307	Eh40	3層 鉢	口唇：刺突，口頸：横位縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文+刻目		ナデ
308	Eh40・Fa41	表採 壺	肩：横位縄文（L R）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
309	Eh40	3層 鉢	口唇：沈線，口頸：横位縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
310	Fa41	3層 壺	胴上半：横位縄文（L R）→工字文+横位沈線→磨消縄文，胴下半：横位縄文（L R）		
311	Eh40	4層 高 坏	口唇：波状部刻目+沈線，胴部上半：変形工字文，内面：沈線		ミガキ
312	Fa41	3層 高 坏	胴下半：横位・斜め縄文（L R）→横位沈線→磨消縄文，胎土：金雲母多し		ミガキ
313	Eh40	3層 高 坏	胴上半：横位平行沈線，胴下半：横位・斜め縄文（L R），胎土：金雲母多し		ミガキ
314	Fa41	3層 高 坏	胴下半：斜め縄文（L R）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
315	Eh40	5層 高 坏	脚部：変形工字文→二個一對瘤，内面：沈線		ミガキ
316	Fa41	2層 高 坏	脚部：横位平行沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
317	Eh40	3層 高 坏	脚部：横位平行沈線		ミガキ・ナデ
318	Fa41	3層 高 坏	脚部：横位平行沈線，内面：沈線		ミガキ
319	Fa41	3層 高 坏	脚部：横位平行沈線+弧状沈線		ミガキ
第23図 320	Fa41	3層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線		ミガキ
321	Fa41	4層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線		ミガキ
322	Fa41	2層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
323	Fa41	3層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線		ミガキ
324	Fa41	2・3層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線		ミガキ
325	Fa41	2層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線		ミガキ
326	Fa41	2・3層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線		ミガキ
327	Fa41	3層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
328	Fa41	3・4層 高 坏	脚部：横位平行沈線		ミガキ
329	Fa41	3層 高 坏	脚部：横位平行沈線+波状沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
330	Fa41	2層 高 坏	脚部：横位縄文（L R）→区画沈線文→磨消縄文		ミガキ
331	Fa41	3層 高 坏	脚部：斜め縄文（L R）→横位沈線+波状沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
332	Fa41	3層 高 坏	脚部：横位縄文（L R）→横位沈線→磨消縄文，朱塗り		ナデ
333	Fa41	3層 高 坏	脚部：斜め縄文（L R）→横位沈線+波状沈線→磨消縄文，胎土：金雲母多し		ミガキ
334	Fa41	3層 高 坏	脚部：斜め縄文（L R）→横位沈線+波状沈線→磨消縄文		ナデ
335	Fa41	3層 高 坏	脚部：斜め縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文，朱塗り		ナデ
336	Fa41	3層 高 坏	脚部：斜め縄文（L R）→横位沈線+波状沈線→磨消縄文		ナデ
337	Fa41	3・4層 鉢	口頸：横位平行沈線→二個一對瘤，内面：沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
338	Fa41	3層 鉢	口頸・胴：横位平行沈線+変形工字文，内面：沈線		ミガキ
339	Eh40	3層 高坏or鉢	胴上半：変形工字文→刻目+二個一對瘤，胎土：金雲母多し		ミガキ
340	Fa41	3層 高坏or鉢	口頸：横位平行沈線+変形工字文→二個一對瘤		ミガキ
341	Eh40	3層 高坏or鉢	口頸：横位平行沈線+変形工字文→二個一對瘤，内面：沈線		ミガキ
第24図 342	Fa41	2・3層 高 坏	口唇：沈線+刻目，胴：横位沈線+変形工字文+横位・斜め縄文（L R），胎土：金雲母多し，朱塗り		ミガキ
343	Fa41	3・4層 高 坏	口唇：沈線，胴上半：変形工字文，胴下半・脚部：横位縄文（L R），内面：沈線		ミガキ
344	Fa41	3層 高 坏	胴上半：横位平行沈線，胴下半：横位縄文（L R），内面：沈線		ミガキ
345	Fa41	3層 高 坏	口頸：横位平行沈線，胴：横位縄文（L R）→区画沈線文→磨消縄文，内面：沈線		ミガキ
346	Fa41	3層 高 坏	口端：横位平行沈線，胴：横位・斜め縄文（L R）→区画沈線文→磨消縄文，胎土：金雲母多し，朱塗り		ミガキ
347	Fa41	3層 高 坏	脚部：横位平行沈線→二個一對瘤		ミガキ

図版	グリッド・層位	器形	文様の特徴	他	内面調整
348	Fa41	3層	高環	脚部：横位平行沈線+波状沈線，胎土：金雲母多し	ミガキ
349	Fa41	3層	高環	脚部：横位平行沈線	ミガキ
350	Fa41	2層	高環	脚部：横位平行沈線，胎土：金雲母多し	ナデ
第25図 351	Fa41	3層	高環	脚部：斜め縄文(LR)→横位沈線+波状沈線→磨消縄文，胎土：金雲母多し，朱塗り	ミガキ・ナデ
352	Fa41	3層	高環	脚部：横位縄文(LR)→横位沈線+波状沈線→磨消縄文，胎土：金雲母多し，朱塗り	ミガキ
353	Fa41	3層	高環	脚部：横位縄文(LR)→横位沈線+波状沈線→磨消縄文，胎土：金雲母多し	ミガキ・ナデ
354	Eh40	3層	鉢	口唇：波状部凹み+沈線，胴：変形工字文+横位縄文→二個一對瘤，胎土：金雲母多し，内面：沈線	ミガキ
355	Eh40	3層	鉢	胴：横位・斜め縄文(LR)→変形工字文→二個一對瘤，内面：沈線	ミガキ
356	Eh40	5層	鉢	胴：横位縄文(LR)→変形工字文→二個一對瘤，内面：沈線	ミガキ
第26図 357	Eh40	3層	高環or鉢	胴上半：横位平行沈線+変形工字文→二個一對瘤，胴下半：横位縄文(LR)，内面：沈線	ミガキ
358	Eh40	3層	高環or鉢	胴上半：横位平行沈線+変形工字文→二個一對瘤，胎土：金雲母多し	ミガキ
359	Eh40	3層	高環or鉢	波状部：横位沈線，口頸：変形工字文，内面：沈線	ミガキ
360	Eh40	2・3層	高環or鉢	波状部：刻目，胴：横位平行沈線+変形工字文+横位縄文(LR)→二個一對瘤，胎土：金雲母多し	ミガキ
361	Eh40	3層	高環or鉢	波状部：凹み，胴上半：横位平行沈線+変形工字文→二個一對瘤，内面：沈線	ミガキ
362	Eh40	4層	高環or鉢	波状部：刻目+沈線，胴上半：横位平行沈線+変形工字文→二個一對瘤，内面：沈線	ミガキ
363	Eh40	3層	高環or鉢	波状部：刻目，胴上半：変形工字文+横位縄文(LR)→二個一對瘤，内面：沈線	ミガキ
364	Eh40	3層	高環or鉢	波状部：刻目+沈線，胴：変形工字文+横位縄文→二個一對瘤，胎土：金雲母多し，内面：沈線	ミガキ
365	Eh40	5層	高環or鉢	胴：変形工字文+横位縄文(LR)→二個一對瘤	ミガキ
366	Eh40	3層	高環or鉢	胴：横位浮文+波状浮文	ミガキ
367	Eh40	4層	高環or鉢	口唇：沈線，胴：沈線，内面：沈線	ミガキ
368	Eh40	3層	高環or鉢	口唇：沈線，波状部：凹み、口頸：沈線，内面：沈線	ミガキ
369	Fa41	4層	高環or鉢	波状部：刻目，口唇：沈線，口頸：沈線，内面：沈線	ミガキ
370	Fa41	2層	高環or鉢	口頸：横位沈線，内面：沈線	ミガキ
371	Eh40	3層	高環or鉢	波状部：刻目，胴：変形工字文+横位沈線+縄文，内面：沈線	ミガキ
372	Fa41	3層	高環or鉢	口頸：変形工字文+横位沈線，内面：沈線	ミガキ
373	Fa41	3層	高環or鉢	口頸：変形工字文+横位沈線，内面：沈線，胎土：金雲母多し	ミガキ
374	Fa41	5層	高環or鉢	波状部：凹み、口頸：変形工字文+横位沈線	ミガキ
第27図 375	Fa41	3・4層	高環or鉢	口唇：凹み，口頸：変形工字文+横位沈線，内面：沈線	ミガキ
376	Fa41	3層	高環or鉢	口唇：沈線+凹み，口頸：横位沈線，内面：沈線	ミガキ
377	Fa41	3層	高環or鉢	口唇：沈線，胴：横位沈線+変形工字文+横位縄文(LR)，内面：沈線	ミガキ
378	Eh40	3層	高環or鉢	胴上半：横位沈線+変形工字文，胴下半：横位縄文(LR)，内面：沈線	ミガキ
379	Eh40	5層	高環or鉢	口頸：沈線，内面：沈線	ミガキ
380	Fa41	2層	高環or鉢	口頸：横位沈線+変形工字文，内面：沈線，胎土：金雲母多し	ミガキ
381	Fa41	2層	高環or鉢	胴：横位沈線+変形工字文+横位縄文(LR)，内面：沈線	ミガキ
382	Fa41	不明	高環or鉢	口頸：横位沈線+変形工字文，内面：沈線	ミガキ
383	Fa41	2層	高環or鉢	口頸：横位沈線+変形工字文，内面：沈線	ミガキ
384	Eh40	3層	高環or鉢	口頸：横位沈線+変形工字文，内面：沈線，胎土：金雲母多し	ミガキ
385	Fa41	3層	高環or鉢	口唇：沈線，胴：横位沈線+変形工字文，胎土：金雲母多し	ミガキ
386	Fa41	5層	高環or鉢	口唇：沈線，胴：横位沈線+変形工字文，内面：沈線	ミガキ
387	Fa41	4層	高環or鉢	口頸：横位沈線+変形工字文，内面：沈線	ミガキ
388	Fa41	3層	高環or鉢	口頸：横位沈線+斜め沈線，内面：沈線	ミガキ
389	Fa41	3・4層	高環or鉢	口頸：横位沈線+変形工字文，内面：沈線	ミガキ
390	Fa41	3層	高環or鉢	口頸：横位沈線+変形工字文，内面：沈線，胎土：金雲母多し	ミガキ
391	Fa41	3層	高環or鉢	口唇：突起+横位沈線，口頸：横位沈線+変形工字文，内面：沈線	ミガキ
392	Eh40	1層	高環or鉢	胴下半：横位沈線+斜め縄文(LR)，胎土：金雲母多し	ミガキ
393	Eh40	2層	高環or鉢	胴下半：横位沈線+横位縄文(LR)，胎土：金雲母多し	ミガキ
394	Fa41	2・3層	高環or鉢	口唇：凹み，胴：横位縄文(LR)→横位沈線+変形工字文→磨消縄文，内面：沈線	ミガキ
第28図 395	Fa41	3層	高環or鉢	口頸・胴：斜め縄文(LR)→横位沈線+区画沈線→磨消縄文，内面：沈線，胎土：金雲母多し	ミガキ
396	Fa41	3層	高環or鉢	口頸・胴：斜め縄文(LR)→横位沈線+区画沈線→磨消縄文，内面：沈線	ミガキ

図版	グリッド・層位	器形	文様の特徴	他	内面調整他
397	Fa41	3層 高坏or鉢	口頸・胴：斜め縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文，内面：沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
398	Fa41	3層 高坏or鉢	口頸・胴：斜め縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文，内面：沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
399	Fa41	3層 高坏or鉢	口頸：横位縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文，内面：沈線		ミガキ
400	Fa41	3層 高坏or鉢	口頸：横位縄文（L R）→横位沈線+斜め沈線→磨消縄文，内面：沈線		ミガキ
401	Fa41	3層 高坏or鉢	口頸・胴：斜め縄文（L R）→横位沈線+斜め沈線→磨消縄文，内面：沈線		ミガキ
402	Fa41	5層 高坏or鉢	胴：横位縄文（L R）→横位沈線+斜め沈線→磨消縄文		ミガキ
403	Eh40	3層 高坏or鉢	口唇：凹み+沈線，口頸・胴：横位縄文（L R）+横位沈線，内面：沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
404	Fa41	3層 高坏or鉢	口唇：凹み，口頸：横位沈線，内面：沈線		ミガキ
405	Fa41	3層 高坏or鉢	口頸：横位沈線，胴：斜め縄文（L R），内面：沈線，胎土：金雲母多し		ミガキ
406	Eh40	4層 小型鉢	口頸：横位沈線→二個一對瘤，胴：横位縄文（L R），胎土：金雲母多し		ミガキ
407	Fa41	3層 小型鉢	胴：斜め縄文（L R）→横位沈線+区画沈線文→磨消縄文，朱塗り		ミガキ
408	Fa41	5層 壺	口端：横位沈線→二個一對瘤，内面：沈線		ミガキ
409	Eh40	3層 壺	口端：横位沈線，内面：沈線		ミガキ
410	Fa41	2・3層 壺	胴下半：変形工字文		ミガキ
第29図	411	Eh40	3層 壺	肩部：横位沈線+変形工字文→刺突文	？
	412	Fa41	3層 壺	肩部：横位縄文（L R）→区画沈線文→磨消縄文，胎土：金雲母多し	ナデ
	413	Fa41	3層 壺	肩部：斜め縄文（L R）→区画沈線文→磨消縄文，胎土：金雲母多し	ナデ
	414	Fa41	2・3層 壺	肩部：斜め縄文（L R）→区画沈線文→磨消縄文	ミガキ
	415	Fa41	3層 壺	無文	？
	416	Eh40	3層 壺	口唇：突起+沈線，口頸：横位貼付文→二個一對瘤，内面：沈線	ミガキ
	417	Fa41	3層 壺	頸部：横位沈線，胴：横位縄文（L R）	磨滅著しい
第30図	418	Eh40・Fa41	3層 壺	胴：斜め縄文（L R），胎土：金雲母多し	ナデ
	419	Fa41	3層 甕	口頸：沈線，胴：斜め縄文（L R）	ミガキ
	420	Eh40	3層 甕	胴上半：変形工字文+横位沈線，胴下半：横位縄文（L R），内面：沈線	ミガキ
	421	Eh40	3層 甕	口頸：変形工字文→二個一對瘤，胴：斜め縄文（L R），内面：沈線	ミガキ
	422	Eh40	3層 甕	胴上半：横位沈線→二個一對瘤，胴下半：横位縄文（L R）	ミガキ
第31図	423	Fa41	3層 蓋	斜め縄文（L R）	ミガキ
	424	Fa41	3層 蓋	斜め縄文（L R）	ミガキ
	425	Fa41	3層 蓋	斜め縄文（L R）	ミガキ
	426	Fa41	1層 蓋	横位縄文（L R）	ミガキ
	427	Fa41	3層 蓋	無文，ナデ	ナデ
	428	Fa41	3層 蓋	無文，ナデ	ナデ
	429	Fa41	5層 土製円盤		
	430	Eh40	3層 土製円盤		
	431	Fa41	5層 土製円盤		
	432	Fa41	4層 土製円盤		
	433	Eh40	3層 土製円盤		
	434	Fa41	5層 土製円盤		
	435	Eh40・Fa41	表採 土製円盤		
	436	Fa41	5層 土製円盤	穿孔あり	
	437	Fa41	5層 土製耳飾り	沈線	
	438	Fa41	3層 土製耳飾り	沈線	
	439	Eh40	3層 土偶り	肩部：沈線→刻目	

※石器・石製品（第32図～第35図、第18表）

石鏃20点、尖頭器4点、石錐12点、石匙3点、ピエス・エスキュー1点、不定形石器20点、石錘1点、石製円盤2点、石刀1点、打製石斧1点、磨製石斧2点が出土した。石鏃は、無茎石鏃（440～449）と有茎石鏃（450～459）がある。無茎石鏃は、縦長のものが多くみられるが、正三角形に近いもの（446）もある。側縁形状は外側に弧を描くもの（441～447）と、内側に弧を描くもの（449）がある。基部に挟りをもたず平基をなすもの（440～442）と挟りを有するもの（443～449）がある。有茎石鏃は、縦長に形作られるものが多くみられ、特に454のように身部と基部の比が4：1と、身部を非常に長く作り出す例もある。側縁形状は直線的なもの、外側に弧を描くもの、内側に弧を描くものがある。

460～463は尖頭器である。基部が尖基をなすもの（460・461）と、円基をなすもの（462・463）がある。464～475は石錐である。頭部と身部の区別がなく縦長に形作られるもの（464～472）・剥片の先端部に短い錐部を形作るもの（473・474）・頭部を有するもの（475）がある。476～478は石匙である。横長で刃を両面に有するもの（476・477）と、縦長で片面加工のもの（478）がある。479はピエス・エスキューである。長方形に形作られ、加撃痕を有する。480～496・500・501は不定形石器である。剥片の一部に刃を作り出すものが多くみられるが、488～490のように二辺に刃を作り出すものもある。479は、扁平な粘板岩の両側縁に挟りをいれた資料で、石錘と思われる。作りは雑である。502は打製石斧と思われる資料である。刃部は欠損し、頭部に加撃痕を有する。498・499は石製円盤である。粘板岩を円形に整形している。503は石刀である。欠損のため全体の形状は不明である。器面全体に擦痕を有する。504・505は磨製石斧である。504は頭部が、505は刃部が欠損する。

第18表 Eh40・Fa41 出土石器・石製品一覧表

図版	地区・層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	備考	登録番号	
第32図	440	Fa41 2層	石鏃	流紋岩質極細粒凝灰岩	15.0	14.0	5.0	0.85		無茎	1484
	441	Fa41 5層	石鏃	流紋岩質極細粒凝灰岩	19.0	10.0	4.5	0.7		無茎	1452
	442	Eh40 3層	石鏃	粘板岩質チャート	15.0	12.5	4.5	0.7		無茎	1614
	443	Eh40 2層	石鏃	粘板岩	20.0	9.0	3.0	0.5		無茎	1461
	444	Eh40 3層	石鏃	輝緑凝灰岩質チャート	12.0	14.0	2.5	0.3	身部・基部欠損	無茎	1450
	445	Fa41 5層	石鏃	チャート	15.5	12.0	3.0	0.4		無茎	1459
	446	Fa41 3層	石鏃	粘板岩	15.0	14.0	3.0	0.35		無茎	1497
	447	Eh40 3層	石鏃	チャート	25.0	15.0	5.5	1.2	基部欠損	無茎	1481
	448	Eh40 3層	石鏃	珪質頁岩	21.0	17.5	6.0	1.5	基部欠損	無茎	1587
	449	Eh40 3層	石鏃	チャート質粘板岩	18.0	13.0	4.0	0.7	身部・基部欠損	無茎	1453
	450	Eh40 6層	石鏃		16.5	10.5	3.0	0.5		有茎	1731
	451	Fa41 3層	石鏃	粘板岩	24.0	13.0	5.0	1.4		有茎	1496
	452	Eh40 3層	石鏃	粘板岩	21.0	11.0	4.0	0.8		有茎	1422
	453	Fa41 3層	石鏃	粘板岩	28.5	15.5	5.5	1.3		有茎	1495
	454	Eh40 3層	石鏃	粘板岩	57.5	10.0	6.0	2.4		有茎	1456
	455	Fa41 3層	石鏃	チャート	20.5	8.0	3.5	0.5	身部先端・基部若干欠損	有茎	1616
	456	Eh40 表探	石鏃	玻璃質流紋岩	39.5	12.0	4.0	1.1		有茎	1439
	457	Fa41 2層	石鏃	粘板岩	24.5	10.0	4.0	0.8		有茎	1701
	458	Eh40 2層	石鏃	粘板岩	34.0	10.5	7.0	2.1		有茎	1423
	459	Fa41 3層	石鏃	凝灰岩質チャート	27.5	10.0	6.0	1.2		有茎	1491
	460	Fa41 2層	尖頭器	粘板岩	37.5	15.0	8.0	4			1485
	461	Eh40 3層	尖頭器	極細粒凝灰岩	36.0	16.0	9.5	4.2			1708

図版	地区・層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	備考	登録番号	
462	Fa41	3層	尖頭器	粘板岩	41.0	20.0	9.0	6.1		1507	
463	Eh40	2層	尖頭器	チャート	23.0	17.0	7.0	2.7		1506	
464	Fa41	3層	石錐	凝灰質粘板岩	27.5	5.0	5.0	0.65	肩部頭部区別なし	1458	
465	Eh40	5層	石錐	粘板岩	27.0	6.5	4.5	0.65	肩部頭部区別なし	1494	
第33図	466	Fa41	4層	石錐	粘板岩	20.0	6.5	6.0	1	肩部頭部区別なし	1686
467	Fa41	4層	石錐	粘板岩	29.0	7.0	5.5	0.75	肩部頭部区別なし	1687	
468	Fa41	3層	石錐	粘板岩	34.5	9.0	6.5	2.7	肩部頭部区別なし	1547	
469	Fa41	3層	石錐	粘板岩	39.0	9.0	8.5	3.4	肩部頭部区別なし	1421	
470	Eh40	3層	石錐	チャート質粘板岩	38.0	11.5	12.0	4.5	肩部頭部区別なし	1588	
471	Fa41	3層	石錐	粘板岩	52.5	10.0	11.5	5.3	肩部頭部区別なし	1493	
472	Fa41	2層	石錐	粘板岩	42.0	18.0	9.0	5.4	肩部頭部区別なし	1703	
473	Eh40	12層	石錐	粘板岩	38.5	28.0	10.5	6.8	三角形状	1699	
474	Eh40	3層	石錐	凝灰質粘板岩	21.0	19.0	5.5	1.4		1479	
475	Fa41	2層	石錐	粘板岩質チャート	55.0	23.5	9.0	4.5	頭部有り	1498	
476	Fa41	3層	石匙	凝灰岩質チャート	32.0	46.5	10.5	8.4	横長	1492	
477	Eh40	2層	石匙	チャート質凝灰岩	28.0	52.0	9.0	11	横長	1546	
478	Eh40	11層	石匙	珪質頁岩	55.5	33.5	12.0	15.6	縦長	1489	
479	Eh40	3層	ヒエス・エスキーユ	粘板岩	22.2	15.0	6.0	2.15		1480	
480	Eh40	3層	不定形石器	チャート	16.5	17.5	4.5	1.3		1435	
481	Eh40	3層	不定形石器	輝緑凝灰岩	19.0	6.0	4.0	0.3		1478	
482	Eh40	4層	不定形石器	輝緑凝灰岩質チャート	15.0	11.5	4.0	0.4		1455	
483	Eh40	2層	不定形石器	チャート	18.0	8.5	5.5	0.8		1424	
第34図	484	Eh40	3層	不定形石器	チャート	23.0	16.5	9.0	28		1434
485	Fa41	1層	不定形石器	粘板岩	24.0	23.0	5.0	2.6		1467	
486	Eh40	3層	不定形石器	粘板岩	33.0	12.0	5.0	2		1432	
487	Eh40	3層	不定形石器	粘板岩	38.5	13.0	11.0	4.4		1548	
488	Eh40	15層	不定形石器	珪質頁岩	39.0	20.0	7.5	4.6	二辺に刃部有り	1717	
489	Eh40	3層	不定形石器	硬砂岩	38.5	17.5	8.0	5.25	二辺に刃部有り	1685	
490	Eh40	11層	不定形石器	粘板岩	44.0	29.5	9.0	10.2	二辺に刃部有り	1490	
491	Eh40	2層	不定形石器	凝灰質粘板岩	39.5	19.0	9.0	5.4		1505	
492	Fa41	2層	不定形石器	粘板岩	38.0	14.0	11.0	6.6		1486	
493	Fa41	2層	不定形石器	粘板岩	44.5	20.5	15.5	11.1		1487	
494	Fa41	3層	不定形石器	粘板岩	40.0	21.0	6.0	2.9		1457	
495	Fa41	3層	不定形石器	粘板岩	44.5	18.5	11.0	5.9		1488	
496	Eh40	3層	不定形石器	凝灰質粘板岩	52.5	41.5	21.5	42.6		1586	
497	Fa41	2層	石錐	粘板岩	74.0	40.5	11.0	30.7		1454	
498	Fa41	1層	石製円盤	粘板岩	24.0	22.0	7.0	3.8		1466	
499	Eh40	2層	石製円盤	網雲母片岩	17.0	19.0	4.0	2		1447	
第35図	500	Fa41	3層	不定形石器	粘板岩	89.0	46.0	38.5	173.2		1589
501	Eh40	3層	不定形石器	硬砂岩	67.0	76.0	18.5	99.1		1615	
502	Eh40	3層	打製石斧	粘板岩	129.0	41.5	35.5	228.3		1460	
503	Eh40	3層	石刀	粘板岩	72.0	31.5	10.5	29.1	胴部のみ残	1433	
504	Eh40	3・4層	磨製石斧	チャート質アルコウス砂岩	77.0	48.0	21.0	132	頭部欠損	1509	
505	Fa41	3層	磨製石斧	硬砂岩	75.0	47.0	27.0	134.9	刃部欠損	1725	

※骨角器（第36図・37図・第19表）

釣針・鋸頭・ヤス・挟み込み式ヤスの鎌先・根ばさみ・骨筥・角筥・刺突具・装身具・器種不明品が出土している。506・507は釣針である。506はチモト～軸部にかけての資料である。面取りは入念に施こされ、チモト部は軸部よりも幅広く作り出されている。チモト部に一条のスリットを有する。断面形は楕円を呈する。507は弯曲部の資料である。入念な面取りが施こされ、断面形は円形である。508・509は燕形鋸頭である。いずれも磨滅が著しい。508は頭部資料である。大きく反っており、三段の逆刺を有する。索孔は側面についている。509は胴部から尾部にかけての資料である。尾部は二又を呈するが先端部は欠損している。索孔は背面～腹面につく。510はヤスである。縦長に形作られ鎌を一個有する。基部にアスファルトが付着する。511は挟み込み式ヤスの鎌先である。器形は「く」の字状を呈し、鎌を一個有する。結合部及びかえし部にアスファルトが付着している。512は根ばさみである。胴部が縦に割れて破損し

ている。胴部と基部は段によって明瞭に区画されている。基部にアスファルトが付着する。513～518は骨篋、519は角篋である。515・518は鹿の中足骨後面利用、516は右中手骨前面利用、517は右中手骨側面利用である。520～523は刺突具である。中手・中足骨の破片の先端部のみを針状に仕上げたもの(520)・直線的な棒状に丁寧に仕上げたもの(523)・半裁した鳥骨を擦ったもの(522)・鹿角を棒状に仕上げたもの(521)がある。524は装身具である。鹿の右側下顎骨の筋突起の基部に穿孔を有している。525は欠損のため器種不明の骨角器である。二条の線文を有している。線文は鋭利な刃で描きだされており、金属器を使用した可能性がある。

第19表 Eh40・Fa41 出土骨角器一覧表

図版	地区・層位	器種	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	
第36図 506	Fa41	3層	釣針	鹿角	30.5	5.0	4.0	0.5	チモト部～軸部残。	467
507	Eh40	4層	釣針	鹿角	18.5	6.0	5.5	0.5	軸部残。	457
508	Eh40	2層	鋸頭	鹿角	70.0	18.5	14.5	5.1	頭部残。磨滅著しい。	444
509	Eh40	2層	鋸頭	鹿角	54.0	19.5	14.5	4.9	胴部～尾部残。	576
510	Fa41	1層	ヤス	鹿角	67.0	13.5	7.5	4.2	基部にアスファルト付着。	400
511	Eh40	表採	狭み込み式ヤス塊先	鹿角	36.0	14.5	7.0	2.7	完形品。結合部とかえし部にアスファルト付着	396
512	Eh40・Fa41	表採	根バサミ	鹿角	45.0	7.0	9.0	1.7	二又部から縦割れ破片。	421
513	Eh40	3層	骨篋	?	41.0	10.0	10.0	1.2		391
514	Eh40	11層	骨篋	中手中足骨?	109.0	15.5	11.0	10.2		513
515	Fa41	表採	骨篋	鹿右中足骨	80.9	19.0	19.0	10.8	後面利用	389
516	Eh40	11層	骨篋	鹿右中手骨	74.0	22.0	10.5	6.3	前面利用	477
第37図 517	Eh40	4層	骨篋	鹿右中手骨	97.0	20.5	14.5	12.8	左側面利用	456
518	Eh40	11層	骨篋	鹿左中足骨	76.5	24.0	13.0	7.9	後面利用	404
519	Fa41	2・3層	角篋	鹿角	36.0	18.5	18.0	3.8		554
520	Eh40	3層	刺突具	陸獣中手or中足骨	89.0	13.5	11.0	3.8		514
521	Eh40	11層	刺突具	鹿角	53.0	9.5	8.5	2.0	タール付着	392
522	Eh40・Fa41	表採	刺突具	アホドリ?上腕骨	72.0	10.0	9.5	1.6		459
523	Eh40・Fa41	表採	刺突具	骨	48.5	5.5	4.5	1.3	上端部欠損	420
524	Eh40	3層	装身具	鹿右下顎骨	70.0	37.0	21.0	10.6	筋突起の基部に穿孔を有する	479
525	Eh40	1層	器種不明	鹿角	32.0	15.0	14.0	2.1		555

※自然遺存体(第20表)

斜面部東側下位の発掘区からの出土及び表採した自然遺存体には、第20表に示しているように各種資料がある。これらの資料も、第6表の層対応表に従って集計している。この表の3層4層、10層?は弥生時代の遺物包含層から取り上げた資料である。1層出土資料は、各層と比較して種などの多い結果が得られているが、この資料の大部分は、2次堆積による貝層ブロックから得られた資料である。

またこの表には示していないが、同定結果明らかにされた資料には、Eh40区3層出土のウシ上顎歯1点があり(写真図版16)、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏によれば「老獣の右第1後臼歯で、現生の家牛(見島牛)に比べると大きく、伊皿子貝塚出土の弥生時代の牛とほぼ同大である。計測値は歯冠長26.9mm、前部歯冠巾21.8mmである。」という。出土層も弥生時代遺物包含層として取り上げられており同時期の可能性があり、「家牛の飼育」を予測させる資料である。しかし同層は上部からの攪乱を受けているため遺物取り上げ時点での出土層のエラーも考えられ、明確には断定できないが今後の調査の課題となる基礎資料のひとつである。

第20表 Eh40・Fa41 出土自然遺存体

○ Eh40

第20表-1 出土土貝

種 名	腹足綱		二枚綱	
	クロタマキビガイ	チヂミボラ	アサリ	
		レイシガイ	L	R
Eh40	1	1		1
	3		1	
合計	4	1	1	1

第20表-2 出土棘皮動物

種・部位 区・層	ウツギ科 骨片	
	口器	A
Eh40	3	1

第20表-3 出土ハ虫類

種・部位 区・層	ウツギ科 骨片	
	口器	A
Eh40	4	2

第20表-5 出土哺乳類

種・部位 区・層	イヌ		タヌキ		ウサギ科		小動物		イルカの種		オットイ		クジラ類		不明	
	下顎犬歯		肩甲骨		切歯		陸獣骨		頭骨片		脛骨		骨片		海獣骨	
	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R
Eh40	1			1			1									
	3			1			1							1	1	
	4											1				
	10	1									3					
合計	1			1	1		1	4	1		1	1		1	1	

第20表-6 出土シカ

種・部位 区・層	シカ												
	鹿角片		下顎骨		機骨		尺骨		中手骨		中足骨		
	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	
Eh40	1	10											
	2	9				1							
	3	8	1										
	4	6							1				
	10	5				1							
	11	1									1		
合計	39		1		1	1			1		1		

第20表-4 出土魚骨

種・部位 区・層	サメ目		カサゴ科		マダラ		ブリ		マダラ		タイ類		フグ目		カサゴ科		マダラ		
	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	椎骨	
	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	
Eh40	1						2												
	2						2												
	3	1					5	1	1	1									2
	4						3												
	10						5						1						
	11	1					3												
合計	2	2	1	20	1		1	3	2	5	1	1	1	1	1			2	1

第20表-7 出土イノシシ上顎歯

種・部位 区・層	L				R			
	P <sup>4</sup> P <sup>3</sup> P <sup>2</sup>		C I <sup>1</sup> I <sup>2</sup> I <sup>1</sup>		I <sup>1</sup> I <sup>2</sup> I <sup>1</sup> C		P <sup>2</sup> P <sup>3</sup> P <sup>4</sup>	
	M <sup>3</sup> M <sup>2</sup> M <sup>1</sup>	P <sup>1</sup>	m <sup>4</sup> m <sup>3</sup> m <sup>2</sup>	c i <sup>1</sup> i <sup>2</sup> i <sup>1</sup>	i <sup>1</sup> i <sup>2</sup> i <sup>1</sup> c	P <sup>1</sup>	m <sup>2</sup> m <sup>3</sup> m <sup>4</sup>	M <sup>1</sup> M <sup>2</sup> M <sup>3</sup>
Eh40	(M <sub>1</sub> )							

第20表-8 出土イノシシ下顎歯

種・部位 区・層	L				R			
	P <sub>4</sub> P <sub>3</sub> P <sub>2</sub>		C I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> I <sub>1</sub>		I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> I <sub>1</sub> C		P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> P <sub>4</sub>	
	M <sub>3</sub> M <sub>2</sub> M <sub>1</sub>	P <sub>1</sub>	m <sub>4</sub> m <sub>3</sub> m <sub>2</sub>	c i <sub>1</sub> i <sub>2</sub> i <sub>1</sub>	i <sub>1</sub> i <sub>2</sub> i <sub>1</sub> c	P <sub>1</sub>	m <sub>1</sub> m <sub>3</sub> m <sub>4</sub>	M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> M <sub>3</sub>
Eh40	(m <sub>3</sub> )							
					(P <sub>4</sub> )			
	(i <sub>2</sub> )				(I <sub>2</sub> )			

第20表-9 出土シカ上顎歯

種・部位 区・層	L				R			
	P <sup>4</sup> P <sup>3</sup> P <sup>2</sup>		C		切歯骨		切歯骨	
	M <sup>3</sup> M <sup>2</sup> M <sup>1</sup>	m <sup>4</sup> m <sup>3</sup> m <sup>2</sup>	c		c	m <sup>2</sup> m <sup>3</sup> m <sup>4</sup>	M <sup>1</sup> M <sup>2</sup> M <sup>3</sup>	
Eh40	(M <sup>2</sup> )							

第20表-10 出土イノシシ

種・部位 区・層	イノシシ	
	第一頸椎	下顎骨
	L	R
Eh40	2	1
	10	1

○ Fa41

第20表-11 出土貝

種 名 区・層	腹足綱				二枚貝綱				
	クロタマキビガイ	レイシミボラ	チヂミボラ	マガキ	ハマグリ		アサリ		タマキガイ
					L	R	L	R	
Fa 41	1	1	1	2				1	
	2		2	2	1				1
合計	1	1	2	4	1			1	1

第20表-12 出土棘皮動物

種名 区・層	蛸枕目の一種
Fa 41	1

第20表-13 出土鳥骨

種・部位 区・層	科の一種 アホドリ		科の一種 ワシタカ		科の一種 キジ?	
	上腕骨		上腕骨		大腿骨	
	L	R	L	R	L	R
Fa 41	1	1		1	1	1
	2	3				1

第20表-14 出土魚骨

種・部位 区・層	アオザメ		シガラ科の一種		エゾ自の一種		マダロ類		アサギ科の一種		ブリ		スズキ		マダイ		タイ類		カサゴ科の一種		ヒラメ					
	背棘		尾棘		椎骨		椎骨		椎骨		前上顎骨		歯骨		主鰓蓋骨		上顎骨		椎骨		上顎骨		前鰓蓋骨		主鰓蓋骨	
	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R		
Fa 41	1		1		1	1	1				1	1	1	2	2	1					2	1	1	1		
	2				2																					
	3	2		1	4										1								1			
4・5					1																					
合計	2	1	1	7	2	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1					2	1	1	1		

第20表-17 出土イノシシ下顎歯

歯式 区・層	L			R		
	M <sub>3</sub> M <sub>2</sub> M <sub>1</sub>	P <sub>4</sub> P <sub>3</sub> P <sub>2</sub> C I <sub>3</sub> I <sub>2</sub> I <sub>1</sub>	切歯部	I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> I <sub>3</sub> C P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> P <sub>4</sub>	M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> M <sub>3</sub>	
	m <sub>3</sub> m <sub>2</sub> m <sub>1</sub>	c i <sub>3</sub> i <sub>2</sub> i <sub>1</sub>	切歯部	i <sub>1</sub> i <sub>2</sub> i <sub>3</sub> c m <sub>2</sub> m <sub>3</sub> m <sub>4</sub>		
Fa 41	(i <sub>3</sub> )					

第20表-18 出土シカ上顎歯

歯式 区・層	L			R		
	M <sup>1</sup> M <sup>2</sup> M <sup>1</sup>	P <sup>1</sup> P <sup>2</sup> P <sup>2</sup> C I <sup>1</sup> I <sup>2</sup> I <sup>1</sup>	切歯部	切歯部	I <sup>1</sup> I <sup>2</sup> I <sup>3</sup> C P <sup>2</sup> P <sup>3</sup> P <sup>4</sup>	M <sup>1</sup> M <sup>2</sup> M <sup>3</sup>
	m <sup>1</sup> m <sup>2</sup> m <sup>2</sup>	c i <sup>1</sup> i <sup>2</sup> i <sup>1</sup>	切歯部	切歯部	i <sup>1</sup> i <sup>2</sup> i <sup>3</sup> c m <sup>2</sup> m <sup>3</sup> m <sup>4</sup>	
Fa 41	4・5 (M <sup>3</sup> )					

第20表-19 出土シカ下顎歯

歯式 区・層	L			R		
	M <sub>3</sub> M <sub>2</sub> M <sub>1</sub>	P <sub>4</sub> P <sub>3</sub> P <sub>2</sub> C I <sub>3</sub> I <sub>2</sub> I <sub>1</sub>	切歯部	切歯部	I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> I <sub>3</sub> C P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> P <sub>4</sub>	M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> M <sub>3</sub>
	m <sub>3</sub> m <sub>2</sub> m <sub>2</sub>	c i <sub>3</sub> i <sub>2</sub> i <sub>1</sub>	切歯部	切歯部	i <sub>1</sub> i <sub>2</sub> i <sub>3</sub> c m <sub>2</sub> m <sub>3</sub> m <sub>4</sub>	
Fa 41	6 (M <sub>2</sub> )					

第20表-15 出土哺乳類

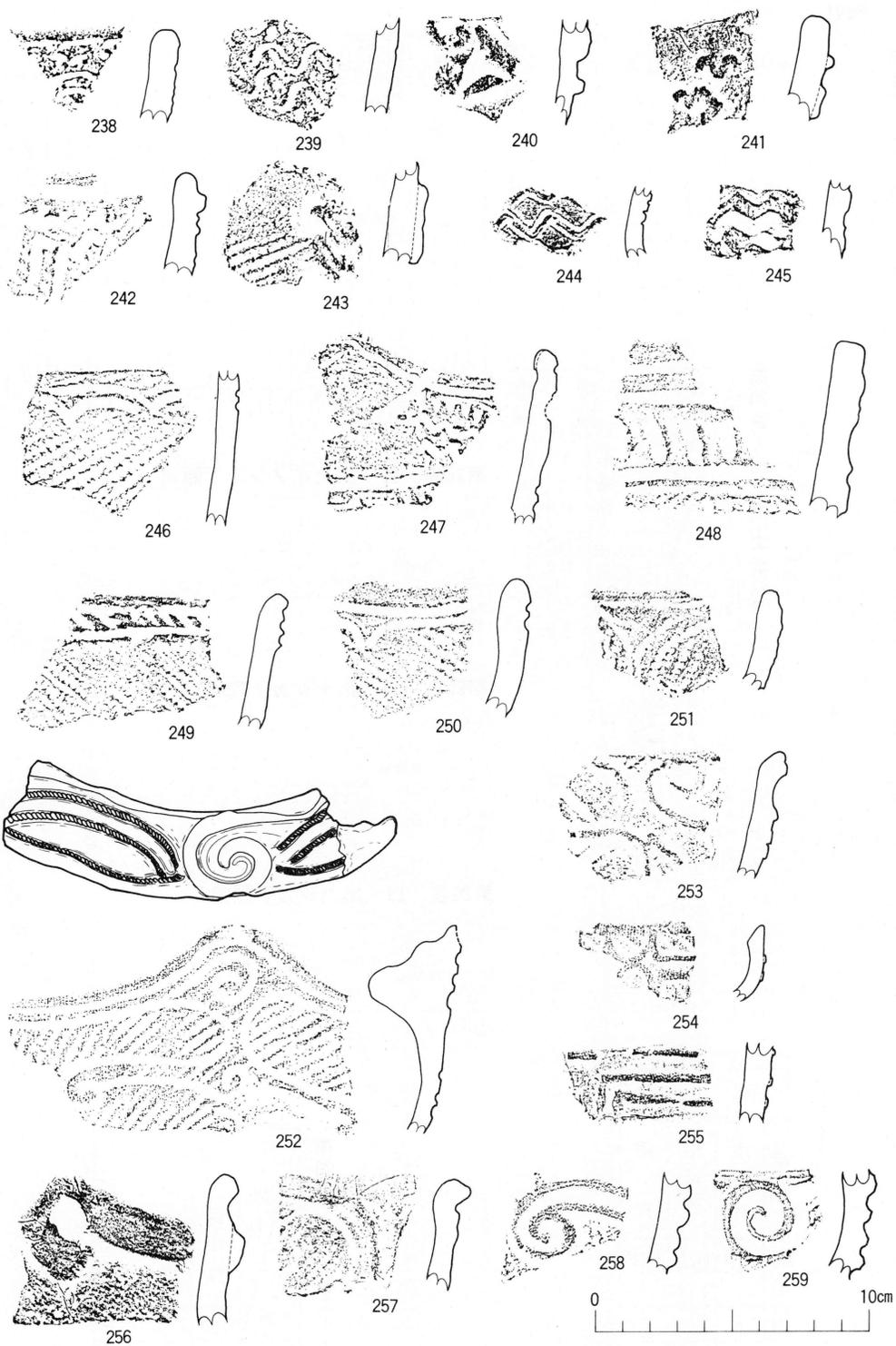
種・部位 区・層	イヌ		キツネ		オットイ		セイル科の一種		クジラ類		不明海獣骨	
	下顎第一歯		下顎骨		橈骨		椎骨		骨片		骨片	
	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R
Fa 41	1	1	1		1	1	1	1			1	1
	2											1
	3		1								1	1
3・4											1	1
合計	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	2	2

第20表-16 出土シカ

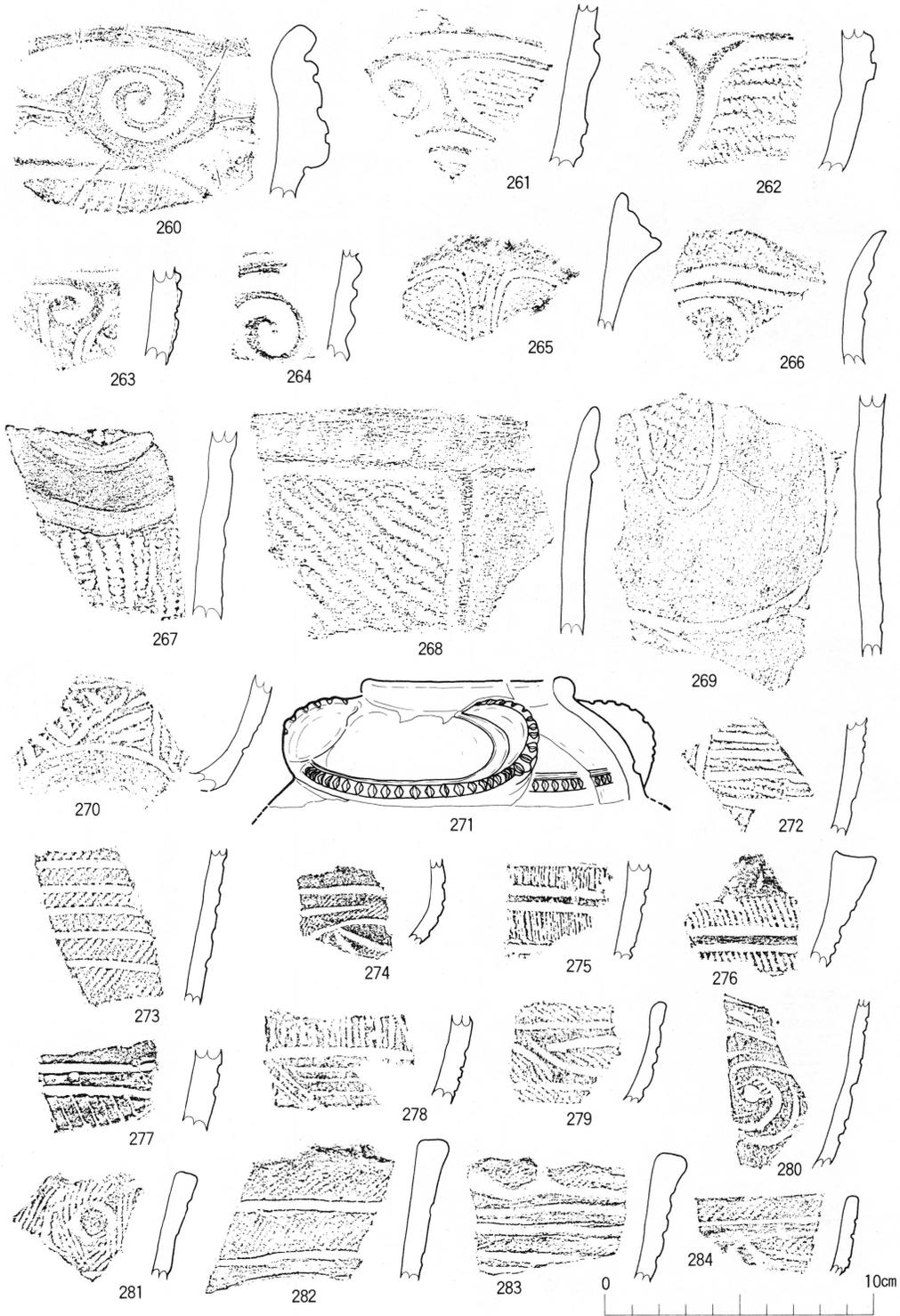
種・部位 区・層	シカ							
	鹿角片		上腕骨		中足骨		距骨	
	L	R	L	R	L	R	L	R
Fa 41	1	11			1	1		
	2	3						
	2・3	1						
	3	4	1				1	1
合計	19	1	1	1	1	1	1	1

第20表-20 出土イノシシ

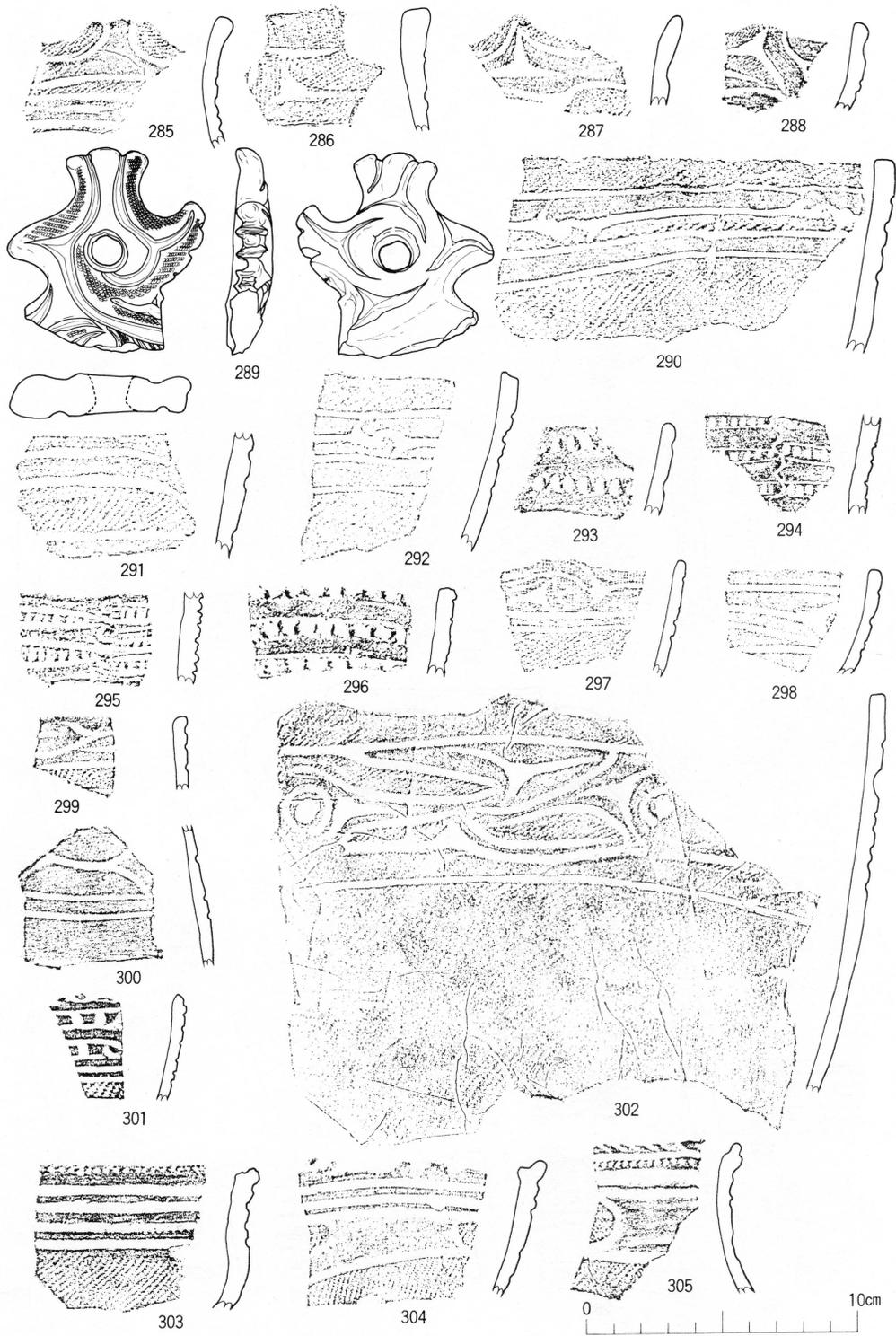
種・部位 区・層	イノシシ					
	後頭骨		大腿骨		距骨	
	L	R	L	R	L	R
Fa 41	1				1	
	2	1				
	3					



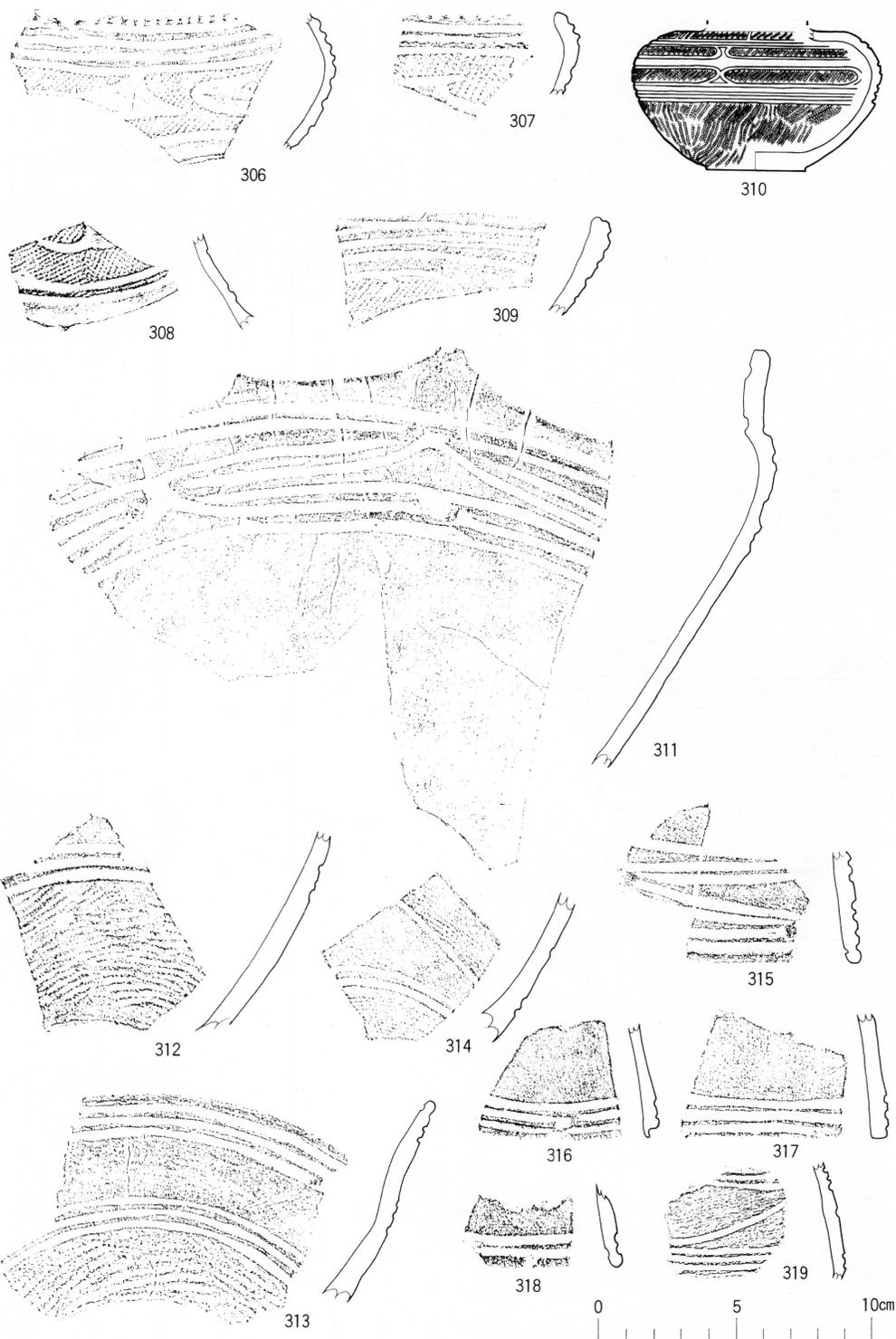
第19图 Eh40·Fa41 出土土器



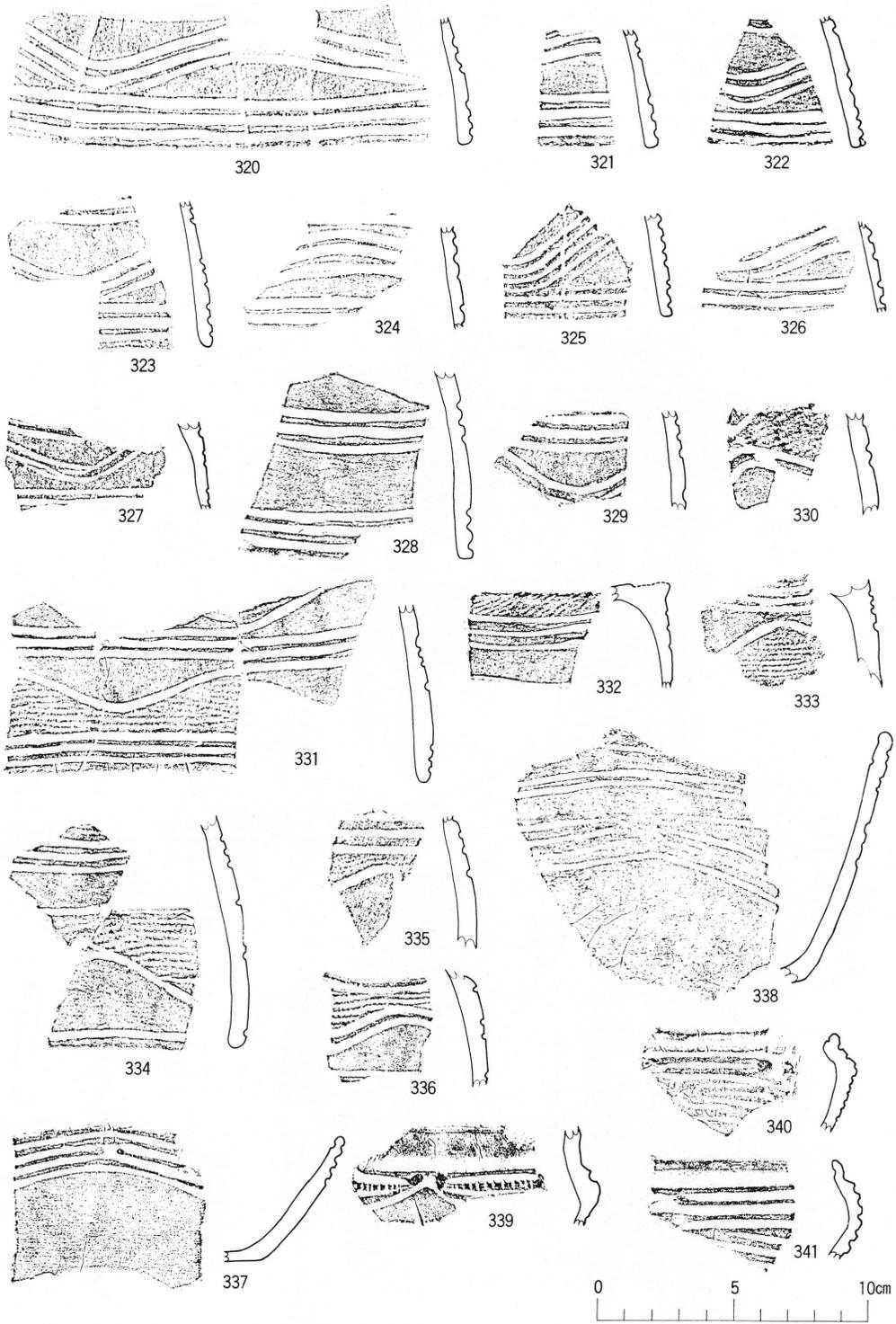
第20图 Eh40·Fa41 出土土器



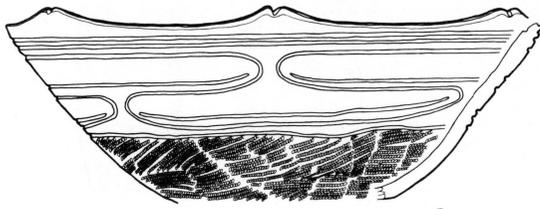
第21图 Eh40·Fa41 出土土器



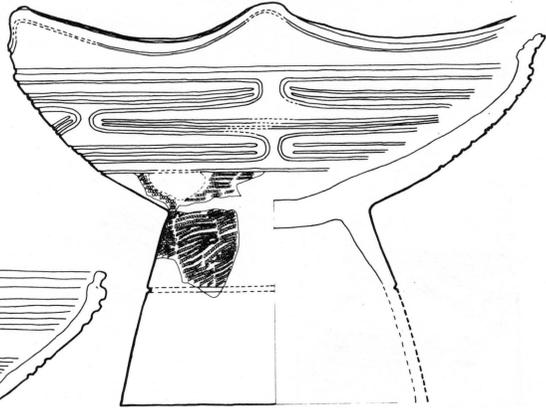
第22图 Eh40·Fa41 出土土器



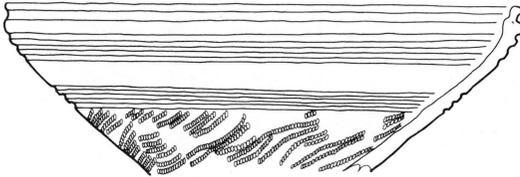
第23图 Eh40·Fa41 出土土器



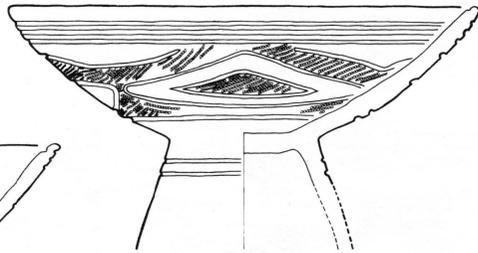
342



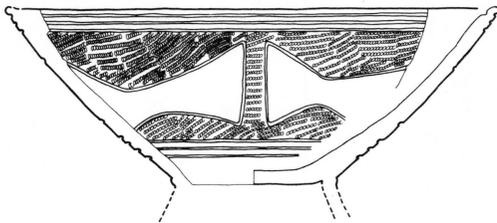
343



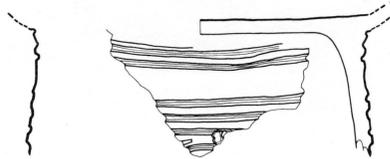
344



345



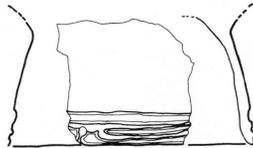
346



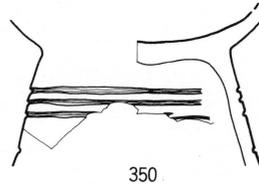
347



348



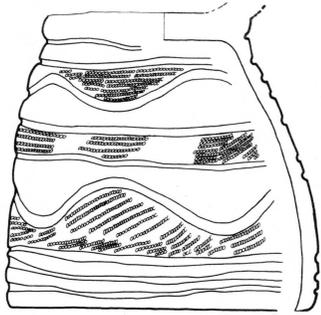
349



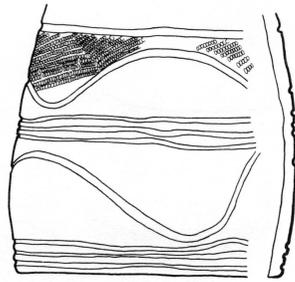
350



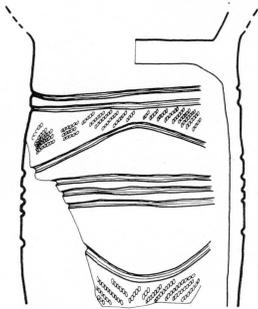
第24图 Eh40·Fa41 出土土器



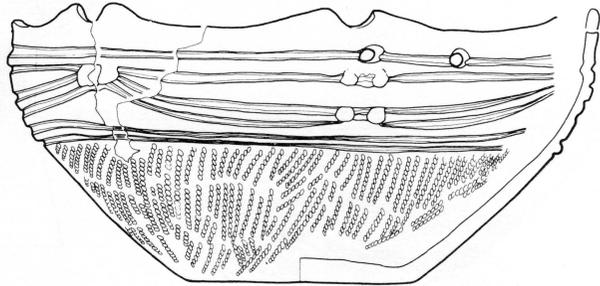
351



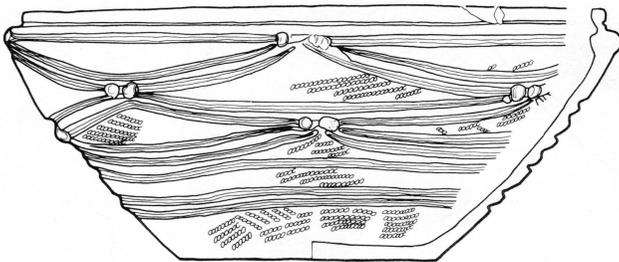
352



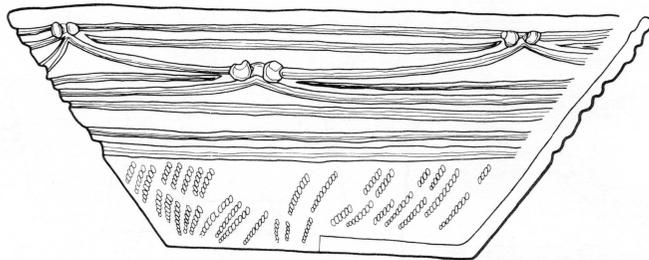
353



354



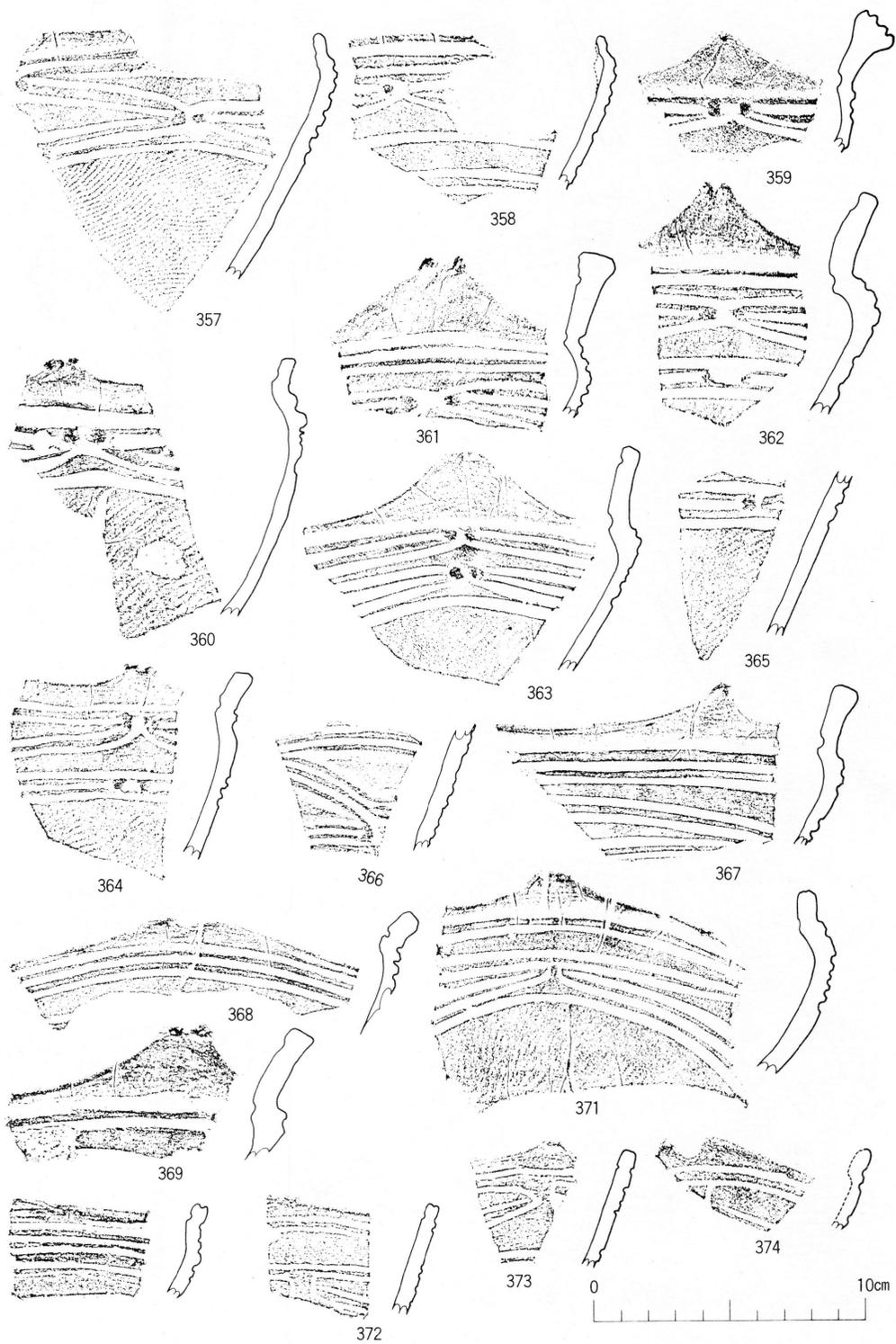
355



356



第25図 Eh40・Fa41 出土土器



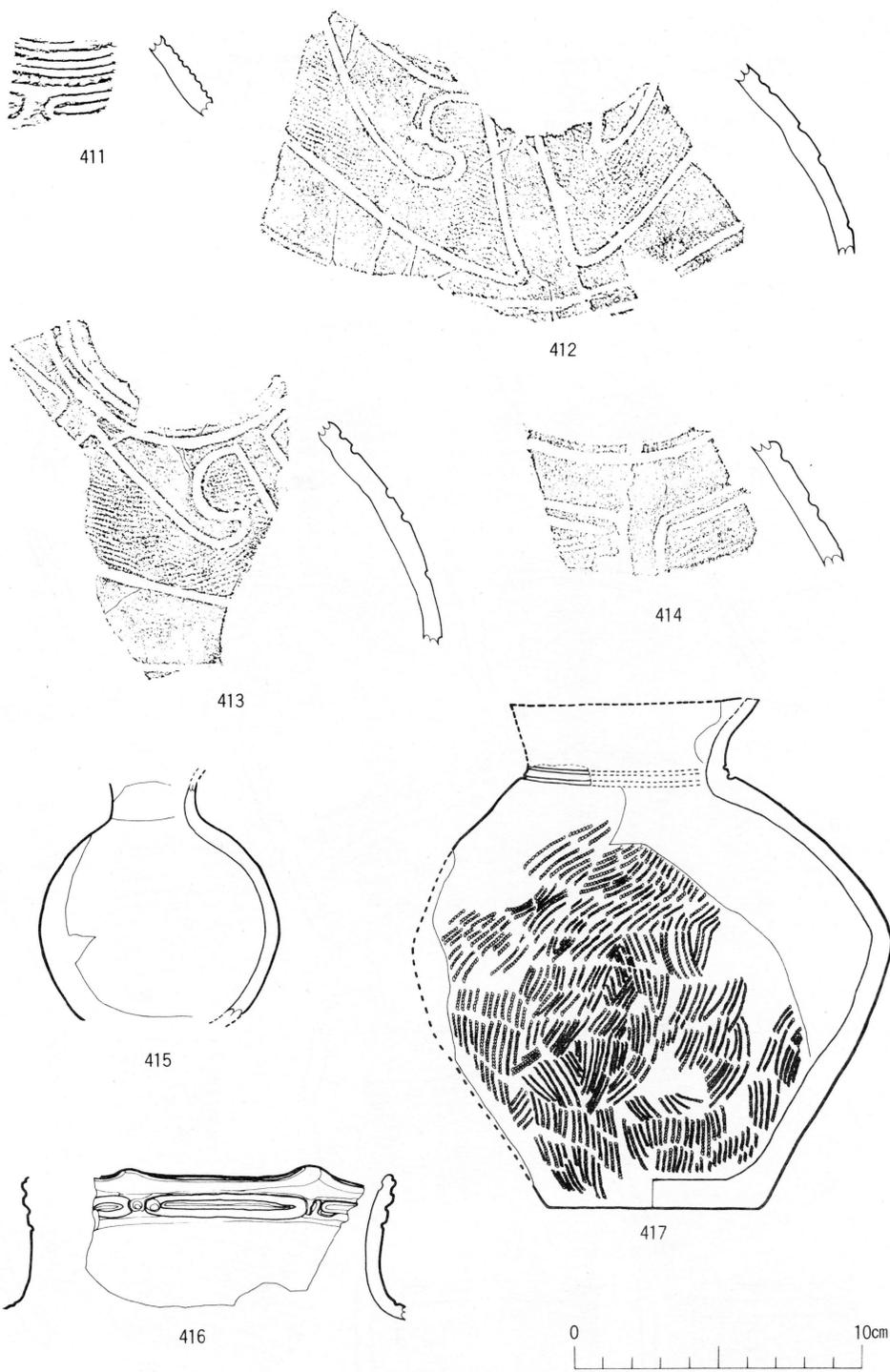
第26图 Eh40·Fa41 出土土器



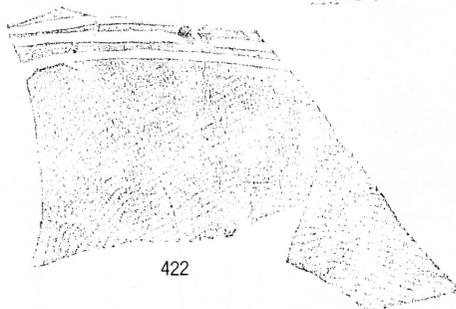
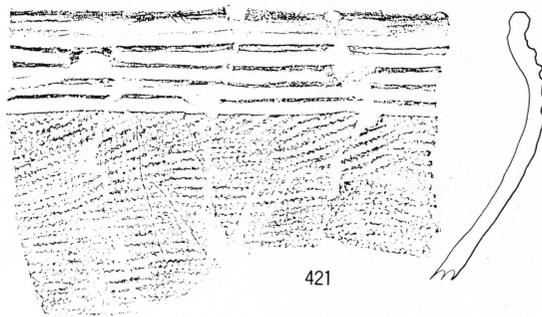
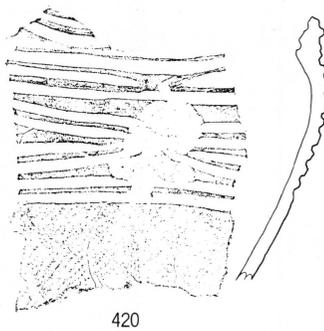
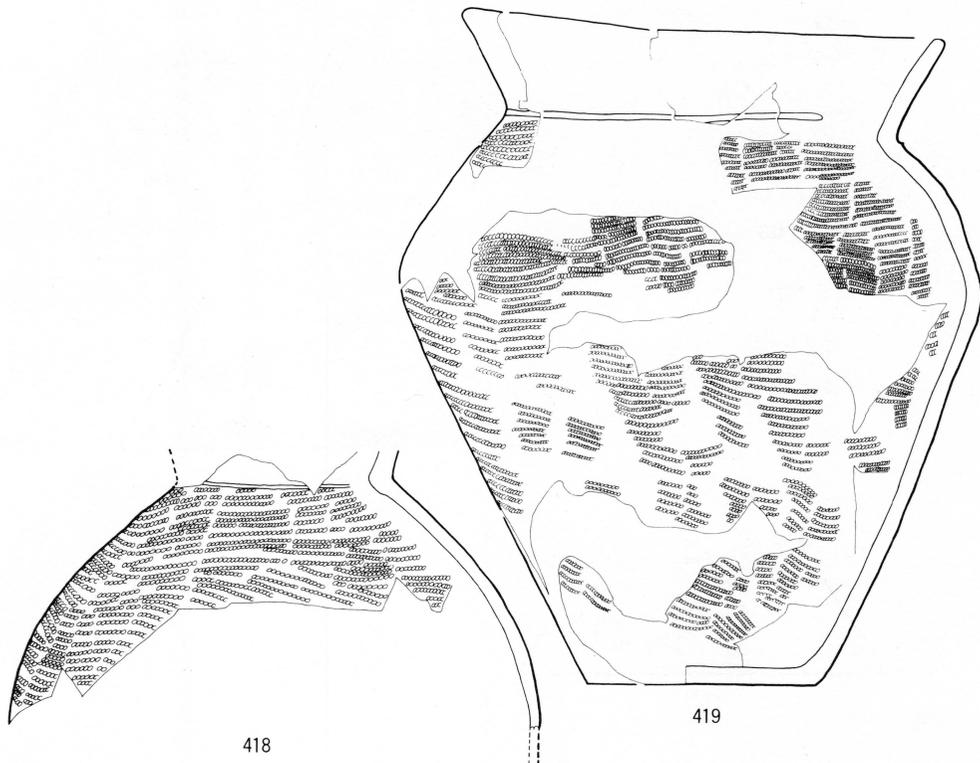
第27图 Eh40·Fa41 出土土器



第28图 Eh40·Fa41 出土土器

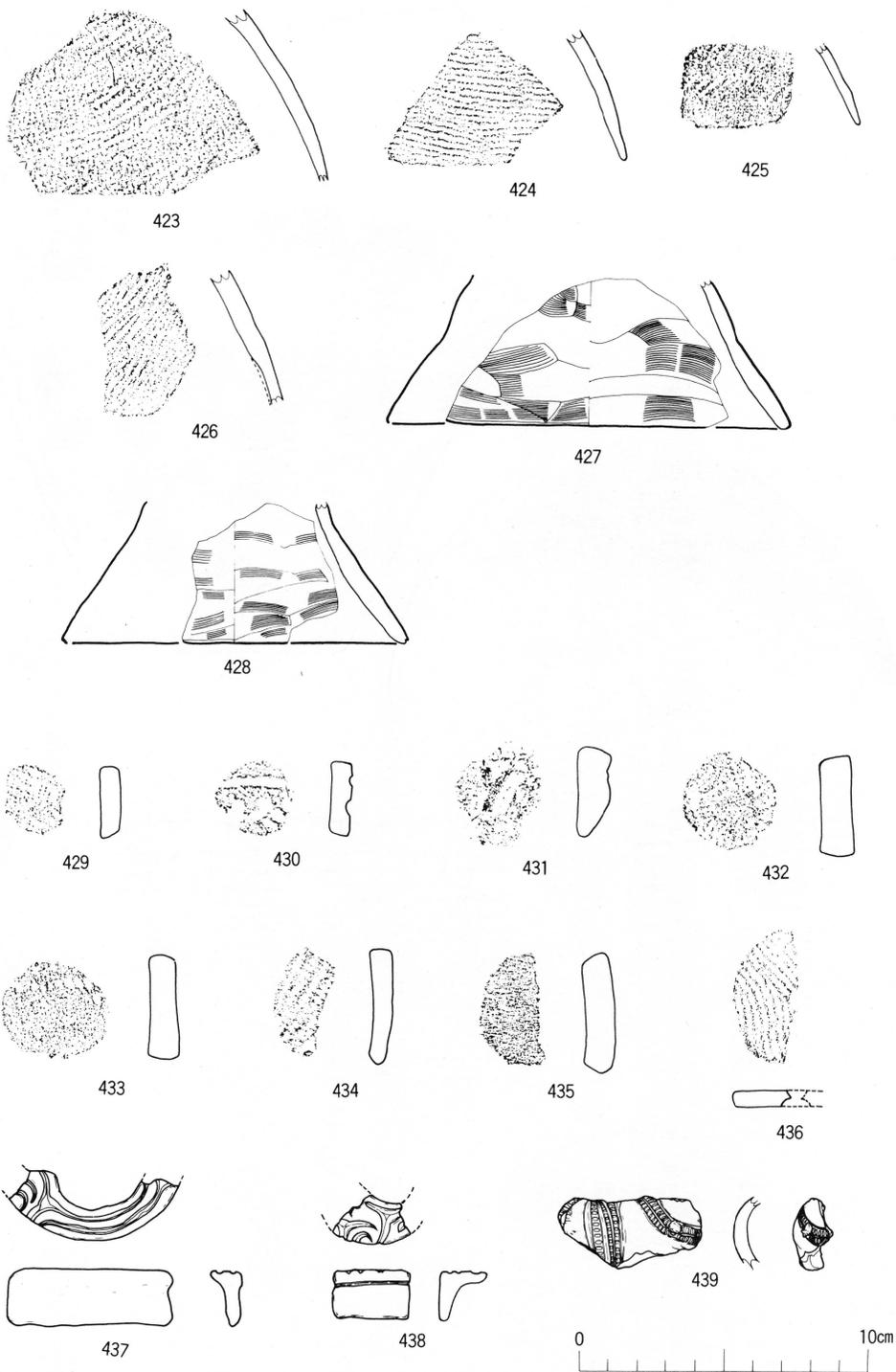


第29图 Eh40·Fa41 出土土器

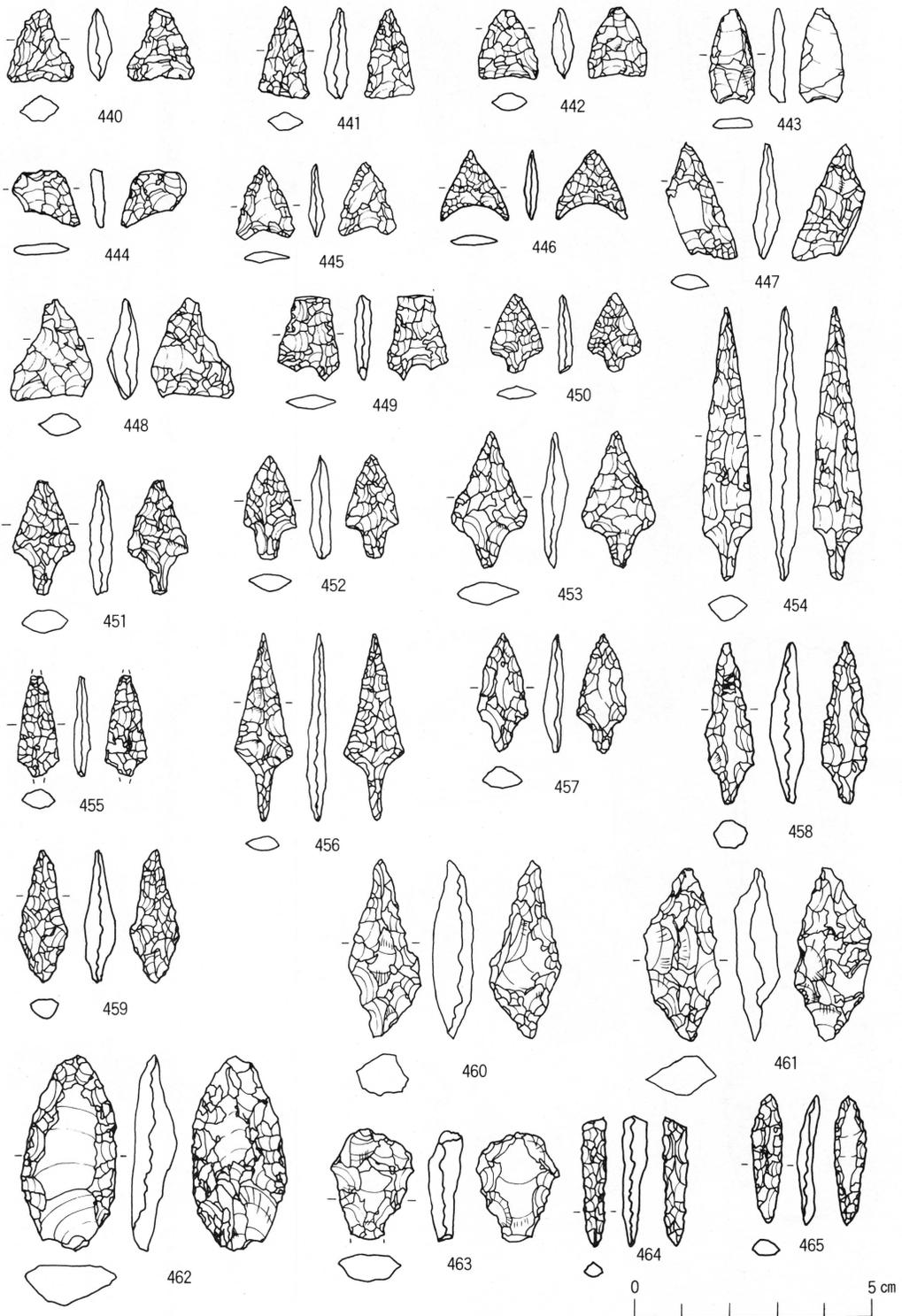


0 10cm

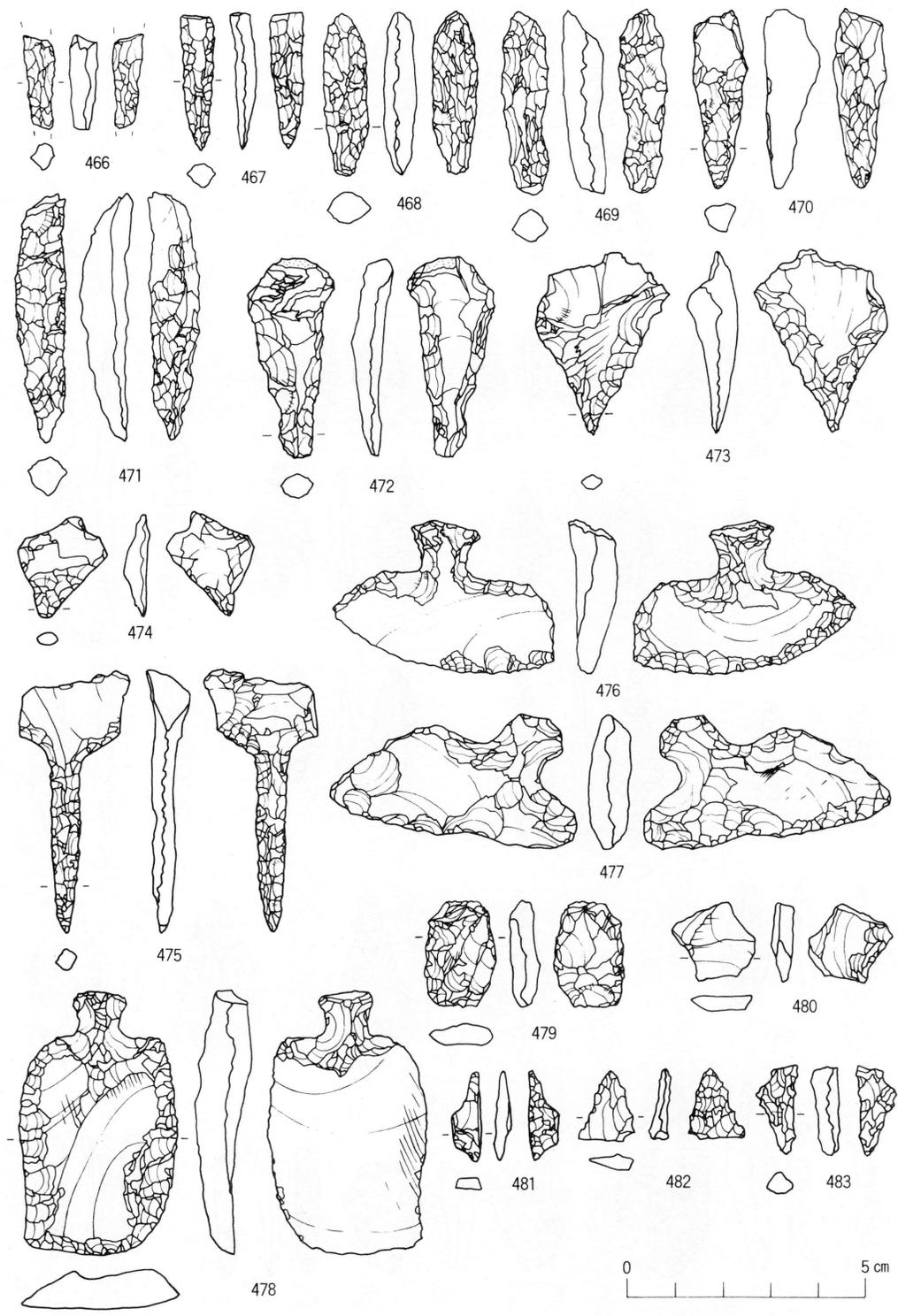
第30图 Eh40・Fa41 出土土器



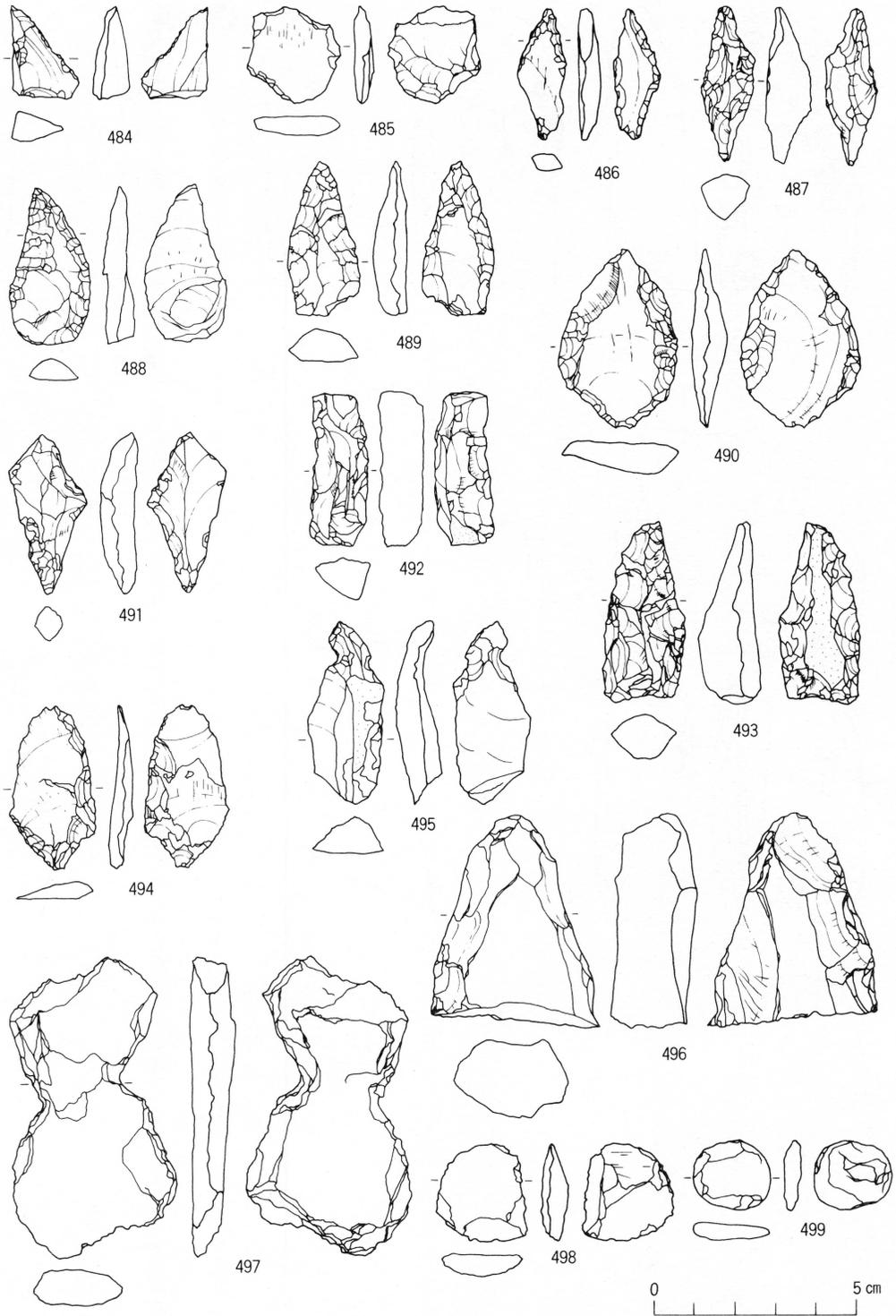
第31図 Eh40・Fa41 出土土器・土製品



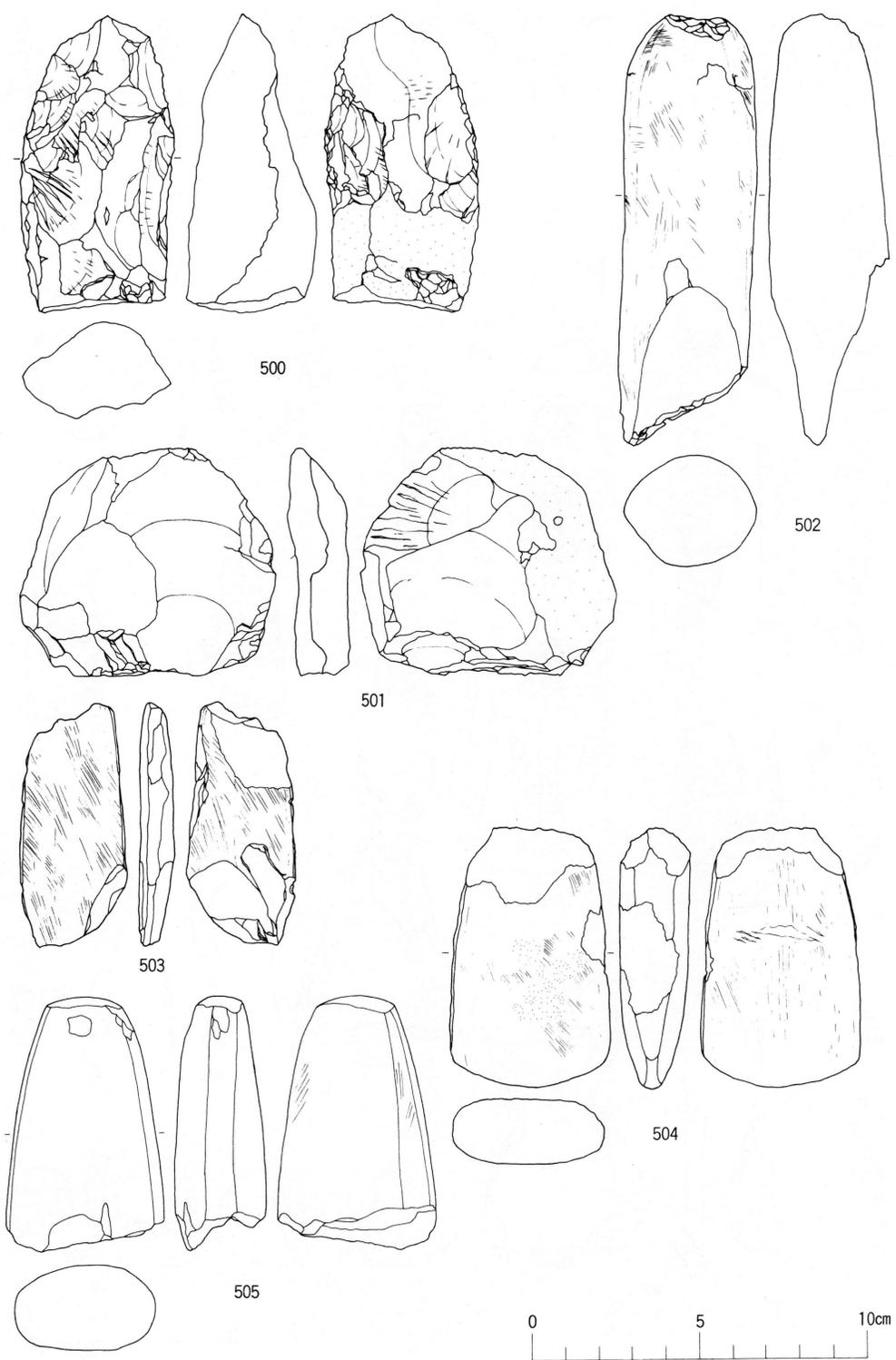
第32图 Eh40·Fa41 出土石器



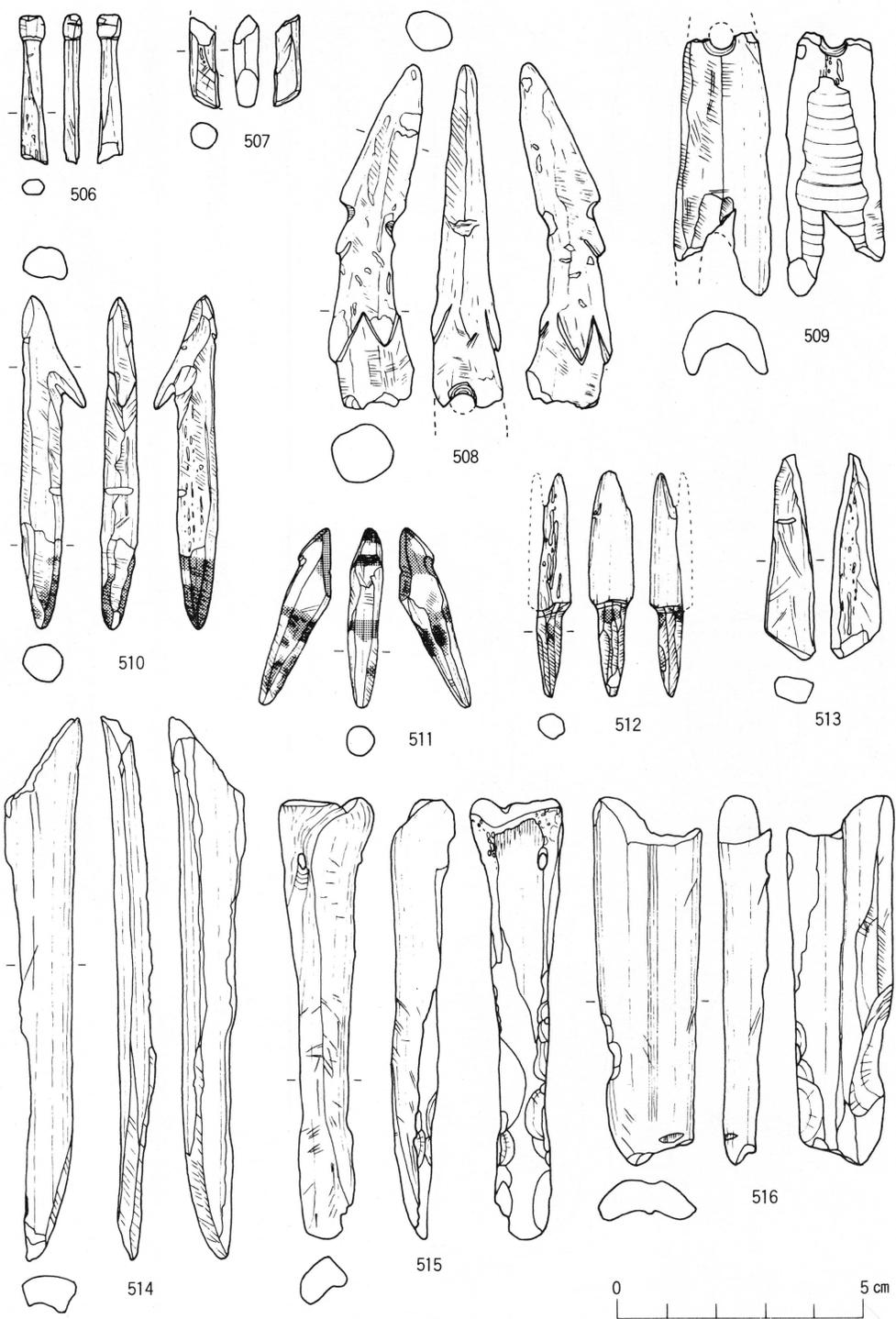
第33图 Eh40·Fa41 出土石器



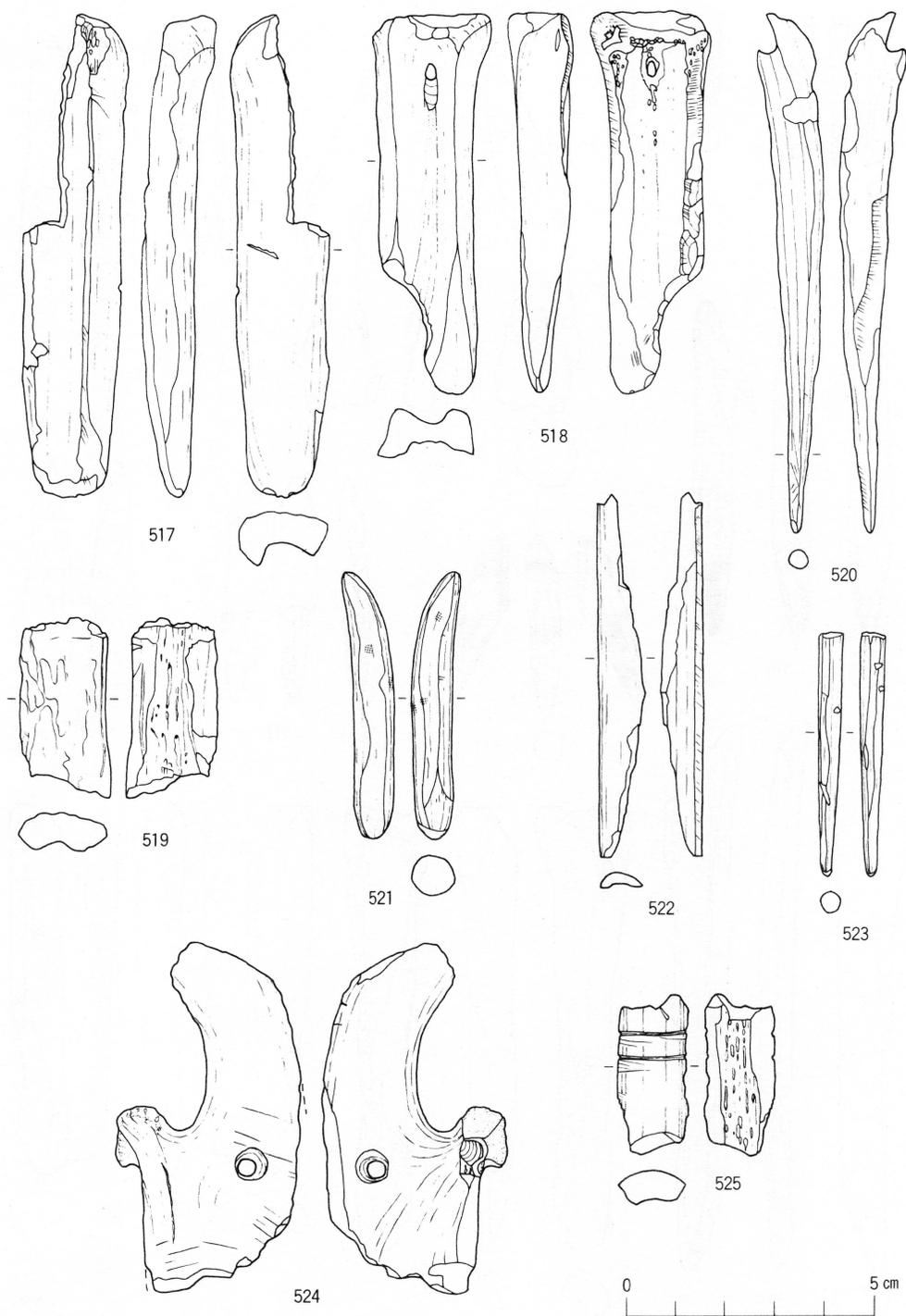
第34图 Eh40·Fa42 出土石器·石製品 Fa41



第35図 Eh40・Fa41 出土石器



第36图 Eh40·Fa41 出土骨角器



第37图 Eh40·Fa41 出土骨角器

### Ⅲ、ま と め

#### 1. 層の拡がり

今回の調査区は、貝塚南側斜面部上位Dh39・30区、中位Dj37、38区とEb37区、東側中位Ea40区、Ed40区、東側下位Eh40区、Fa41区に区分され、斜面部上位では比較的浅い部分から縄文時代中期中葉・晩期中葉（大木8式期・大洞C<sub>2</sub>式期）の混貝土層、魚骨層と、この下層の遺物包含層、中位では表土下約3m地点から最も保存状態の良い前期中葉（大木4式期）の貝層の分布が確認された。

また東側中位では僅かに混貝土層の堆積が認められることが知られたほか、東側下位では遺構は検出されていないが、旧表土下層から主に北東及び東側部分に堆積する弥生時代の遺物包含層が検出され、この包含層下からも混貝土層が検出されることが確認された。

これらの貝層、遺物包含層は、以前から知られている斜面部中位付近から南側下方を境とする沢状地形に沿って形成されている可能性があり、さらに分布範囲も拡がるものと考えられるが、宅地化に伴う旧地形の破壊が著しいなど現段階では検証されていない。

#### 2. 出土遺物

##### (1) 土 器

本年度の調査においては、縄文時代前期～晩期・弥生時代・平安時代の遺物を得ている。しかし、まとまった資料としては弥生時代の遺物があげられるのみで、各時期の遺物は少量が出土しているにすぎない。以下、各時期の遺物をグルーピングし、時期・型式等ついて触れておく。尚、量が少なく分類の難しいものは割愛してある。

##### 第Ⅰ群土器

縄文時代前期の資料を一括した。破片十数点が出土しているにすぎない。

##### 第1類土器（81・238・239）

胎土に植物性繊維を含む資料である。

- a. 不整綾絡文を施文する資料である。大木1式に相当する。（238・239）
- b. S字状連鎖沈文を施文する資料である。大木2式に相当する。（81）

##### 第2類土器（82～85・240・241）

波状貼付文・梯子状貼付文・弧状貼付文を有する資料である。大木4式に相当する。

##### 第Ⅱ群土器

縄文時代中期の資料を一括した。

第1類土器（205～210・243～251）

大木7a・7b式に相当する資料である。文様としては、横位の平行沈線間に短い縦位の沈線を施文したもの（205～207・248）・横位の波状沈線を施文したもの（208・209・244～247）・押圧縄文の施文されるもの（251）等がある。

第2類土器（86・211～213・252～257）

大木8a式に相当する資料である。粘土紐を貼付して文様を意匠するもの、押圧縄文により渦巻文等の文様を意匠するものがある。

第3類土器（1～7・87～91・214・258～264）

大木8b式に相当する資料である。大部分が沈線や隆沈線によって渦巻文が意匠されている。

第4類土器（92～96・265～269）

沈線+磨消縄文、隆沈線+磨消縄文により区画文を意匠する資料である。92～95・265・266が大木9式、267～269が大木10式に相当する。

第Ⅲ群土器

縄文時代後期の資料を一括した。

第1類土器（8・99～102・270～273）

横位平行沈線・磨消縄文により文様を展開する資料である。貝島第Ⅲ群・崎山弁天第Ⅴ群・立石第Ⅳ群・田柄第Ⅲ群に相当する。

第2類土器（279～292）

三叉文・曲線文・磨消縄文等により文様を意匠する資料である。台囲貝塚Bトレンチ第二群に類例をみることができ、小破片のため詳細は不明である。

第3類土器（9～11・14～16・32・275～278・293～296）

横位平行沈線・入組文を有する資料である。入組文内には刻目・刺突・貼瘤が施される。田柄貝塚Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ群、貝島Ⅳ群に相当する。

第Ⅳ群土器

縄文時代晩期の資料である。小破片のためモチーフの不明なものが多い。

第1類土器（17・18・29・113・297～300・302）

大洞B式に相当する資料である。

第2類土器（19～24・114～116・301）

大洞B C式に相当する資料である。

第3類土器（26・28・33・117～124・219～222・303～305）

大洞C<sub>1</sub>式に相当する資料である。

第4類土器 (25・27・125・126・306～310)

大洞C<sub>2</sub>式に相当する資料である。

第5類土器 (127～132・223・224)

大洞A・A'式に相当する資料である。

#### 第V群土器

弥生時代の遺物を一括した。本年度調査において主体をなす土器群である。器形と文様により細分が可能である。(脚部資料は割愛した。)

#### <高 坏>

A類：二個一対の瘤を有する…変形工字文

a. 頸部がくびれて口縁部が外反

1、波状口縁…①波状部に刻目あり (311)

B類：二個一対の瘤無し…変形工字文

a. 頸部がくびれて口縁部が外反

1、波状口縁…①波状部に刻目なし (343)

b. 口縁部が外傾…変形工字文

1、波状口縁…①波状部に刻目あり (342)

C類：二個一対の瘤無し…三条単位の横位平行沈線

a. 口縁部内反

1、平縁 (344)

b. 口縁部外反

1、平縁 (313)

D類：二個一対の瘤無し…磨消縄文

a. 口縁部外傾

1、平縁 (345・346)

#### <鉢>

A類：二個一対の瘤を有する…変形工字文

a. 頸部が直立ぎみに立ち上がる。

1、波状口縁…波状部に凹み有り (354)

2、平縁 (355)

b. 口縁部が外傾

1、平縁 (356)

B類：二個一対の瘤を有する…横位平行沈線

a. 口縁部外傾

1、平縁（337）

C類：二個一対の瘤無し…変形工字文

a. 口縁部内反

1、波状口縁（338）

<高坏・鉢口縁部資料>

A類：二個一対の瘤を有する…変形工字文+刻目

a. 頸部がくびれ口縁部外反（339）

B類：二個一対の瘤を有する…変形工字文

a. 頸部がくびれ口縁部は外反

1、波状口縁…①波状部に刻目有り（362～364）

②波状部に凹み有り（361）

③波状部のみに短い横位沈線3本（359）

2、平縁（340）

b. 頸部がくびれ口縁部は内反

1、平縁（341・357・358）

C類：二個一対の瘤無し…浮文（366）

D類：二個一対の瘤無し…変形工字文

a. 頸部がくびれ口縁部は外反

1、波状口縁…①波状部に刻目有り（369・371）

②波状部に凹み有り（368）

③波状部に刻目・凹み無し（367）

2、平縁（380）

b. 口縁部が外傾するもの

1、波状口縁…①波状部に凹み有り（374・375）

2、平縁（381～391）

c. 口縁部が外反するもの

1、波状口縁…波状部に凹み有り（376）

d. 頸部で「く」の字状に折れ曲り内傾するもの

1、平縁（378・379）

E類：二個一対の瘤無し…磨消縄文

a. 口縁部内反

- 1、波状口縁…波状部に凹み有り（394）
- b. 口縁部外傾
  - 1、平縁（395～400）
- c. 頸部がくびれ口縁部外傾
  - 1、平縁（401）
- F類：二個一対の瘤無し…横位平行沈線
  - a. 口縁部外傾
    - 1、波状口縁…波状部に凹み有り（403）
    - 2、平縁（405）
  - b. 口縁部外反
    - 1、波状口縁…波状部に凹み有り（404）

<小型鉢>

- A類：瘤を有する…口縁部平縁（406）
- B類：磨消縄文（407）

<壺>

- A類：口縁平縁…
  - a. 口端沈線、瘤有り（408）
  - b. 口端沈線（409）
  - c. 頸部沈線（417）

B類：口縁波状…口端浮文・瘤有り（416）、他に肩部資料として、沈線+刺突文列（411）、磨消縄文（412～414）がある。

<甕>

- A類：二個一対の瘤有り…変形工字文
  - a. 口縁部内反…平縁（421）
- B類：二個一対の瘤無し…頸部横位沈線
  - a. 口縁部外傾（419）

<蓋>

- A類：体部地文（423～426）
- B類：体部無文（427・428）

さて、中沢浜貝塚出土の弥生式土器の時期についてであるが、磨消縄文手法の資料を除くと、田柄貝塚第X群土器・青木畑遺跡・湯舟沢I類土器・君成田IV遺跡第4群第3類土器・谷起島遺跡の一部・馬場野II遺跡第IX群土器に類例を求めることができる。それらの資料と比較する

と、中沢浜貝塚出土の高坏には、波状部に刻目・凹みを有する資料がみられるものの、青木畑遺跡・谷起島遺跡等の出土資料にみられる波状部に突起を有した高坏は出土してはず様相を異にする。縄文的特色の二個一対の瘤を体部や脚部に依然として残し、上記の遺跡の出土資料よりは若干古いように思われる。しかし、それらは層位的に把握したわけではなく、今後の検討を要する。尚、教育委員会では、範囲確認調査の最終年度（昭和63年度）に、Eh40・Fa41付近を再度調査する予定でいる。

磨消縄文手法の資料は、点数も少なく、器形も不明な点が多いが、文様からいえば、湯舟沢Ⅱ類土器にその類例を求めることができる。

#### 第Ⅵ群土器（225）

平安時代の遺物である。ほとんどの資料が細片のため、1点を図示したにすぎない。

#### (2) 土製品

土製円盤12点・土錘1点・土偶2点・土製耳飾り2点・器種不明品1点が出土した。

#### (3) 石器・石製品

石鏃36点（無茎石鏃16点・有茎石鏃20点）、尖頭器11点、石錐25点、石匙5点、ピース・エスキュー4点、石錘1点、打製石斧1点・不定形石器37点、石製円盤10点、石棒2点、磨製石斧3点、石刀1点、装身具1点が出土した。

#### (4) 鉄製品・古銭

鉄製釣針3点・器種不明鉄製品2点・古銭2点が出土した。

#### (5) 骨角器

釣針9点、釣針未製品2点、銚頭6点、根ばさみ2点、ヤス1点、挟み込み式ヤス鏃先2点、鏃4点、骨篋19点、刺突具13点、へら状骨器1点、装身具4点、器種不明品3点が出土した。

#### (6) 中沢浜貝塚出土動物遺存体種名一覧表

##### I. 軟体動物 MOLLUSCA

##### i 腹足綱 GASTROPODA

1. エゾアワビ *Nordotis discus hannai* (INO)
2. サルアワビガイ *Tugalina gigas* (v. MARTENS)
3. ユキノカサガイ *Acmaea (Niveotectura) pallida* (GOULD)

4. イシダタミガイ *Monodonta labio* (LINNÉ)
5. クボガイ *Chlorostoma argyrostoma lischkei* (TAPPARONE-CANEFRI)
6. コシタカガンガラ *Omphalius rusticus* (GMELIN)
7. スガイ *Lunella coronata* (GMELIN)
8. タマキビガイ *Littorina brevicula* (PHILIPPI)
9. クロタマキビガイ *Neritrema sitkana kurila* (MIDDENDORFF)
10. オオヘビガイ *Serpulorbis (Cladopoda) imbricatus* (DUNKER)
11. ウミニナ *Batillaria multiformis* (LISCHKE)
12. ツメタガイ *Neverita (Glossaulax) didyma* (RÖDING)
13. エゾタマガイ *Tectonatica janthostomoides* KURODA et HABE
14. ヒレガイ *Ceratostoma burnetti* (A. ADAMS et REEVE)
15. アカニシ *Rapana thomasiana* CROSSE
16. チヂミボラ *Nucella heyseana* (DUNKER)
17. エゾチヂミボラ *Nucella freycineti* (DESHAYES)
18. レイシガイ *Thais bronni* (DUNKER)
19. イボニシ *Thais clavigera* (KÜSTER)
20. ヒメエゾボラ *Neptunea arthritica* (BERNARDI)
21. ミガキボラ *Kellettia lischkei* KURODA
22. エゾバイ科の一種 *Buccinidae gen. et sp. indet.*
23. オカチョウジガイ *Allopeas kyotoensis* (PILSBRY et HIRASE)
24. パツラマイマイ *Discus pauper* (GOULD)

ii 掘足綱 SCAPHOPODA

1. ヤカドツノガイ *Dentalium (Paradentalium) octangulatum* DONOVAN

iii 二枚貝綱 BIVALVIA

1. タマキガイ *Glycymeris (Veletuceta) vestita* (DUNKER)
2. ムラサキインコガイ *Septifer (Mytilisepta) virgatus* (WIEGMANN)
3. イガイ *Mytilus coruscus* GOULD
4. イタヤガイ科の一種 *Pectinidae gen. et sp. indet.*
5. エゾキンチャクガイ *Chlamys (Swiftopecten) swifti* (BERNARDI)
6. マガキ *Crassostrea gigas* (THUNBERG)
7. シジミガイ科の一種 *Corbiculidae gen. et sp. indet.*

8. ウチムラサキガイ *Saxidomus purpuratus* (SOWERBY)  
 9. ハマグリ *Meretrix lusoria* (RÖDING)  
 10. コタマガイ *Gomphina (Macridiscus) melanaegis* RÖMER  
 11. アサリ *Tapes (Amygdala) philippinarum* (A. ADAMS et REEVE)  
 12. ウバガイ *Spisula (Pseudocardium) sachalinensis* (SCHRENCK)  
 13. ゴイサギガイ *Macoma tokyoensis* MAKIYAMA  
 14. オオノガイ *Mya (Areenomya) arenaria oonogia* MAKIYAMA

II. 節足動物 ARTHROPODA

i 蔓脚亜綱 CIRRIPIEDIA

1. フジツボ科の一種 *Balanidae gen. et sp. indet.*

III. 棘皮動物 ECHINODERMATA

i 海胆綱 ECHINOIDEA

1. ムラサキウニ *Anthocardaris crassispina* (A. AGASSIZ)  
 2. 蛸枕目の一種 *Clypeastroida fam. indet.*

IV. 脊椎動物 VERTEBRATA

i 軟骨魚綱 CHONDRICHTHYES

1. サメ目の一種 *Lamniformes fam. indet.*  
 2. アオザメ *Isurus glaucus* (MÜLLER et HENLE)  
 3. ツノザメ科の一種 *Squalidae gen. et sp. indet.*  
 4. エイ目の一種 *Rajida fam. indet.*

ii 硬骨魚綱 OSTEICHTHYES

1. サケ科の一種 *Salmonidae gen. et sp. indet.*  
 2. マグロ類 *Thunnus thynnus* (LINNÉ)  
 3. カツオ *Katsuwonus pelamis* (LINNÉ)  
 4. マカジキ科の一種 *Istiophoridae gen. et sp. indet.*  
 5. ブリ *Seriola quinqueradiata* TEMMINCK et SCHLEGEL  
 6. カンパチ *Seriola purpurascens* TEMMINCK et SCHLEGEL  
 7. スズキ *Lateolabrax japonicus* (CUVIER et VALENCIENNES)  
 8. マダイ *Pagrus major* (TEMMINCK et SCHLEGEL)  
 9. クロダイ *Acanthopagrus schlegelii* (BLEEKER)  
 10. フグ目 *Tetraodontida fam. indet.*  
 11. カワハギ科の一種 *Monacanthidae gen. et sp. indet.*

12. カサゴ科の一種 *Scorpaenidae gen. et sp. indet.*
13. アイナメ *Hexagrammos otakii JORDAN et STARKS*
14. ヒラメ *Paralichthys olivaceus (TEMMINCK et SCHLEGEL)*
15. カレイ科の一種 *Pleuronectidae gen. et sp. indet.*
16. マダラ *Gadus macrocephalus TILESII*
- iii 爬虫綱 REPTILIA
1. ウミガメ科の一種 *Cheloniidae gen. et sp. indet.*
- IV 鳥綱 AVES
1. キジ科の一種 *Phasianidae gen. et sp. indet.*
2. ウミネコ *Larus crassirostris VIEILLOT*
3. アホウドリ科の一種 *Diomedidae gen. et sp. indet.*
4. ハシボソミズナギドリ *Puffinus tenuirostris (TEMMINCK)*
5. ミズナギドリ科の一種 *Procellariidae gen. et sp. indet.*
6. ウ科の一種 *Phalacrocoracidae gen. et sp. indet.*
7. ワシ・タカ科の一種 *Accipitridae gen. et sp. indet.*
- V 哺乳綱 MAMMALIA
1. ウサギ科 *Leporidae sp. indet.*
2. ネズミ科 *Muridae sp. indet.*
3. タヌキ *Nyctereutes procyonoides GRAY*
4. キツネ *Vulpes vulpes (LINNÉ)*
5. イヌ *Canis familiaris (LINNÉ)*
6. オオカミ *Canis lupus hodophilax (TEMMINCK)*
7. オットセイ *Callorhinus ursinus (LINNÉ)*
8. イノシシ *Sus scrofa LINNÉ*
9. シカ *Cervus nippon TEMMINCK*
10. ウシ *Bos taurus*
11. クジラ類 *Cetacea fam. indet.*
12. イルカ科の一種 *Delphinidae gen. et sp. indet.*

以上は今回の分布調査によって得られた動物遺存体の主な種である。現段階までに貝類39種、節足動物1種、棘皮動物2種、脊椎動物では魚類20種、爬虫類1種、鳥類7種、哺乳類12種の合計82種が確認されているが、目や属あるいは科の段階までしか同定できない資料も含まれている。このほかにもボーリング資料などの未同定のものや種不明となっている破碎の著しい貝

や骨片があり、今後新たに種の数も追加される可能性がある。

またこれらの取り上げ資料のほかにも、当然含まれていることが考えられる例えばイワシ類などの遺存体もあると思われるが、フルイ分析以外は得られにくい資料であり、今回の調査では明らかにされていない。

本稿では、発掘時の目につき安い保存状態の良好な資料のうち、同定された種の出土表を前掲しているにすぎないが、大部分は分布が確認された貝層以外からの出土であり、さらに詳しい検討を要すると思われる。

しかしながら、これらの動物遺存体は、中沢浜貝塚を中心とした生業のあり方、あるいは広田湾沿岸を中心とした動物の生息域などの一端を示す資料であり、特に家牛の飼育を予測させる資料を含め、改めて中沢浜貝塚の持つ情報量のそして意義の大きさを知ることのできる資料である。

なお、種及び部位などの同定にあたっては、主として当市立博物館で所蔵している貝類標本や哺乳類、魚類、鳥類などの現生骨格標本を使用して行っているが、哺乳類をはじめとする大部分の資料の種同定は、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏に來市いただき、多くの標本との比較検討を行っていただいている。特にウシ上顎歯に関しては同定結果並びに所見などをいただき記して感謝申し上げる次第である。

また、種名などの記載にあたっては、主に北隆館の『新日本動物図鑑〔中〕〔下〕』（岡田内田監修：1965）を用いたほか、保育社の『原色日本貝類図鑑』（吉良：1954）、『続原色日本貝類図鑑』（波部：1961）、『標準原色図鑑／別巻「動物Ⅱ」』（林：1968）を参考としている。

#### 主な引用・参考文献

嶋千秋・鈴木隆英（1985. 3）：「曲田Ⅰ遺跡発掘調査報告書」 『岩手県埋文センター文化財調査報告書』 第87集

玉川一郎他（1974. 2）：「崎山弁天遺跡」 大槌町教育委員会

小田野哲憲他（1977. 9）：「谷起島遺跡第一次発掘調査報告書」 一関市教育委員会

草間俊一・金子浩昌（1971. 11）：「貝鳥貝塚」 花泉町教育委員会

加藤道男（1982. 3）：「青木畑遺跡」 『宮城県文化財調査報告書』 第85集

阿部恵・手塚均・笠原信男他（1986. 3）「田柄貝塚」 宮城県教育委員会

小井川和夫・岡村道雄（1985. 3）「里浜貝塚Ⅳ」 東北歴史資料館

(7) 中沢浜貝塚出土人骨

百々幸雄・石田肇

札幌医科大学解剖学教室

**Dh 29区 5 層人骨** (縄文晩期中葉)

右大腿骨の上半部が残るのみである(写真15)。骨頭横径は39mm、骨体上部最大径は28mmで、いづれも津雲貝塚人女性平均と大差がない。おそらく**成人女性**の大腿骨であろう。最小径、最大径を用いた上部横断示数は75.0で、扁平度はそれほど強くない。殿筋粗面の発達はかなり強く、転子下容も明瞭である。粗線の発育はそれほど良好ではなく、骨体の柱状形成は中等と思われる。骨頭関節面に病的変化はない。

**Eb 37区 1 層人骨** (時期不明)

頭蓋冠の破片が二点、右大腿骨々体上部の破片、左上腕骨々体中央部の破片が残存する。大腿骨はその大きさから判断して、明らかに**成人男性**のものである。

**Dj 37区 8 層人骨** (時期不明)

頭蓋冠の小破片のみである。

**Eb 37区 4 層人骨** (時期不明)

22mm×20mmほどの頭蓋冠の破片が残存するのみである。

**Eb 37区 5 層人骨** (時期不明)

頭蓋冠の小破片が五点残存する。骨の厚さからみて、**成人**のものと考えてさしつかえないようである。

**Eb 37区 8 層人骨** (時期不明)

頭蓋冠の細片六点と歯一点が残存する。歯は小臼歯と思われるが、歯冠の大部分を欠損するので、上下の鑑別はできない。歯根は完成しているが、二次的なセメント質の増殖がほとんどみられないので、**成人**であっても比較的若い年齢段階にあったものと思われる。

**Eb 37区 9 層人骨** (時期不明)

頭蓋冠の小破片のみである。

**Fa 41区 6 層人骨** (時期不明)

矢状縫合の一部を含む頭蓋冠の小破片である。

**Eh 40区 3 層人骨** (時期不明)

前頭骨の一部と思われる小破片である。縫合は冠状縫合のようであるが、磨滅があり、正確に判定できない。厚さからみて、明らかに**成人**のものである。

**Dh 30区 4 層人骨**（時期不明）

前後径55mm，左右径40mmの比較的大きな前頭骨の破片である。ブregマに近いと思われる部位で厚さは8 mm強である。明らかに**成人**のものである。

注1) 清野謙次・平井 隆，1928：津雲貝塚人々骨の人類学的研究・第4部・下肢骨の研究。人類学雑誌 43巻 第4附録。



斜面部上位Dh29区、Dh30区調査前の状況(北より)



Dh29区、Dh30区 発掘作業風景(西より)

写真1



Dh29区、Dh30区 貝層及び遺物検出状況(東より)



Dh29区 遺物出土状況

写真2



Dh30区 遺物出土状況



Dh30区 遺物出土状況

写真3



斜面部中位 Dj37区、Dj38区、Eb37区 調査前の状況(東より)



Dj37区 調査状況(北より)

写真4

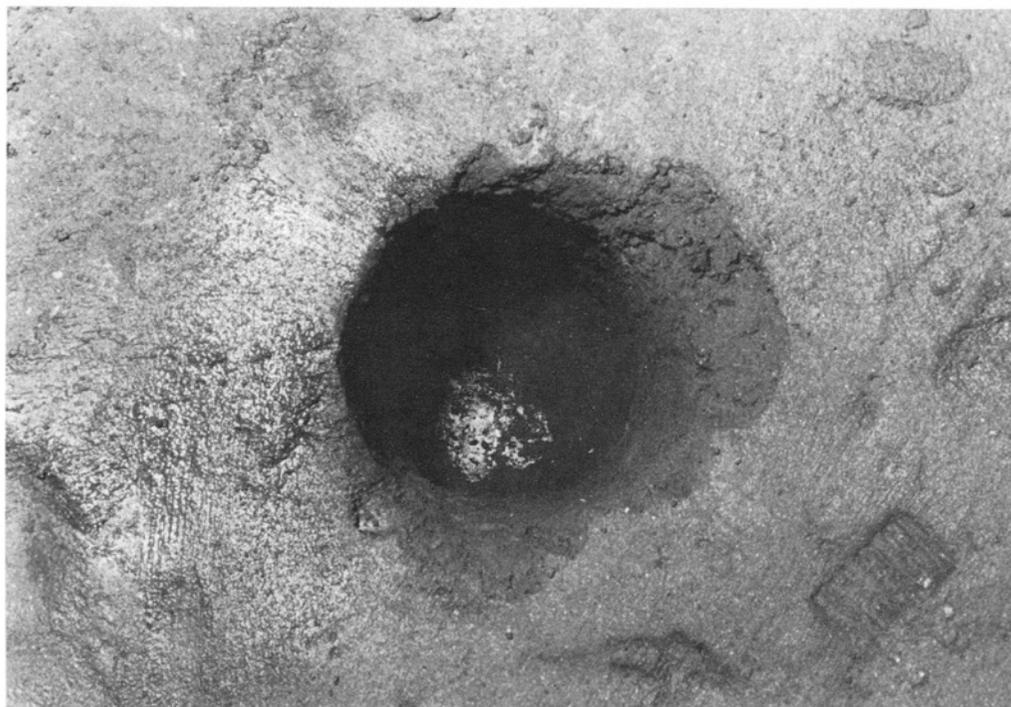


Dj38区 調査状況 (南より)



Ed37区 調査状況 (北より)

写真5



Dj37区 ボーリング坑からの貝層検出状況



Dj37区 貝層及び遺物検出状況

写真6

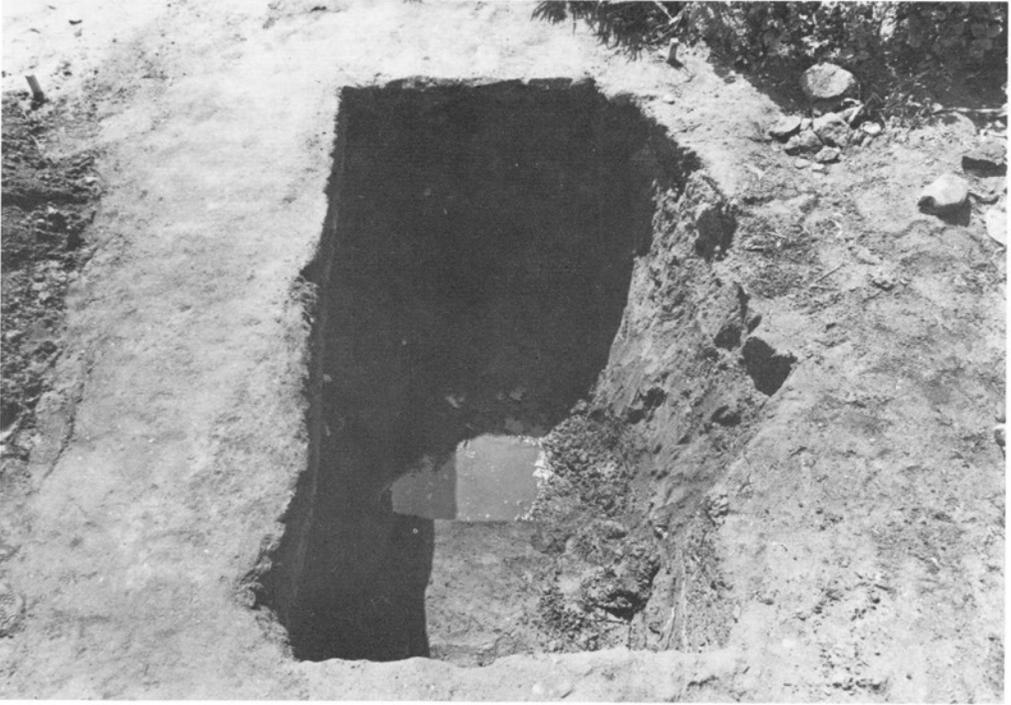


斜面部東側中位Ea40区、Ed40区調査前の状況(南より)

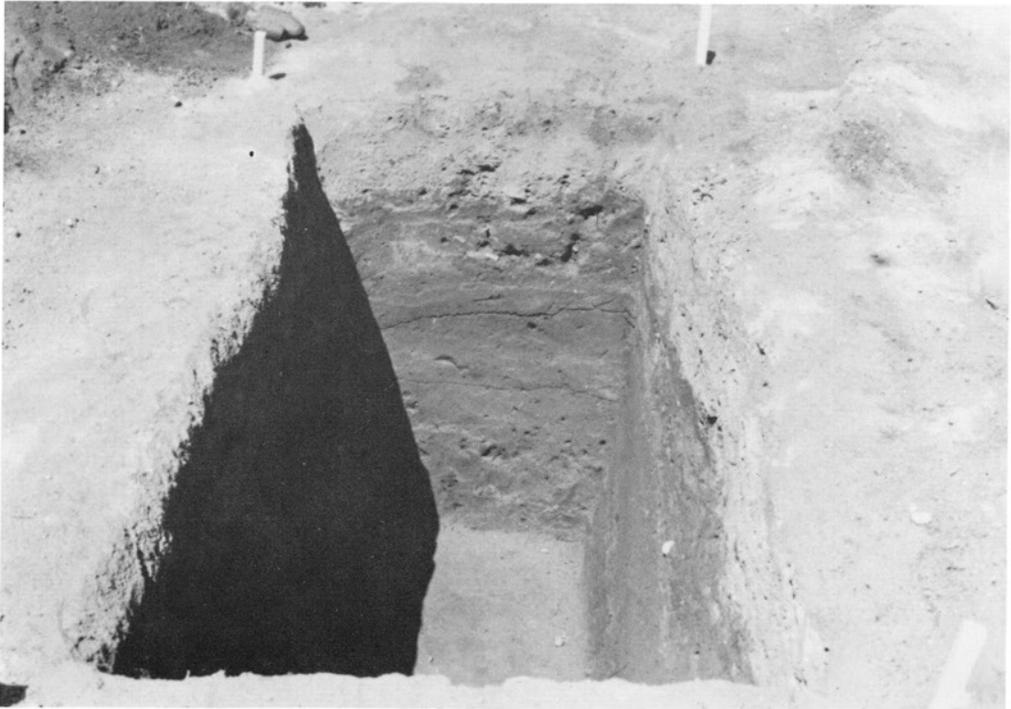


Ed40区 埋戻し作業風景

写真7



Ed40区 調査状況（東より）



Ed40区 調査状況（東より）

写真8



斜面部東側下位Eh40区、Fa41区 調査前の状況(北より)



斜面部東側下位Eh40区、Fa41区 調査前の状況(南より)

写真9



Fh40区 調査状況 (北西より)



Fa41区 発掘作業風景 (北東より)

写真10



Eh40区 発掘作業風景



Eh40区 遺物出土状況

写真11



Eh40区 ウシ上顎歯出土状況



Eh40区 土器出土状況

写真12

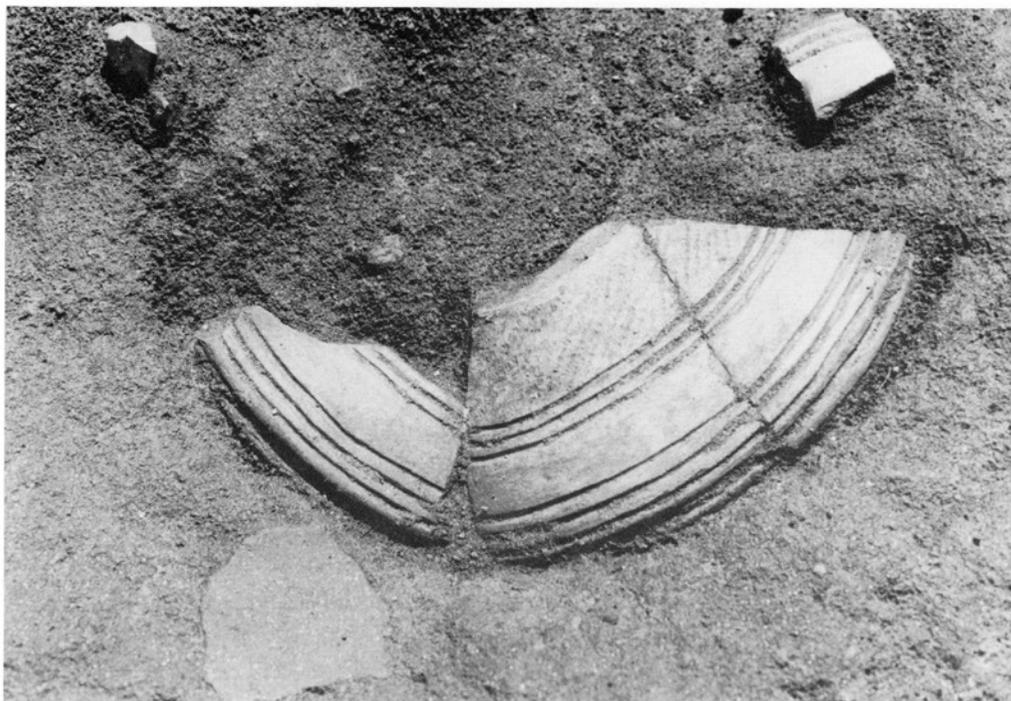


Fa41区 遺物出土状況



Fa41区 土器出土状況

写真13



Fa41区 土器出土状況



Fa41区 土器出土状況

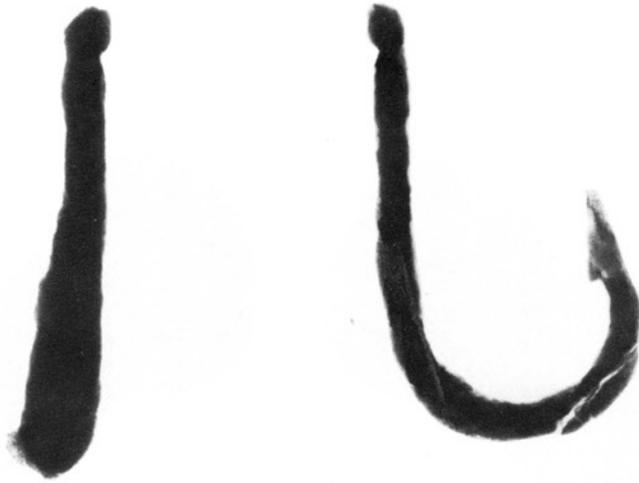
写真14



Dh29 出土人骨(縄文晚期中葉)

a:正面観 b:後面観

写真15



Dj 37 出土鉄製釣針 (×1.9)



Eh 40 出土ウシ上顎歯 (×1.7)

写真16

岩手県陸前高田市

## 中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅲ

(陸前高田市埋蔵文化財報告書第11集)

発行日 1987年3月

編集・発行 陸前高田市教育委員会  
岩手県陸前高田市高田町字館の沖110  
TEL (0192) 54-2111

印刷 高田活版所  
岩手県陸前高田市高田町字大町5  
TEL (0192) 55-2694